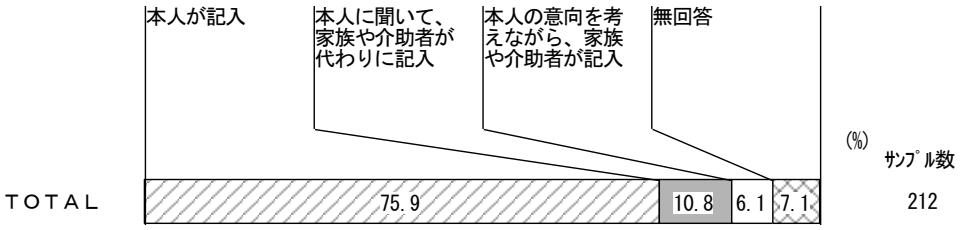
1 基本的な属性

（１）調査票記入者

問１ この用紙（調査票）に記入されるのはどなたですか。（○は１つ）

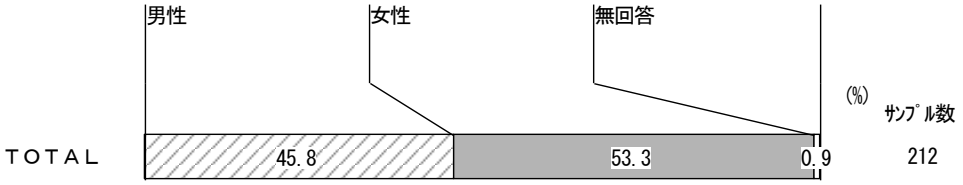
「本人が記入」が 75.9%、「本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入」が 10.8%、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」は 6.1%である。



（２）性別

問２ あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

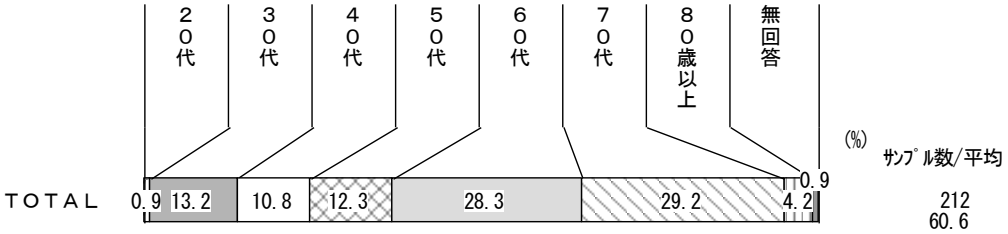
男性が 45.8%、女性が 53.3%である。



（３）年齢

問３ あなたの年齢（９月１日現在）を記入してください。

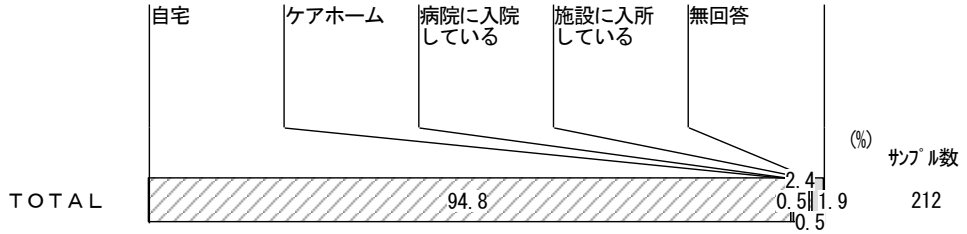
60 代が 28.3%、70 代が 29.2%を占め、平均年齢は 60.6 歳である。



（４）居住場所

問４　現在、あなたはどこで暮らしていますか。（○は１つ）

「自宅」で暮らしている 94.8%、「ケアホーム」が１人（0.5%）、「病院に入院している」が５人（2.4%）、「施設に入所している」が１人（0.5%）、「無回答」が４人（1.9%）である。



（５）同居者

問５　現在、あなたと一緒に暮らしている人はどなたですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

「配偶者」と暮らしている人が約７割（71.2%）、「子ども」と暮らしている人が約４割（40.6%）である。

	自分一人だけで暮らしている	配偶者（夫または妻）	子ども（子どもの配偶者も含む）	父、母	祖父、祖母	兄弟、姉妹	その他の親せき	その他	無回答
n=212	3.3%	71.2%	40.6%	19.8%	0.5%	6.1%	0.9%	2.4%	0.9%

（６）特定疾病の種類

問６　あなたの特定疾病はなんですか。差し支えなければ疾病名をお書きください。

「潰瘍性大腸炎」35 人、「パーキンソン病関連疾患」21 人、「全身性エリテマトーデス」20 人などである。

潰瘍性大腸炎	ﾊﾟｰｷﾝｿﾝ病関連疾患	全身性ｴﾘﾃﾏﾄｰﾃﾞｽ	強皮症･皮膚筋炎･多発性筋炎	後縦靭帯骨化症	橋本病
35	21	20	14	11	11
特発性血小板減少性紫斑病	原発性胆汁性肝硬変	多発性硬化症	脊髄小脳変性症	特発性拡張型(うっ血型)心筋症	ベーチェット病
8	8	7	5	5	4
サルコイドーシス	クローン病	間脳下垂体機能障害	ﾓﾔﾓﾔ病(ｳｨﾘｽ動脈輪閉塞症)	多系統萎縮症	広範脊柱管狭窄症
4	4	4	3	3	3
混合性結合組織病	網膜色素変性症	筋萎縮性側索硬化症	大動脈炎症候群	悪性関節リウマチ	特発性大腿骨頭壊死症
3	3	2	2	2	2
重症筋無力症	スモン	再生不良性貧血	結節性動脈周囲炎	ﾋﾞｭﾙｶﾞｰ病【ﾊﾞｰｼﾞｬｰ病】	重症急性膵炎
1	1	1	1	1	1
特発性間質性肺炎	慢性炎症性脱髄性多発神経炎	原発性抗ﾘﾝ脂質抗体症候群	その他		
1	1	1	2		

※複数回答はそれぞれの疾病にカウント

（７）他の障害の状況

問７　次のうち、あてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでも）

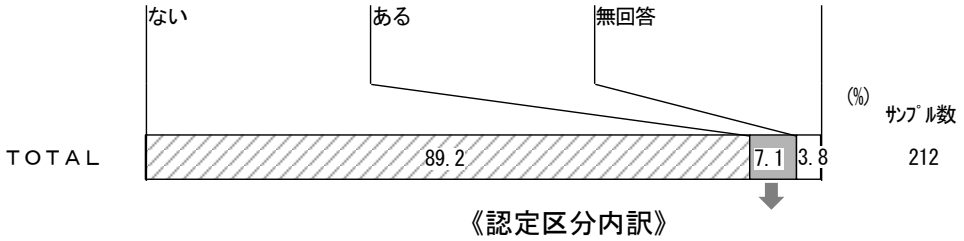
「特定疾病」以外の障害との重複状況をみると、４人に１人は「身体障害者手帳を持っている」（24.1%）ことがわかる。

	身体障害者手帳を持っている	精神障害者保健福祉手帳を持っている	高次脳機能障害と診断されたことがある	上記にあてはまるものはない	無回答
n=212	24.1%	1.4%	1.4%	69.3%	4.7%

（８）障害程度区分

問８ あなたは、障害者総合支援法（障害者自立支援法）に基づく介護給付を受けるために「障害程度区分（６段階）」の認定を受けたことがありますか。ある場合には、区分にも○をつけてください。（○は１つ）

障害程度区分の認定を受けたことがある人は 7.1%である。



	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	非該当	申請中	無回答
n=15	13.3%	26.7%	20.0%	－	6.7%	13.3%	－	6.7%	13.3%

2 介助・援助の状況

（１）主な介助・援助者

問９ ふだん、あなたを主に介助・援助しているのはどなたですか。（○は１つ）

約６割の人は「特に介助・援助は受けていない」（61.3%）が、主な介助・援助者は「配偶者」が 25.0%と最も多い。なお、具体的な介助・援助者を選択した人でみると、「配偶者」が 77.9%を占めている。

	特に介助・援助は受けていない	配偶者	親	子ども	ホームヘルパー	その他	無回答
n=212	61.3%	25.0%	2.4%	2.4%	1.4%	0.9%	6.6%

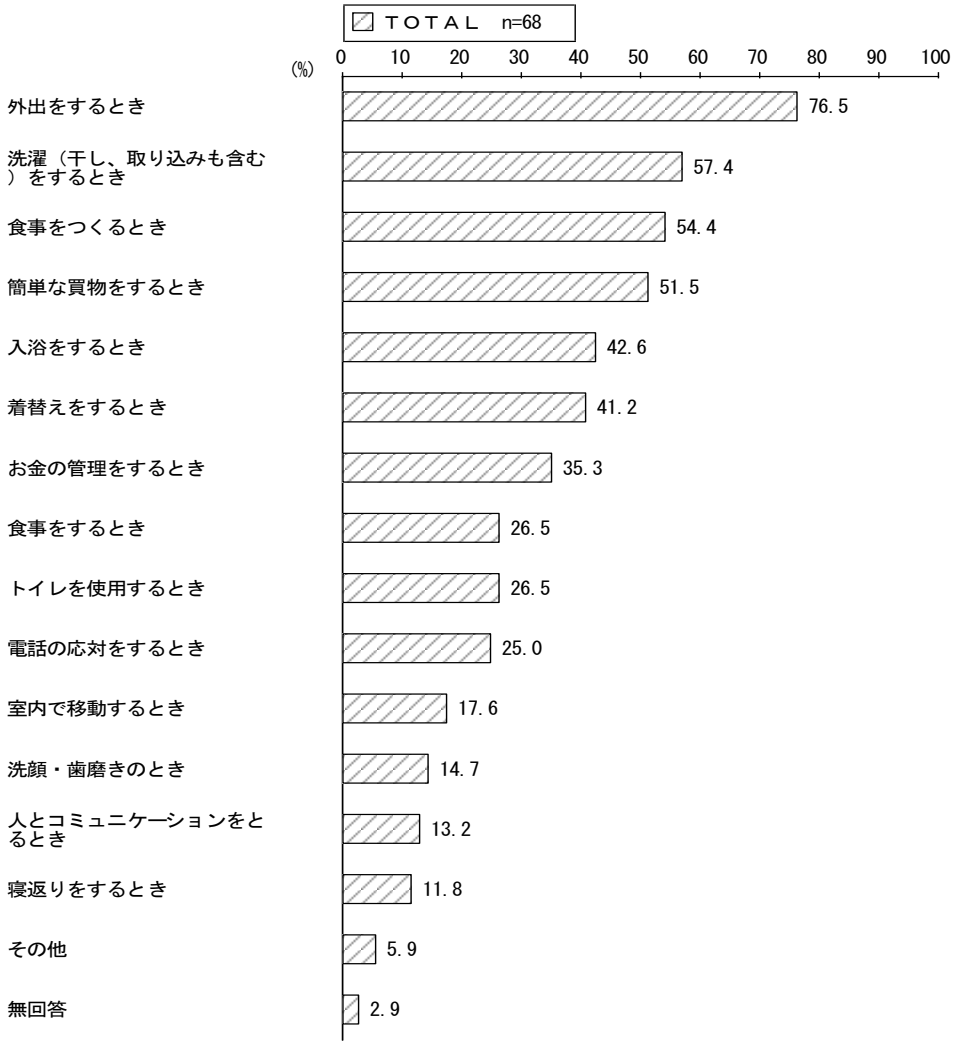
	配偶者	親	子ども	ホームヘルパー	その他
主な介助・援助者に記入あり n=68	77.9%	7.4%	7.4%	4.4%	2.9%

（２）介助・援助を受けている場面

問 10 どのようなときに介助・援助を受けていますか。（○はいくつでも）

［介助・援助を受けている方におききします］

実際に介助・援助を受けている場面としては、「外出をするとき」をあげる人が 76.5%と最も多く、次いで「洗濯（干し、取り込みも含む）をするとき」（57.4%）、「食事をつくるとき」（54.4%）と続いている。

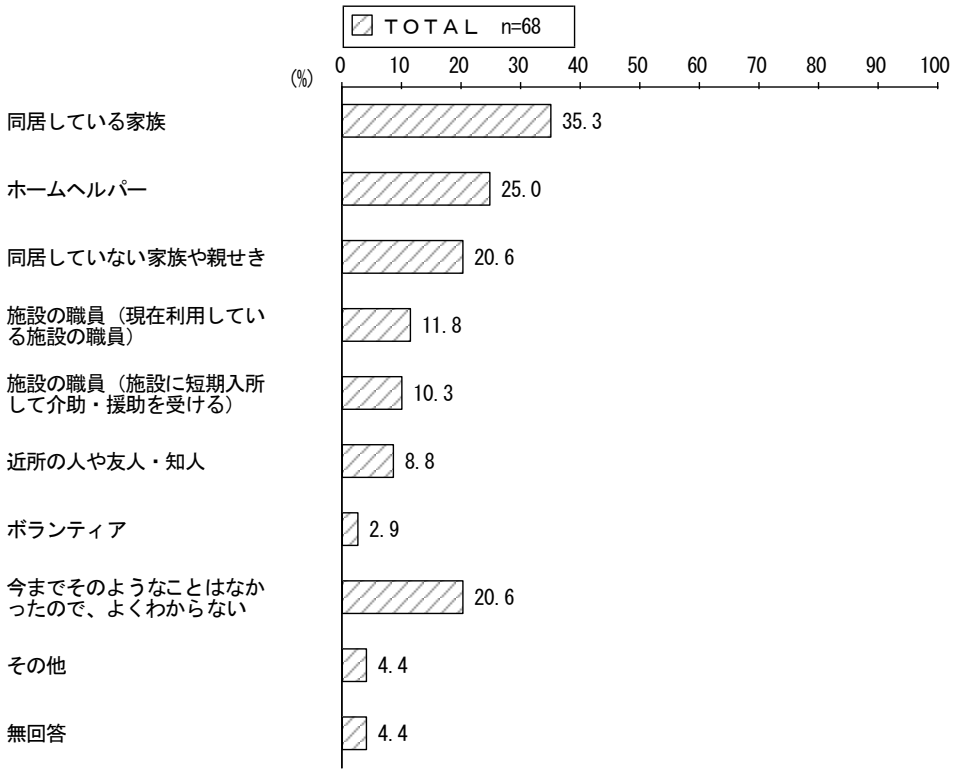


（３）主な介助・援助者が不在のときに希望する対応

問 11 あなたを主に介助・援助している方が、病気のときや外出をしなければならないときなどは、替わりに誰に介助・援助してもらいたいと思いますか。（○はいくつでも）

［介助・援助を受けている方におききします］

主な介助・援助者が不在のときには、替わりに「同居している家族」の介助・援助を希望する人が 35.3%と最も多いが、「ホームヘルパー」を希望する人も 25.0%みられる。

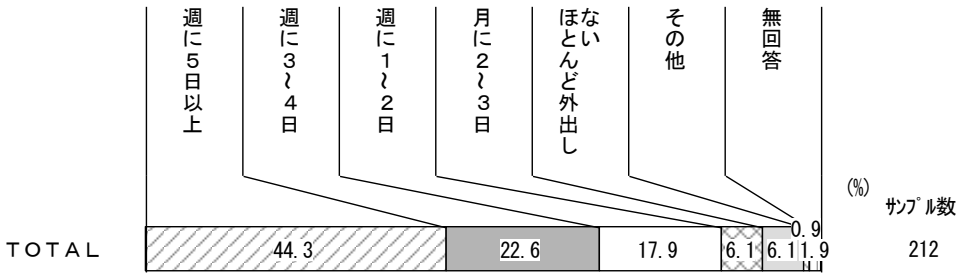


3 外出や余暇活動等の状況

（１）外出頻度

問 12 あなたは、どのくらい外出しますか。通園、通学、通勤、通院、買い物、日常の散歩等すべて含めてお答えください。（○は１つ）

外出の頻度は、「週に５日以上」が 44.3%、「週に３～４日」が 22.6%で、「ほとんど外出しない」人は 6.1%である。



（２）外出をしない理由

問 13 外出をしない理由は何ですか。（○はいくつでも）

［ほとんど外出しない方におききします］

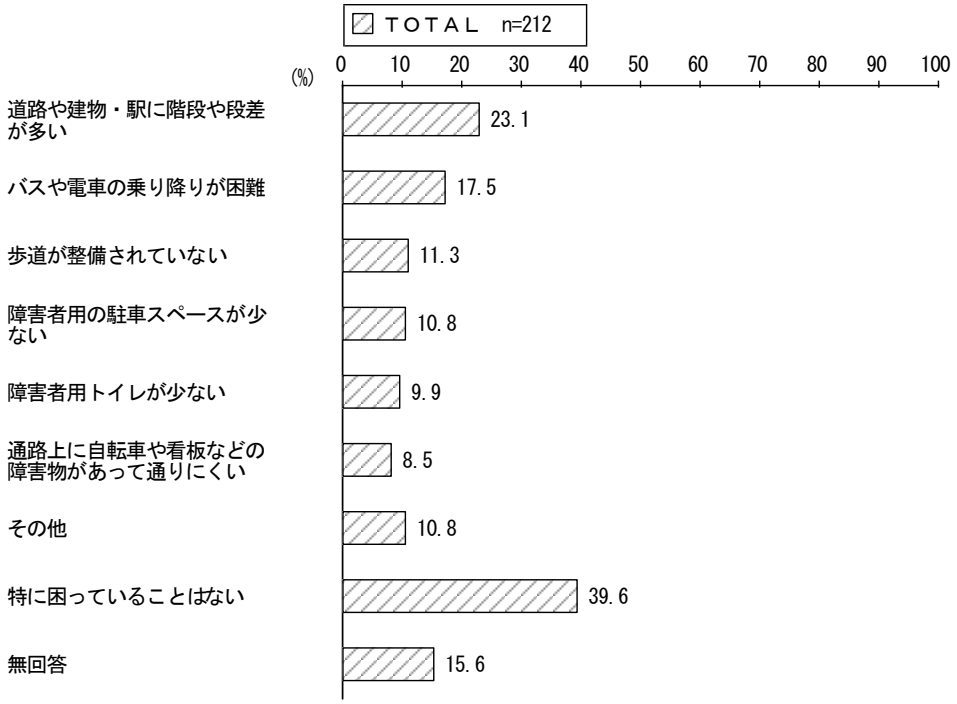
外出をしない理由としては、「乗り物の利用が困難」と「障害が重い（病状が重い）」をあげる人がそれぞれ 13 人中 6 人（46.2%）と最も多い。

	乗り物の利用が困難	障害が重い（病状が重い）	道路や階段が不便・危険	トイレが心配	介護者がいない	お金がかかる	家族に負担がかかる	他人に見られるのがいやだ	人との会話が困難	外出するのがめんどう	行き先がない	その他
n=13	46.2%	46.2%	38.5%	30.8%	30.8%	23.1%	23.1%	23.1%	15.4%	15.4%	15.4%	15.4%

（３）外出の際に困っていること

問 14 外出の際に困っていることはありますか。（○はいくつでも）

外出の際に困っていることとしては、約４割の人が「特に困っていることがない」（39.6%）と回答しているが、あげられた項目としては、「道路や建物・駅に階段や段差が多い」が 23.1%と最も多く、次いで「バスや電車の乗り降りが困難」が 17.5%で続いている。



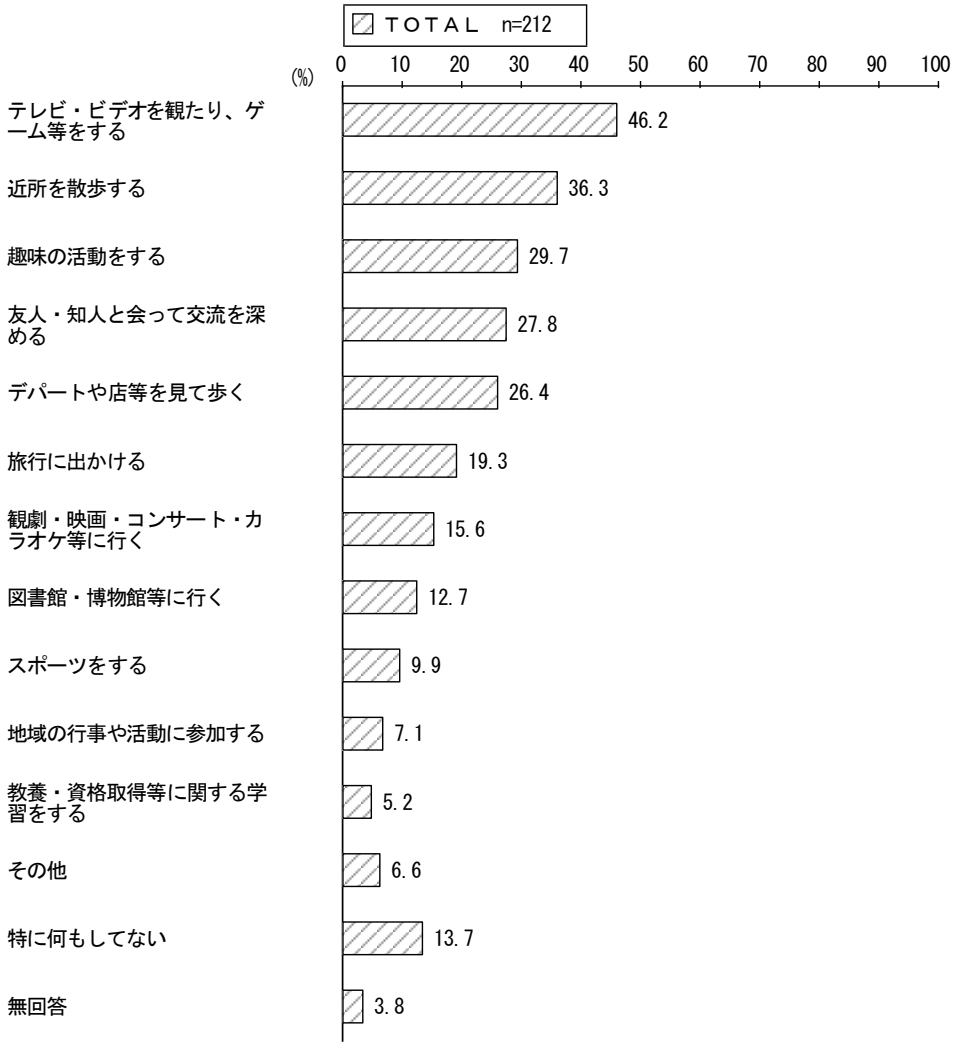
なお、その他の回答としては、次のような記入があった。

- 見た目は健常者なので、具合が悪い時シルバーシートに座りづらい（50 代）
- 外見では障害の有無を理解してもらえないので、時々誤解される（30 代）
- 太陽に当たると体に影響を受けるので昼間の外出が困難です（70 代）
- すぐに便意をもよおす為、トイレがある場所でないと外出できない。（30 代）

（４）現在行っている生涯学習活動・余暇活動

問 15 どのような生涯学習活動や余暇活動をしていますか。（○はいくつでも）

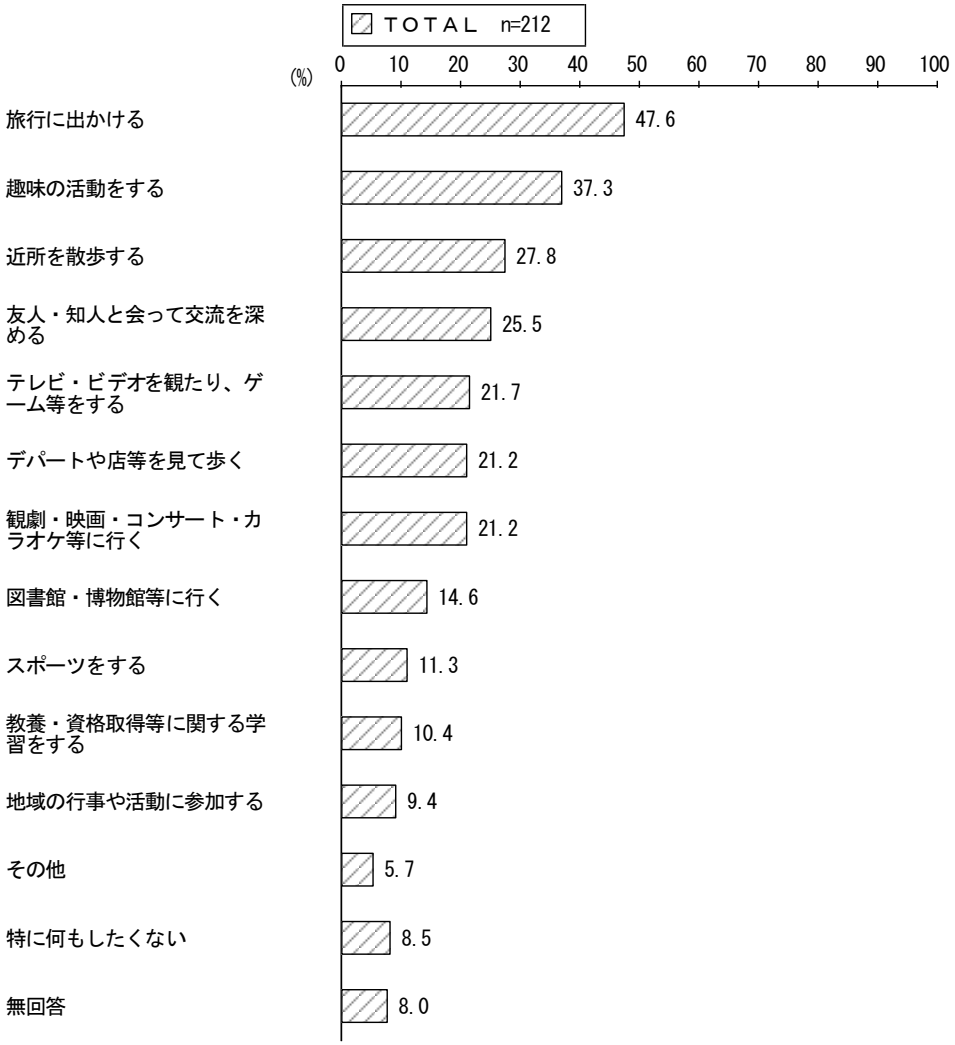
現在行っている生涯学習活動・余暇活動としては、「テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする」人が 46.2%と最も多く、次いで「近所を散歩する」（36.3%）、「趣味の活動をする」（29.7%）と続いている。なお、「特に何もしてない」人が 13.7%みられる。



（５）今後行いたい生涯学習活動・余暇活動

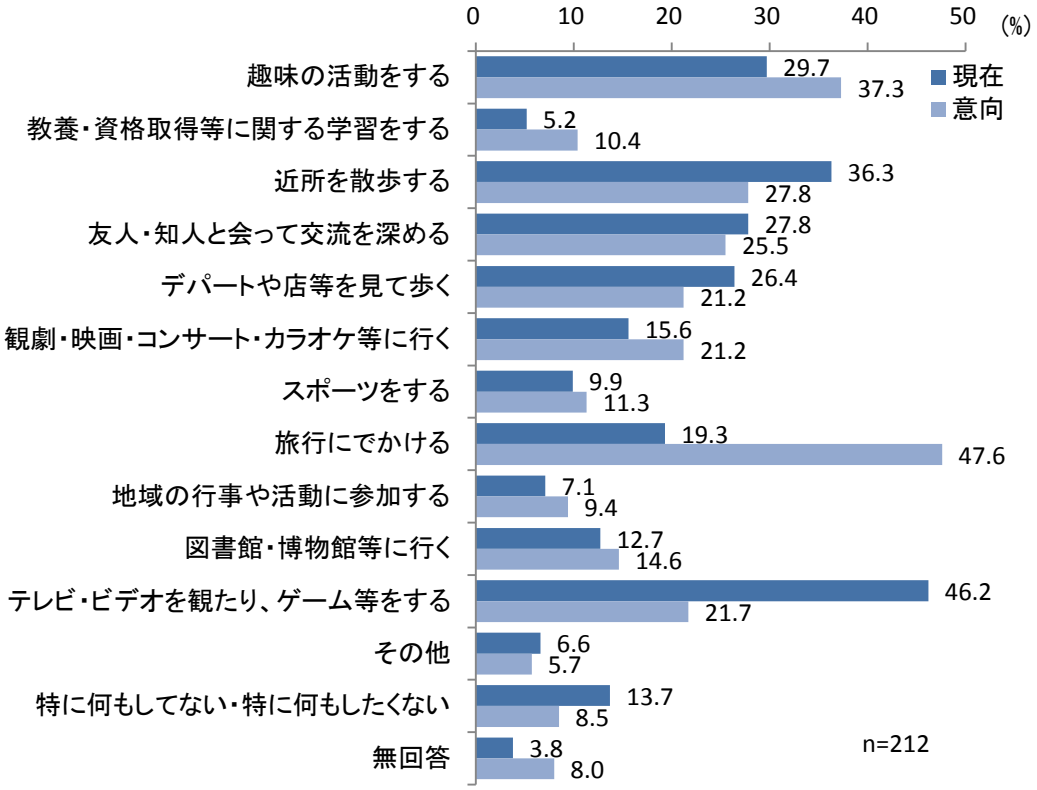
問 16 今後、どのような生涯学習活動や余暇活動をしたいと思いますか。（○はいくつでも）

今後行いたい生涯学習活動・余暇活動としては、「旅行に出かける」をあげる人が 47.6%と最も多い。



実際の活動状況と今後の意向を比べてみると、「旅行」については、実際にでかけている人は 19.3%（意向は 47.6%）にとどまっており、「旅行にでかけたいが、実際には出かけられていない」人が多くいる状況がうかがえる。

《実際の活動状況と今後の意向の比較》



また、現在「特に何もしてない」と回答した 29 人について、今後の意向をみてみると、13 人（44.8%）は今後も「特に何もしたくない」と回答しているが、「無回答」を除く残り 15 人（51.7%）は、今後は何らかの活動を行っていきたいと考えていることがわかる。

《現在「特に何もしてない」人の今後の意向》

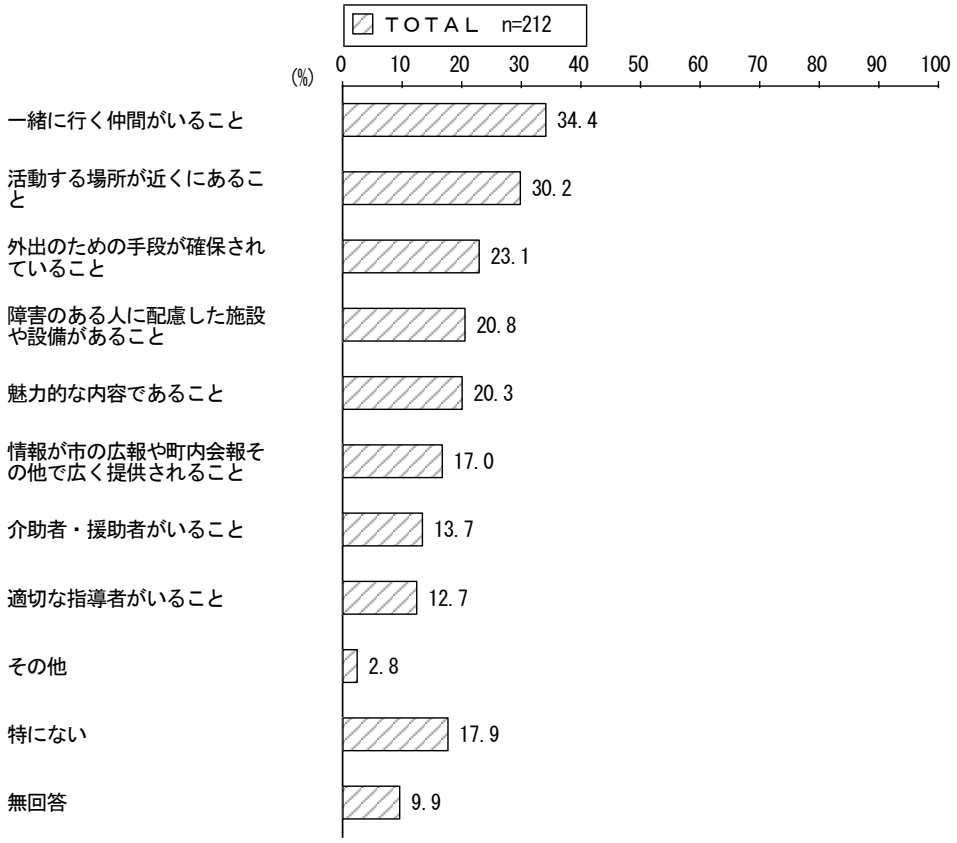
	旅行に出かける	趣味の活動をする	近所を散歩する	友人・知人と会って交流を深める	デパートや店等を見て歩く	スポーツをする	教養・資格取得等に関する学習をする	観劇・映画・コンサート・カラオケ等に行く	テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする	その他	特に何もしたくない	無回答
現在「特に何もしていない」と回答 n=29	24.1%	13.8%	13.8%	10.3%	10.3%	10.3%	6.9%	6.9%	6.9%	6.9%	44.8%	3.4%

29 人中 15 人は「今後は活動したい」と回答

（６）希望する活動を行うために必要な条件

問 17 あなたは、上記のような活動をするために、どのような条件が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

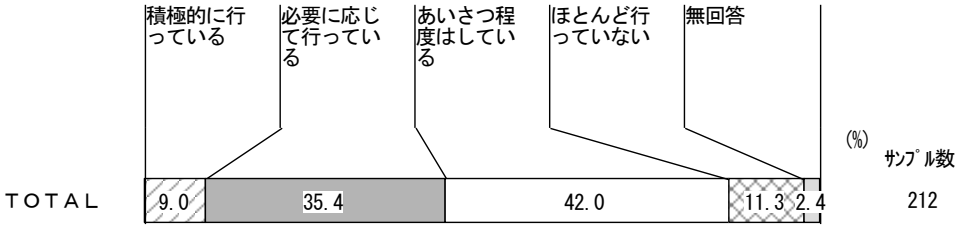
希望する活動を行うために必要な条件としては、「一緒に行く仲間がいること」をあげる人が 34.4%と最も多く、次いで「活動する場所が近くにあること」（30.2%）、「外出のための手段が確保されていること」（23.1%）と続いている。



（７）近所とのつきあいの程度

問 18 ご近所とのおつきあいは、次のどれにあてはまりますか。（○は１つ）

近所とのつきあいの程度は、「あいさつ程度はしている」が 42.0%と最も多く、次いで「必要に応じて行っている」が 35.4%で続いている。

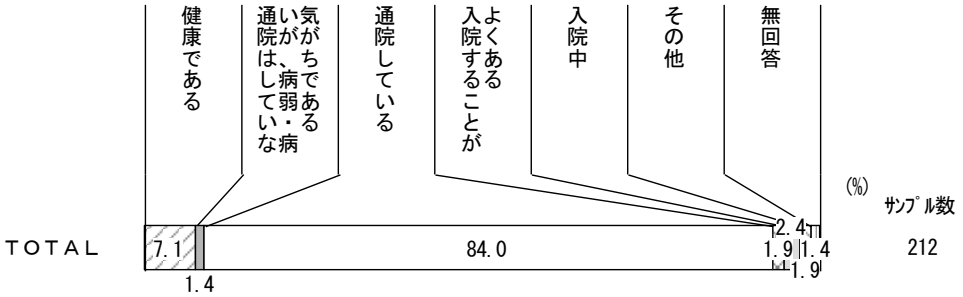


4 健康状態や医療について

（１）最近の健康状態

問 19 あなたの最近の健康状態は、次のうちどれにあてはまりますか。（○は１つ）

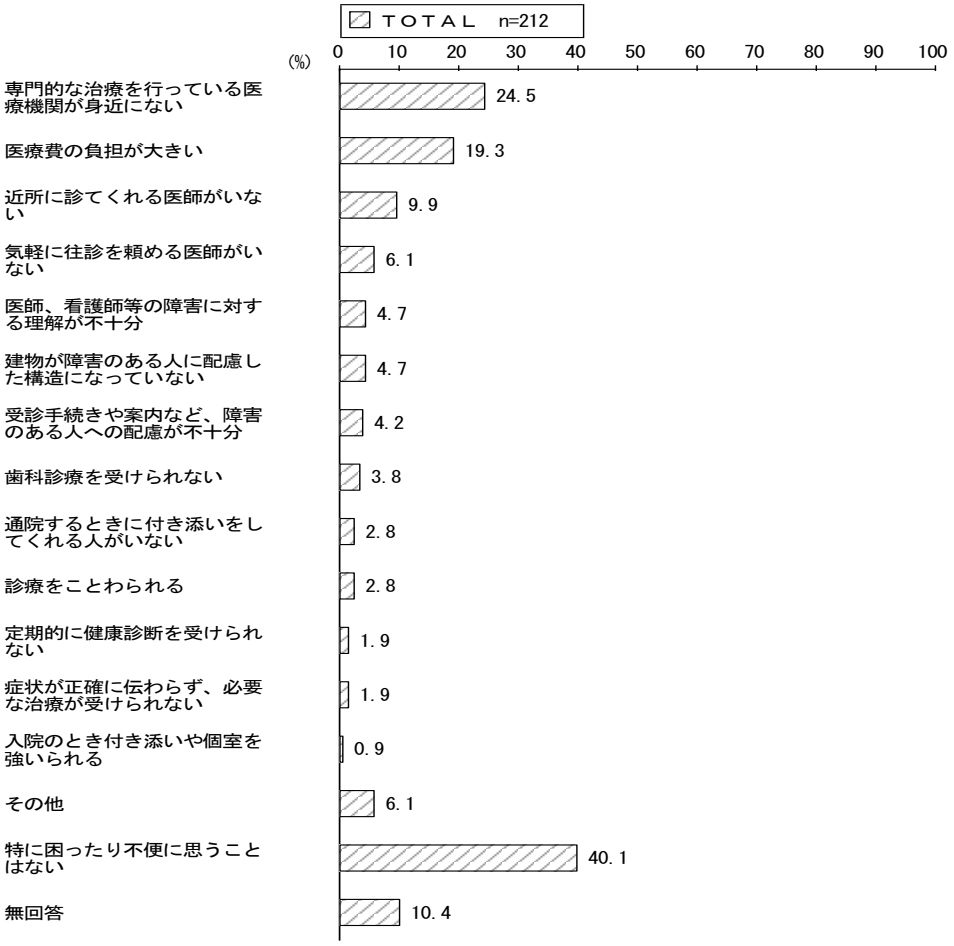
現在「通院している」人が 84.0%、「入院中」の人が 2.4%である。



（２）健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

問 20 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。（○はいくつでも）

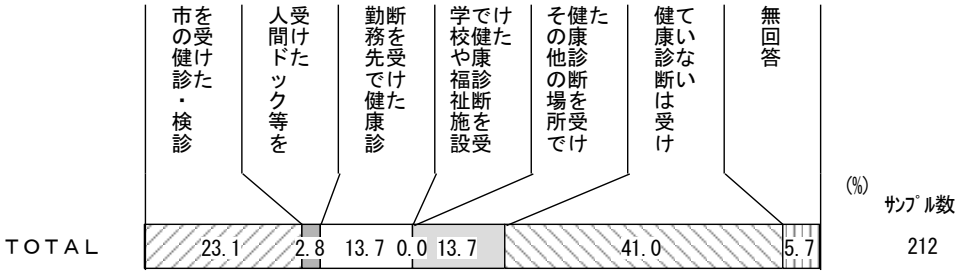
健康管理や医療について困ったり不便に思うこととしては、約４割の人が「特にない」（40.1%）と回答しているが、約４人に１人は「専門的な治療を行っている医療機関が身近にない」（24.5%）、約５人に１人は「医療費の負担が大きい」（19.3%）と感じている。



（３）健康診断（健康診査）の受診状況

問 21 過去１年間に健康診断（健康診査）を受けましたか。（○は１つ）

約４割の人は過去１年間に「健康診断は受けていない」（41.0%）。



5 日中の過ごし方

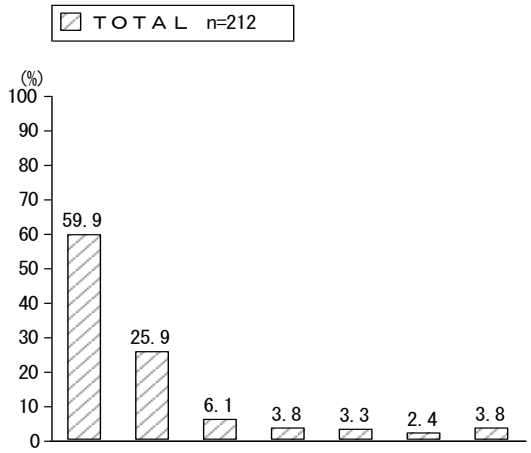
（１）日中の過ごし方

問 22 あなたは、日中をどのように過ごしていますか。（利用しているものに○）

全体でみると、約６割は日中「自宅にいることが多い」（59.9%）状況である。

年代別にみると、40 代では「働いている」（65.2%）人が最も多く、30 代と 50 代では「自宅にいることが多い」と「働いている」が同数となっている。

また、65 歳以上では「福祉の施設（サービス）に通っている」人が約１割（11.4%）いることがわかる。



	問３ 年齢（１０歳刻み）	n	6 自宅にいることが多い	4 働いている	2 福祉の施設（サービス）に通っている	3 病院や施設などで看護・介護を受けている	5 求職中である	7 その他	8 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	212	59.9	25.9	6.1	3.8	3.3	2.4	3.8
3	２０代	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4	３０代	28	42.9	42.9	3.6	0.0	14.3	3.6	0.0
5	４０代	23	30.4	65.2	0.0	0.0	4.3	4.3	0.0
6	５０代	26	46.2	46.2	0.0	0.0	3.8	3.8	3.8
7	６０代	60	71.7	21.7	1.7	1.7	0.0	3.3	1.7
8	７０代	62	74.2	3.2	16.1	8.1	1.6	0.0	6.5
9	８０歳以上	9	55.6	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	22.2
10	無回答	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
（別掲）	６５歳以上	105	72.4	6.7	11.4	6.7	1.0	1.9	5.7

6 幼稚園・保育園・学校について

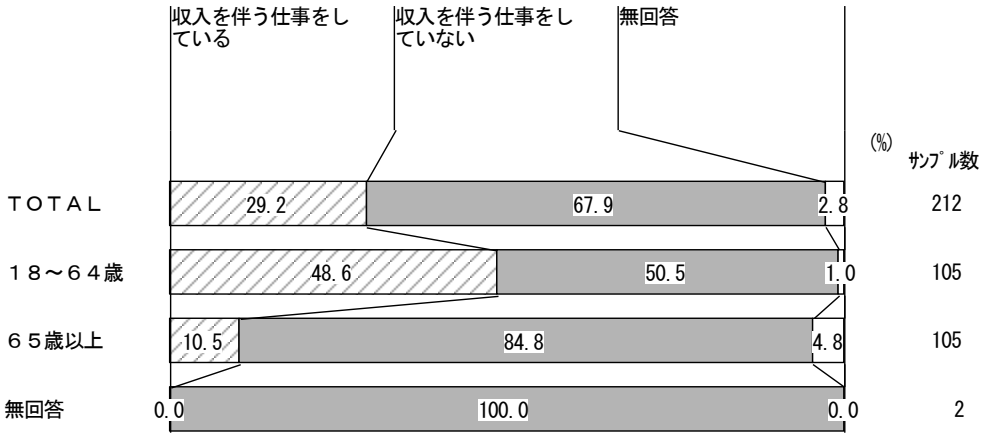
今回の調査では、幼稚園・保育園・学校に通っている回答者はいなかった。

7 雇用・就労について

（１）収入を伴う仕事の有無

問 26 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。（○は１つ）

現在、「収入を伴う仕事をしている」人は約３割（29.2%）である。
年代別にみると、「18～64 歳」では、約半数の人が「収入を伴う仕事をしている」（48.6%）。

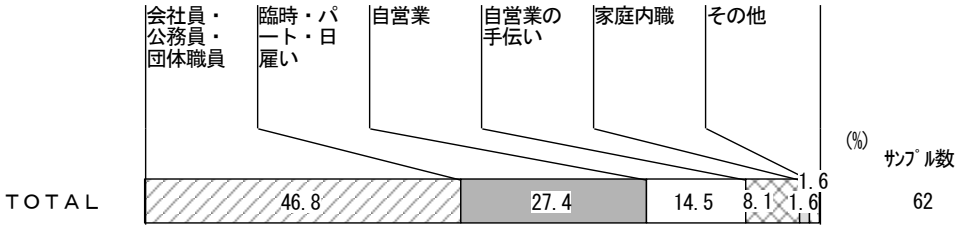


（２）仕事の形態

問 27 仕事の形態は次のうちどれですか。（○は１つ）

［収入を伴う仕事をしている人におききします］

仕事の形態は、「会社員・公務員・団体職員」が 46.8%、「臨時・パート・日雇い」が 27.4%、「自営業」が 14.5%となっている。



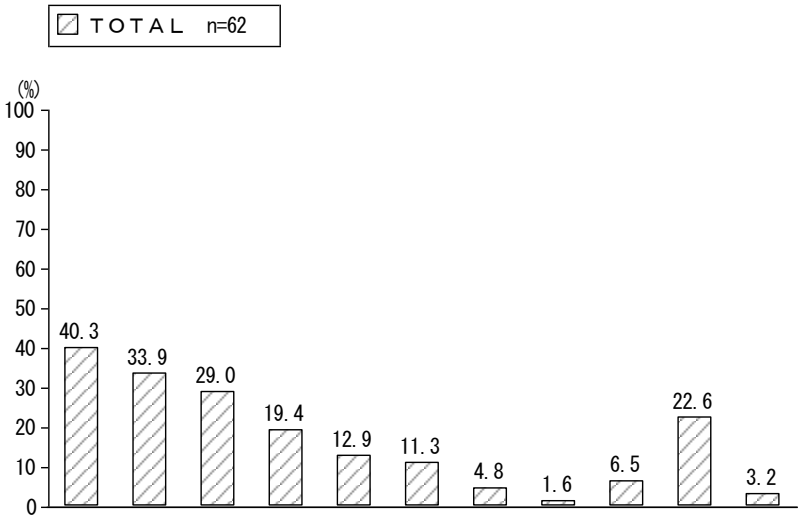
（３）仕事で困ること、つらいこと

問 28 仕事をする上で困ったり、つらいことは主にどのようなことですか。（○はいくつでも）

［収入を伴う仕事をしている人におききします］

仕事をする上で困ったり、つらいこととしては、「体調のコントロールが難しい」ことをあげる人が 40.3%と最も多く、次いで「収入が少ない」（33.9%）、「仕事がきつい」（29.0%）と続いている。

仕事の形態別にみると、「会社員・公務員・団体職員」では、「通勤がたいへん」が 34.5%と２番目に多くあげられている。



	問２７ 就労形態	n	9 体調のコントロールが難しい	2 収入が少ない	3 仕事がきつい	1 通勤がたいへん	5 職場の人間関係	6 職場の中の環境の未整備（トイレ、休憩室等）	4 仕事が合わない	8 コミュニケーションができない	10 その他	11 特に困ったり、つらいことはない	12 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	62	40.3	33.9	29.0	19.4	12.9	11.3	4.8	1.6	6.5	22.6	3.2
1	会社員・公務員・団体職員	29	48.3	27.6	31.0	34.5	17.2	20.7	3.4	3.4	6.9	17.2	0.0
2	臨時・パート・日雇い	17	41.2	52.9	35.3	11.8	17.6	5.9	11.8	0.0	0.0	17.6	5.9
3	自営業	9	11.1	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	55.6	11.1
4	自営業の手伝い	5	40.0	20.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
5	家庭内職	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
7	その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

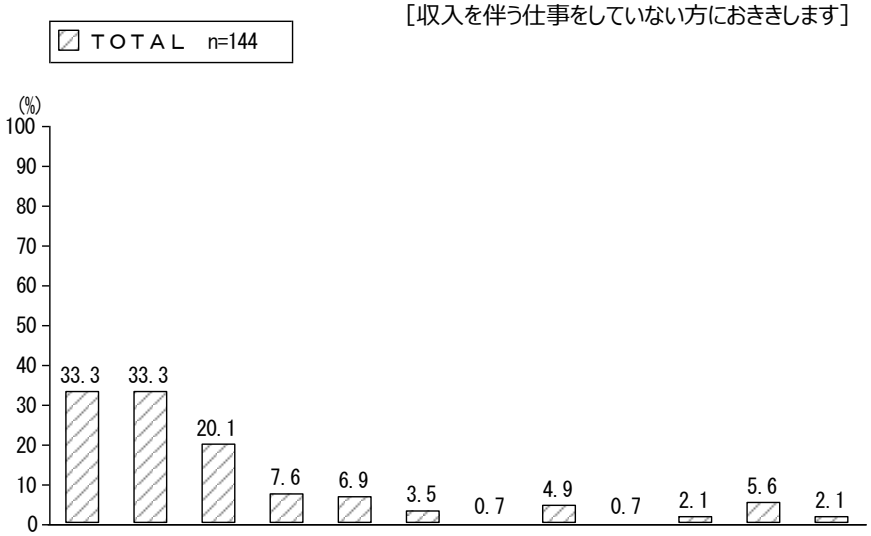
（４）仕事をしていない理由

問 29 仕事をしていない主な理由は何ですか。（○はいくつでも）

［収入を伴う仕事をしていない方におききします］

仕事をしていない理由としては、「病気」と「高齢」がそれぞれ 33.3%と最も多い。

年代別にみると、「18～64 歳」では、「病気」をあげる人が 43.4%と最も多く、次いで「障害が重い」が 17.0%で続いている。



	問３ 年齢（３区分）	n	2 病気	10 高齢	1 障害が重い	4 職場がない	9 家事・妊娠・育児	7 通勤が困難	6 労働条件が悪いから	12 その他	13 仕事をしたくない	14 仕事をする必要がない	15 自分の希望する仕事が見つからない	16 無回答
0	TOTAL	144	33.3	33.3	20.1	7.6	6.9	3.5	0.7	4.9	0.7	2.1	5.6	2.1
2	１８～６４歳	53	43.4	5.7	17.0	13.2	13.2	7.5	1.9	11.3	0.0	1.9	11.3	1.9
3	６５歳以上	89	27.0	48.3	21.3	4.5	3.4	1.1	0.0	1.1	1.1	2.2	2.2	2.2
4	無回答	2	50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

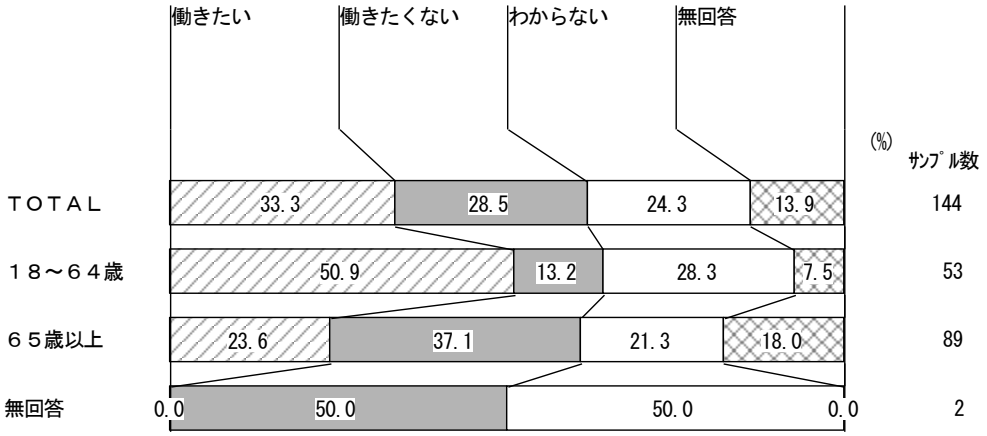
（５）就労意向

問 30 今後、自分の健康や通勤の可能性等、条件が整っていれば働きたいと思いますか。（○は１つ）

［収入を伴う仕事をしていない方におききします］

現在、収入を伴う仕事をしていない人のうち 33.3%の人は、条件が整えば「働きたい」と考えている。

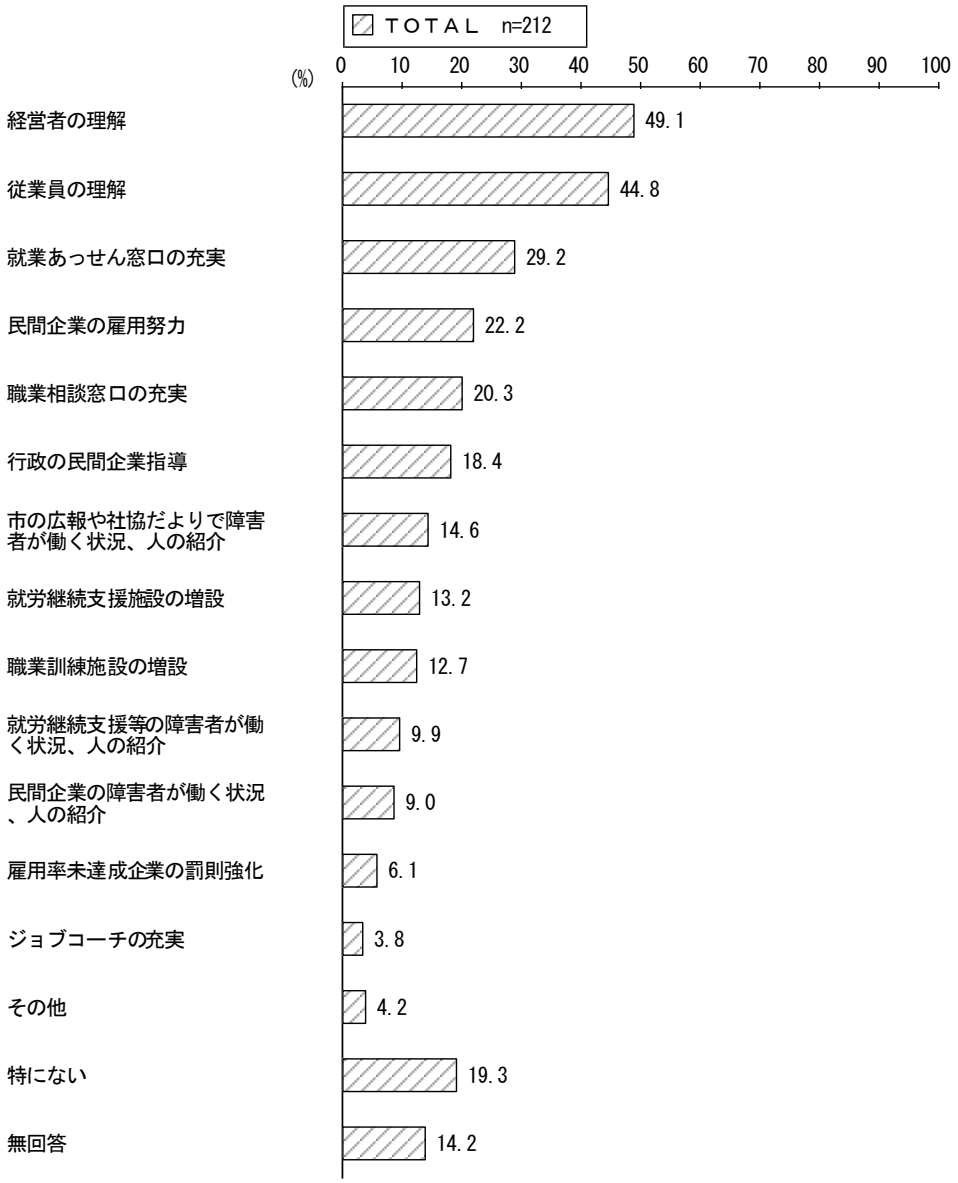
年代別にみると、「18～64 歳」では、約半数の人に就労意向がある（「働きたい」50.9%）ことがわかる。



（６）障害のある人の就業を促進するために希望すること

問 31 障害のある人の就業を促進するために、あなたはどのようなことを希望されますか。（○はいくつでも）

障害のある人の就業を促進するために希望することとしては、「経営者の理解」をあげる人が49.1%と最も多く、次いで「従業員の理解」（44.8%）、「就業あっせん窓口の充実」（29.2%）と続いている。

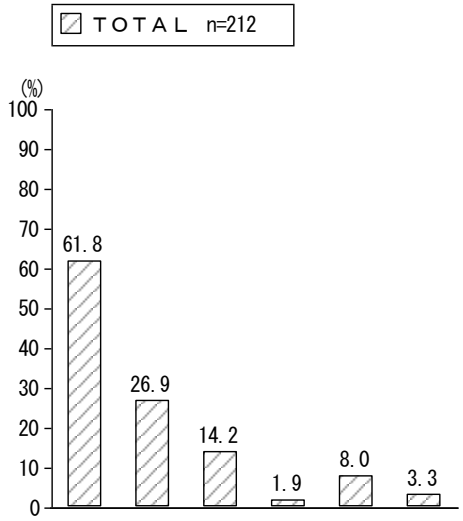


（７）生活を支える収入

問 32 現在、あなたの生活を支えている収入は次のうちどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

生活を支えている収入としては、約６割の人が「年金、障害者年金、生活保護など」（61.8%）をあげている。

年代別にみると、「65 歳以上」では、95.2%の人が「年金、障害者年金、生活保護など」をあげている。また、「18～64 歳」では、「給与・賃金」が 48.6%と最も多く、次いで「年金、障害者年金、生活保護など」（27.6%）、「家族からの仕送り・援助」（24.8%）と続いている。



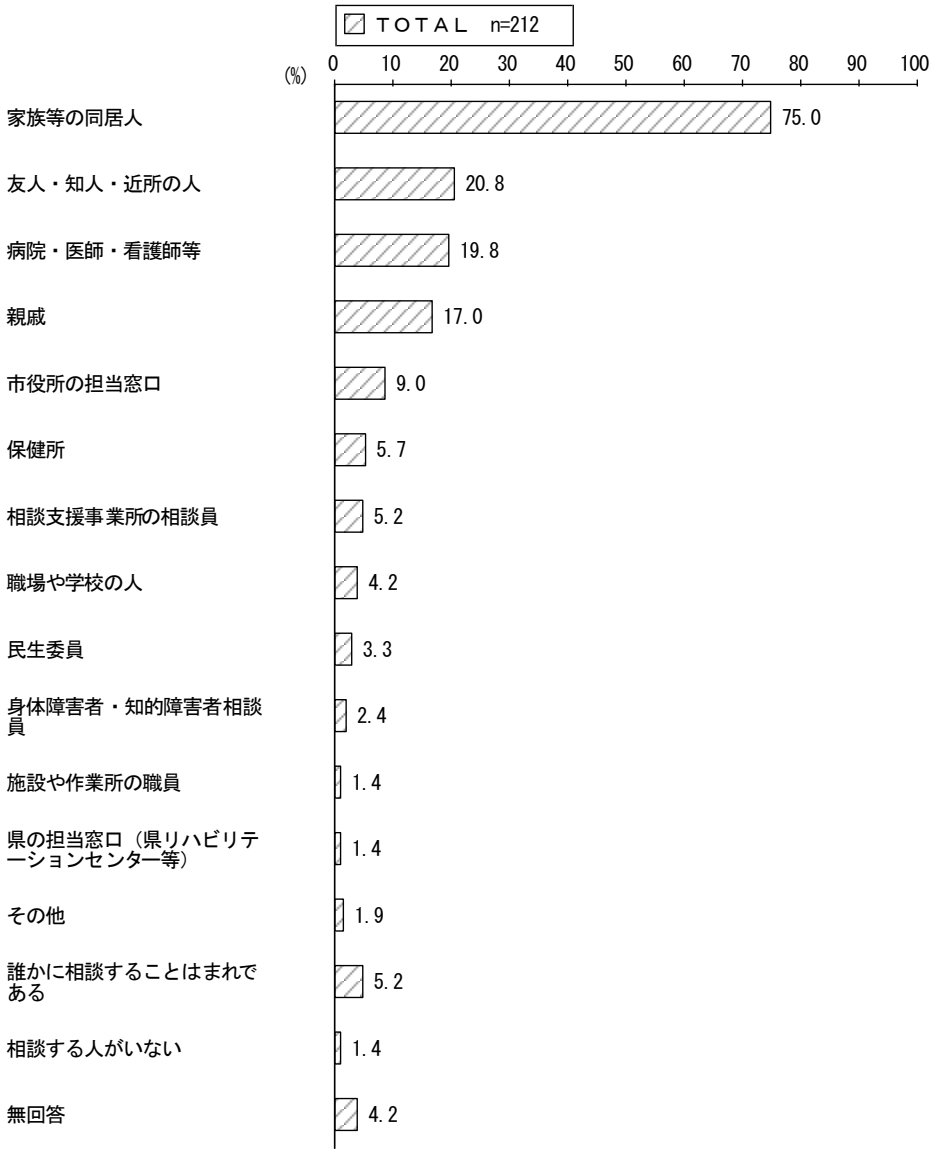
	問３ 年齢（３区分）	n	5 年金、障害者年金、生活保護など	1 給与・賃金	4 家族からの仕送り・援助	2 事業収入	6 その他	7 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	212	61.8	26.9	14.2	1.9	8.0	3.3
2	１８～６４歳	105	27.6	48.6	24.8	1.9	13.3	5.7
3	６５歳以上	105	95.2	5.7	3.8	1.9	2.9	1.0
4	無回答	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

8 相談・情報入手について

（１）悩みや困ったことなどの相談先

問 33 普段、悩みや困ったことなどをどなたに相談しますか。（○はいくつでも）

悩みや困ったことなどの相談先としては、「家族等の同居人」をあげる人が75.0%と最も多く、次いで「友人・知人・近所の人」（20.8%）、「病院・医師・看護師等」（19.8%）と続いている。なお、「相談する人がいない」人が３人（1.4%）みられる。



（２）家族や親せき以外に希望する相談先

問 34 あなたは、悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外では、どこに相談したいですか。また相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。（自由記入）

希望する相談先や相談体制について自由記入方式で意見を求めたところ、以下のような記入があった。

【相談先】

- かかりつけの病院で相談できれば安心です。（40 代）
- 定期的に病院に行っているので、相談窓口が病院にあると良いと思います。（50 代）
- 若い相談員には相談したくない。人生経験と、ある程度見聞の広い方に相談したい。（30 代）

- 公共機関の窓口相談室（70 代）
- 通っているデイサービスやケアマネージャーに相談したい。（70 代）
- 民生委員に相談するつもり。（70 代）
- 市の窓口があって、それぞれの病気の理解者や専門家が対応してほしい（30 代）
- 各種の相談窓口。相談窓口の連絡先がすぐにわかる様な情報。（60 代）
- 市役所の担当窓口で後からはそれなりの仕事をしている人が良いと思います（60 代）
- 友人。病気・障害への理解。（40 代）

【相談体制】

- 市・町・村等の窓口の充実(電話（フリーダイヤル等）での相談）。カウンセラーの充実。（60 代）
- 茶のみ相手が欲しい。（70 代）
- （小児慢性疾患児）ピアカウンセリングの制度を県では作ったが、中核市である川越市は対象外となっている。県並みの制度を整えるか、県の制度に相のりする様にしてほしい。（30 代）
- 個人情報をしっかり守ること。（40 代）
- 病院・市役所の担当者より、受けられるサービスを細かく教えてほしい。（60 代）
- 数年前、保健センターの保健師さんで、住んでいる地区の担当の方から電話連絡があり、特定疾患で困ったことなどの相談の窓口になっているという内容でした。このような体制があるならありがたいと思います。（50 代）
- 「相談支援事業所」なんてあるんですか？何でも相談でしょうか？手紙で相談できるのもいいかも。どこに相談して良いかわからない時「総合相談」みたいな所にＴｅｌすれば最適な所につないでくれるシステム。（50 代）
- 病気に関することは医師に相談しますが、診察時間が短く相談しきれないこともあります。病気に関してまた精神的に落ち込むことがあるので、相談出来るカウンセリングが出来る所があれば良いと思います。（30 代）
- 電話が出来ると良いです。（60 代）
- 難しいかもしれませんが、臨床心理士や精神保健福祉士等、（それぞれの分野で）ある程度専門的な知識を持った人に（継続的に）相談をしたい。費用がかかってしまうと負担となってしまうので、できれば無料で、平日だけでなく、土日にも相談できる体制が整っていると良いと思う。（30 代）
- 市役所。関連する事は聞かなくても、役所の担当の方から紹介頂きたい。質問に対して、許可するかしないかだけでなく。（60 代）

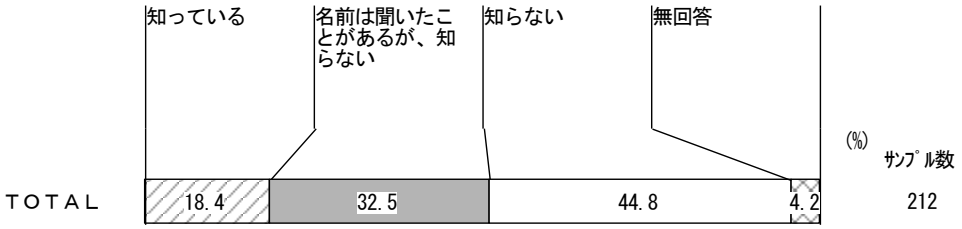
【その他】

- 誰に相談してよいかわからない。家族の理解がないので辛い。（50 代）
- 信用できる場所であると良いが、ないと思う。（50 代）
- 気軽に相談できる雰囲気がない。（30 代）
- 忙しいと思いますが、保健所の方がＴＥＬなどして様子を伺って欲しいです。（40 代）
- 行政機関（市役所、保健所）を利用したいと思うがまだあまり利用したことがない。たらい回しにされないか不安である。（40 代）
- 川越は市役所、保健所等すべてがバラバラにあり、手続がとても大変です。交通機関が不便。（50 代）
- 友人・知人には話したくない。その他の窓口などに行くヒマはない。（30 代）
- 市役所・保健所・病院に相談にのってほしいです。“あんしんサポートねっと”充実してもらって、今は必要ないがたよりにしています。（70 代）
- 相談しても解決には至らない。（60 代）
- あまり他者に相談したいと思わない。（50 代）

（３）川越市障害者相談支援センターの認知状況

問 35 あなたは、「川越市障害者相談支援センター」を知っていますか。（○は１つ）

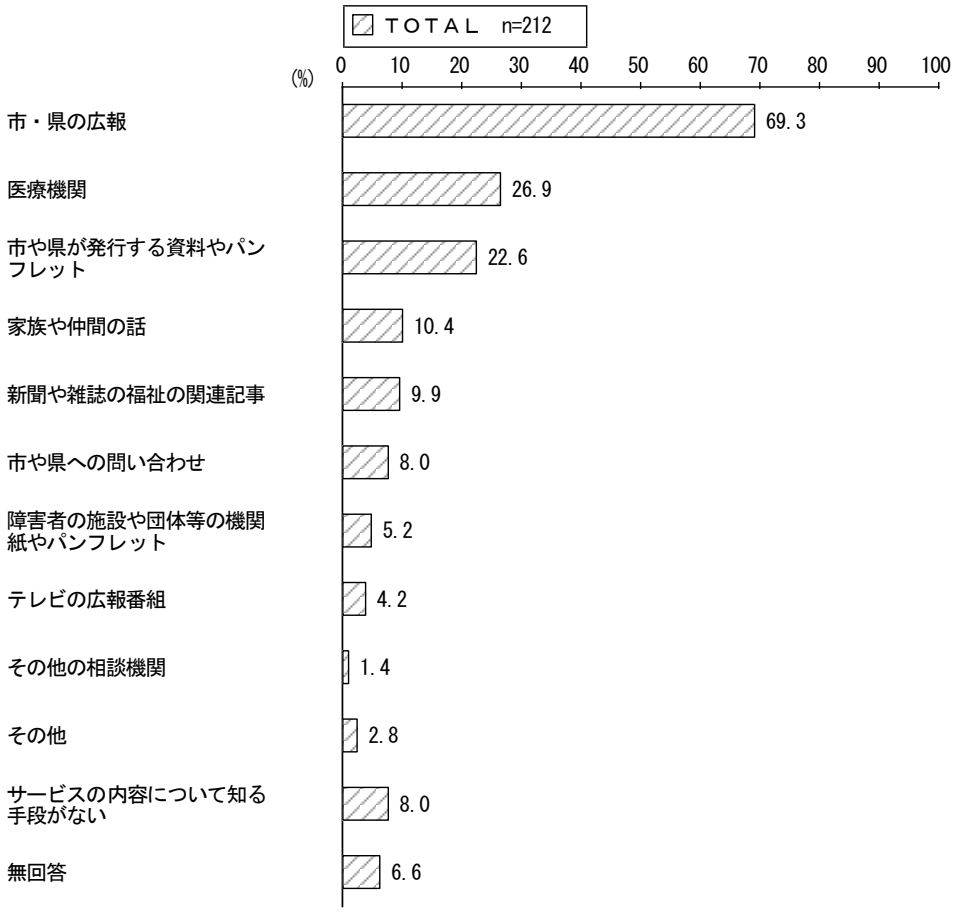
「川越市障害者相談支援センター」を「知っている」人は 18.4%である。



（４）福祉サービスに関する情報の入手経路

問 36 障害のある人のための福祉サービス内容について、どのようなもので知ることが多いですか。（○はいくつでも）

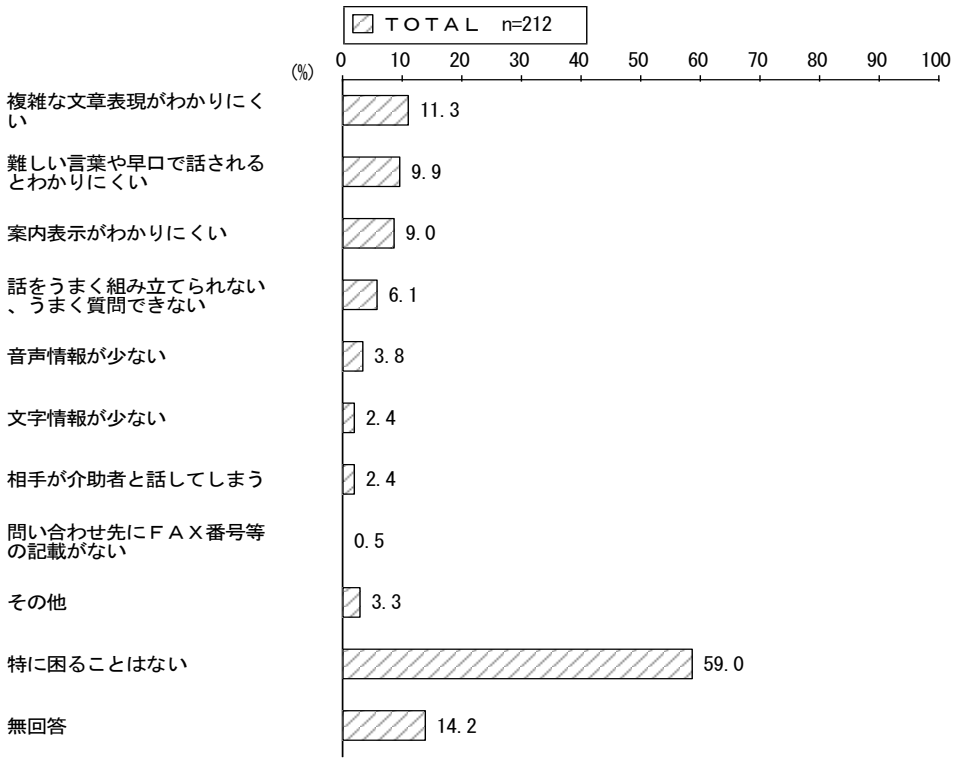
福祉サービスについては、約７割の人が「市・県の広報」（69.3%）で知ることが多いと回答している。そのほかには、「医療機関」が26.9%、「市や県が発行する資料やパンフレット」が22.6%あげられている。なお、「サービスの内容について知る手段がない」と回答した人が 8.0%みられる。



（５）情報入手・コミュニケーションで困ること

問 37 あなたは、情報を入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることはありますか。（○はいくつでも）

約６割の人は、情報の入手やコミュニケーションで困ることは「特にない」（59.0%）と回答している。

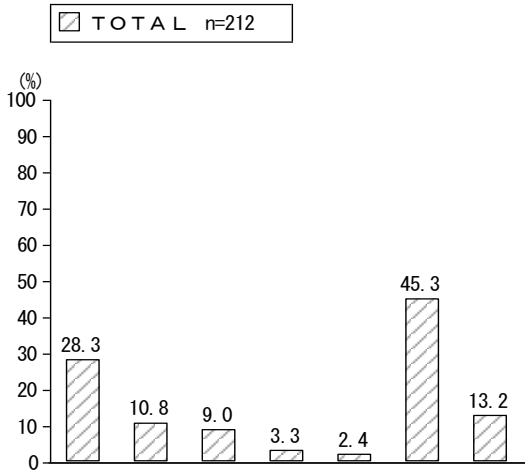


（６）パソコン・スマートフォン・携帯電話の利用状況

問 38 あなたは、情報を入手するために、パソコンやスマートフォン、携帯電話などを利用していますか。（○はいくつでも）

「パソコンを利用して、情報を入手している」人は 28.3%、「スマートフォン等を利用して、情報を入手している」人は 10.8%で、45.3%の人は「パソコンなどを利用して情報を得ることはない」と回答している。

年代別にみると、「パソコンなどを利用して情報を得ることはない」人の割合は、「18～64 歳」では約３割（31.4%）だが、「65 歳以上」では約６割（59.0%）にのぼる。



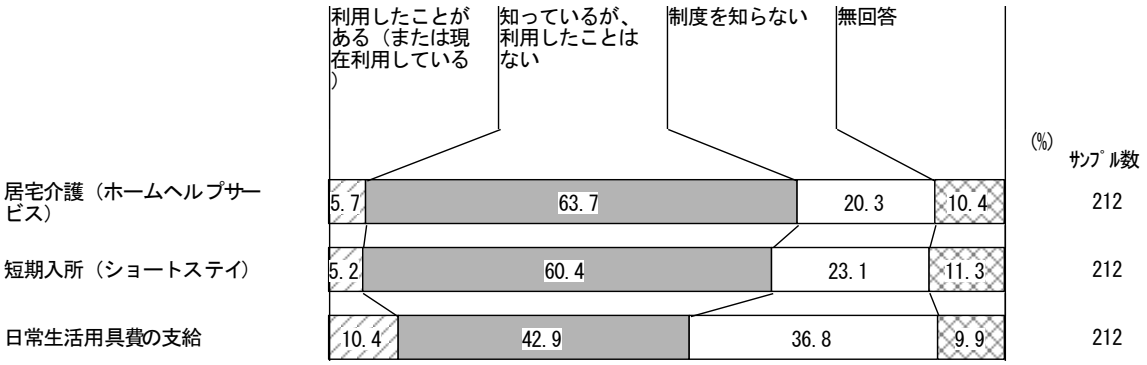
	問３ 年齢（３区分）	n	1 パソコンを利用して、情報を入手している	2 スマートフォン等を利用して、情報を入手している	3 携帯電話を利用して、情報を入手している	4 電子メールを利用して、友人などから情報を得ている	5 その他	6 パソコンなどを利用して情報を得ることはない	7 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	212	28.3	10.8	9.0	3.3	2.4	45.3	13.2
2	１８～６４歳	105	43.8	21.0	12.4	4.8	1.9	31.4	5.7
3	６５歳以上	105	12.4	1.0	5.7	1.9	2.9	59.0	21.0
4	無回答	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

9 福祉サービスについて

（１）福祉サービスの利用状況

問 39 あなたは、次のような福祉サービスを知っていますか。また、利用したことがありますか。（○はサービスごとに１つずつ）

「居宅介護（ホームヘルプサービス）」を「利用したことがある（または現在利用している）」人は 5.7%、「短期入所（ショートステイ）」は 5.2%、「日常生活用具費の支給」は 10.4%である。



それぞれのサービスについて、利用経験者の年齢をみると、「居宅介護」では 12 人中 11 人が 65 歳以上、「短期入所」は 11 人中 10 人が 65 歳以上となっている。

サービス名	利用経験人数	18～64 歳	65 歳以上	年齢無回答
居宅介護（ホームヘルプサービス）	12 人（100.0%）	1 人（ 8.3%）	11 人（91.7%）	－
短期入所（ショートステイ）	11 人（100.0%）	1 人（ 9.1%）	10 人（90.9%）	－
日常生活用具費の支給	22 人（100.0%）	3 人（13.6%）	17 人（77.3%）	2 人（ 9.1%）

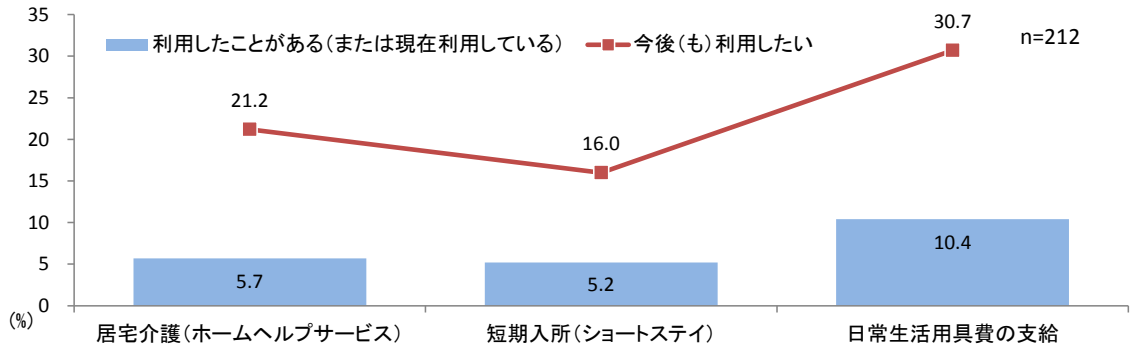
（２）福祉サービスの利用意向

問 40 次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは、新たに利用したいと思うサービスはありますか。利用したいものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

「居宅介護」を利用したいと考えている人は 21.2%、「短期入所」は 16.0%、「日常生活用具費の支給」は 30.7%である。

実際の利用経験の割合と利用意向（利用したいと考えている）の割合を比較すると、３サービスとも 10 ポイント以上利用意向のほうが高くなっており、潜在的なニーズが大きいと考えられる。

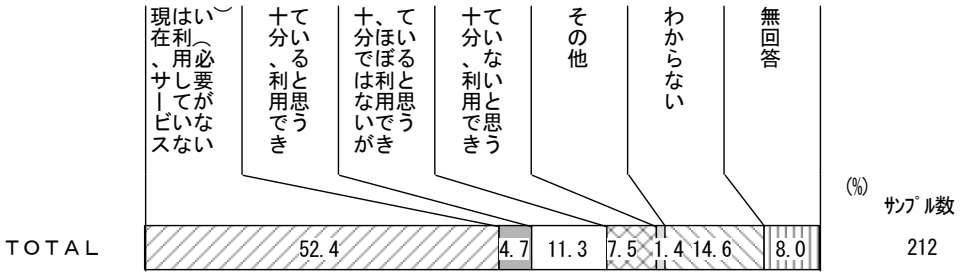
《サービスの利用経験と利用意向》



（３）サービス利用についての充足度

問 41 あなたは、現在、必要だと思うサービスを、十分利用できていると思いますか。（○は１つ）

現在、必要だと思うサービスを「十分、利用できていないと思う」と回答した人が 7.5%みられる。

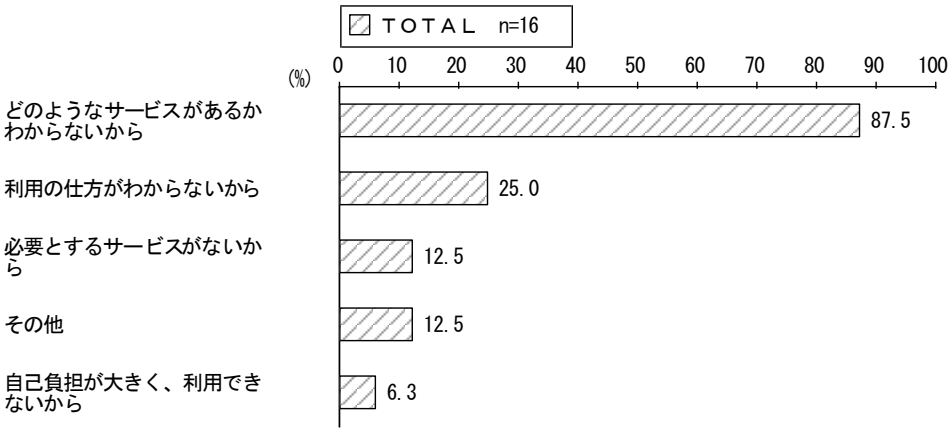


（４）必要なサービスを十分利用できていない理由

問 42 必要だと思うサービスを、十分、利用できていない理由は何ですか。（○はいくつでも）

［サービスを、十分、利用できていないと回答した方におききします］

必要なサービスを十分利用できていない理由としては、16 人中 14 人が「どのようなサービスがあるかわからないから」（87.5%）という理由をあげている。



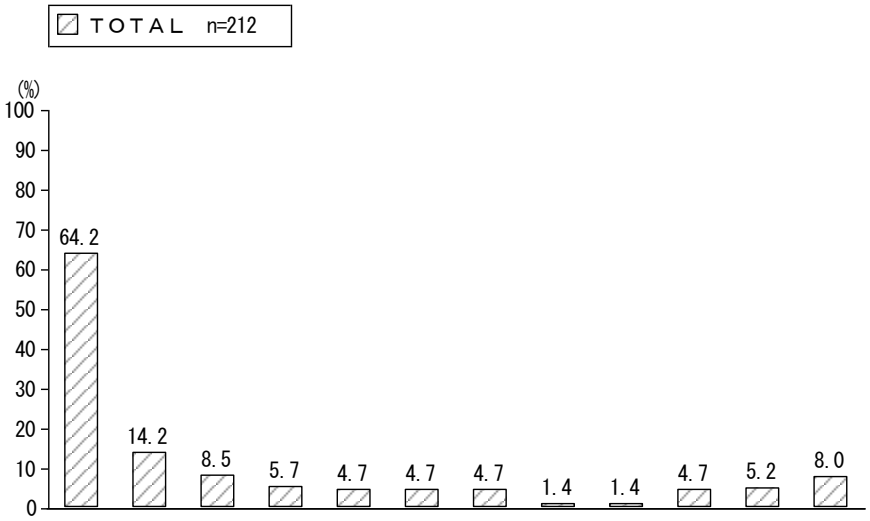
10 将来の希望

（１）希望する日中の過ごし方

問 44 今後、どのように日中を過ごしたいと思いますか。（○はいくつでも）

今後、希望する日中の過ごし方としては、64.2%の人が「自宅でのんびり過ごしたい」と回答している。

年代別にみると、「18～64 歳」では、「自宅でのんびり過ごしたい」が 57.1%と最も多いが、「一般企業などで働きたい」と回答している人が 26.7%みられる。



	問３ 年齢（３区分）	n	1 自宅でのんびり過ごしたい	2 一般企業などで働きたい	5 身体機能や生活能力向上のために必要な訓練を受けたい	6 医療機関で、機能訓練などを受けながら過ごしたい	3 施設内で就労したり、生産活動をしながら過ごしたい	7 施設で、介護を受けながら、創作的活動などを行いたい	8 創作活動などを行ったりするところで過ごしたい	4 職場探しや職場定着のための支援を受けたい	9 学校に通いたい	10 その他	11 わからない	12 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	212	64.2	14.2	8.5	5.7	4.7	4.7	4.7	1.4	1.4	4.7	5.2	8.0
2	１８～６４歳	105	57.1	26.7	4.8	2.9	4.8	1.9	4.8	2.9	1.9	5.7	5.7	6.7
3	６５歳以上	105	71.4	1.9	12.4	7.6	4.8	6.7	4.8	0.0	1.0	3.8	4.8	9.5
4	無回答	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（２）希望する暮らし方

問 45 将来（今後）、あなたはどのように暮らしたいと思いますか。（○は１つ）

将来、希望する暮らし方としては、約８割の人が「現在と同じように暮らしたい」（80.7%）と回答している。

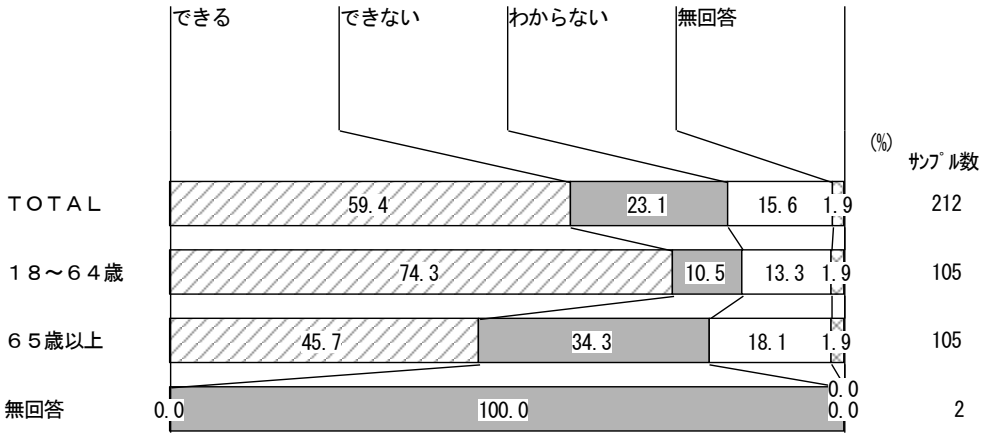
	n	現在と同じように暮らしたい	一人暮らしをしたい	誰かと一緒に暮らしたい	共同生活する住居(グループホーム等)で暮らしたい	施設に入りたい	その他	わからない	無回答
TOTAL	212	80.7%	2.4%	1.9%	1.4%	0.9%	0.5%	7.5%	4.7%

11 災害対策について

（１）災害時の避難について

問 46 火事や地震等の災害時に、あなたは一人で避難できますか。（○は１つ）

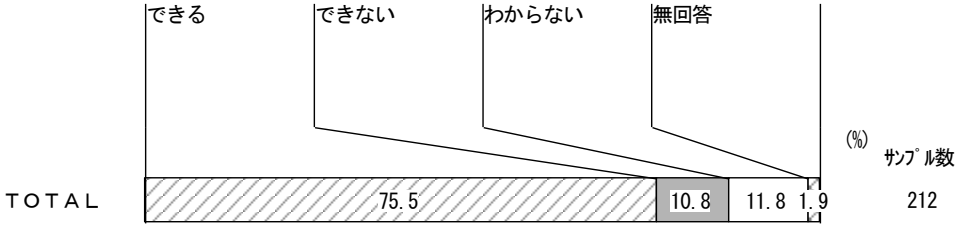
約６割の人は、災害時に一人で避難「できる」（59.4%）と考えている。
年代別にみると、「65 歳以上」では、一人で避難「できる」人の割合が 45.7%にとどまる。



（２）災害時の周囲への連絡・通報について

問 47 火事等の非常時に、あなたは周囲の人に知らせることができますか。（○は１つ）

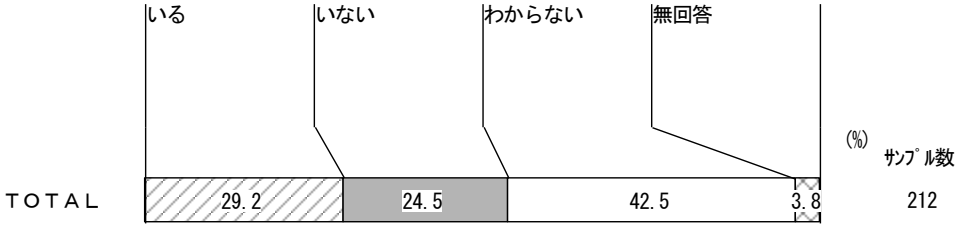
75.5%の人は、非常時に周囲に知らせることが「できる」と考えている。



（３）災害時に助けてくれる近隣者の有無

問 48 家族が不在の場合または一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる方はいますか。（○は１つ）

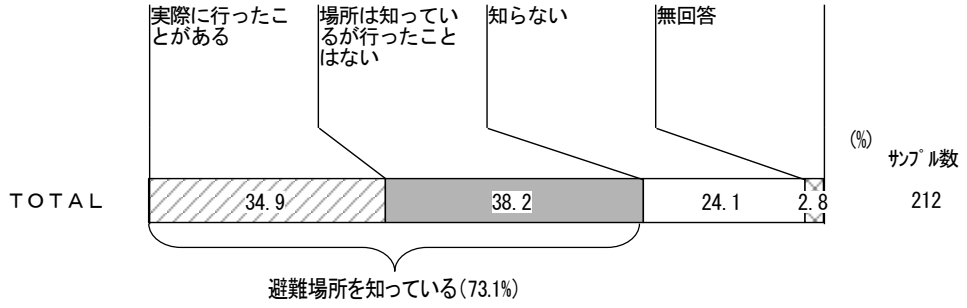
近所に助けてくれる人が「いる」人は約３割（29.2%）で、24.5%の人は近所に助けてくれる人が「いない」と回答している。



（４）避難場所の認知状況

問 49 お住まいの周辺の災害時の避難場所を知っていますか。（○は１つ）

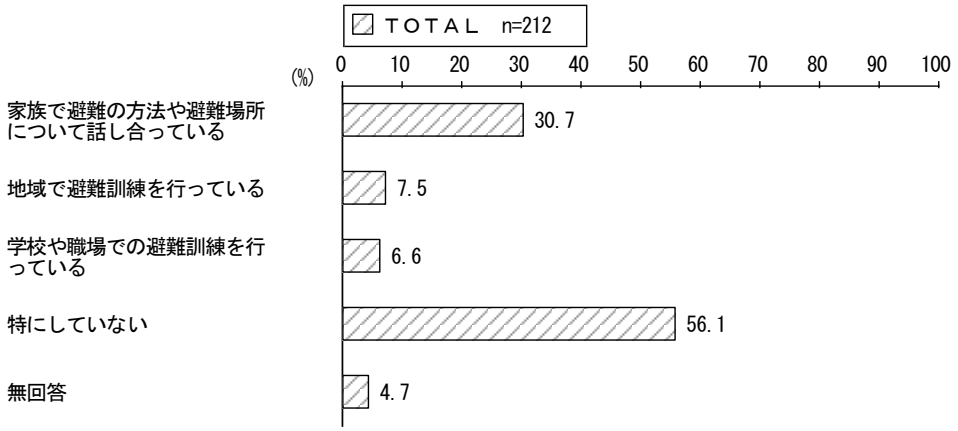
避難場所に「実際に行ったことがある」人は 34.9%で、38.2%の人は「場所は知っているが行ったことはない」と回答している。



（５）避難に関する準備状況

問 50 災害時の避難について、以下のようなことをしていますか。（○はいくつでも）

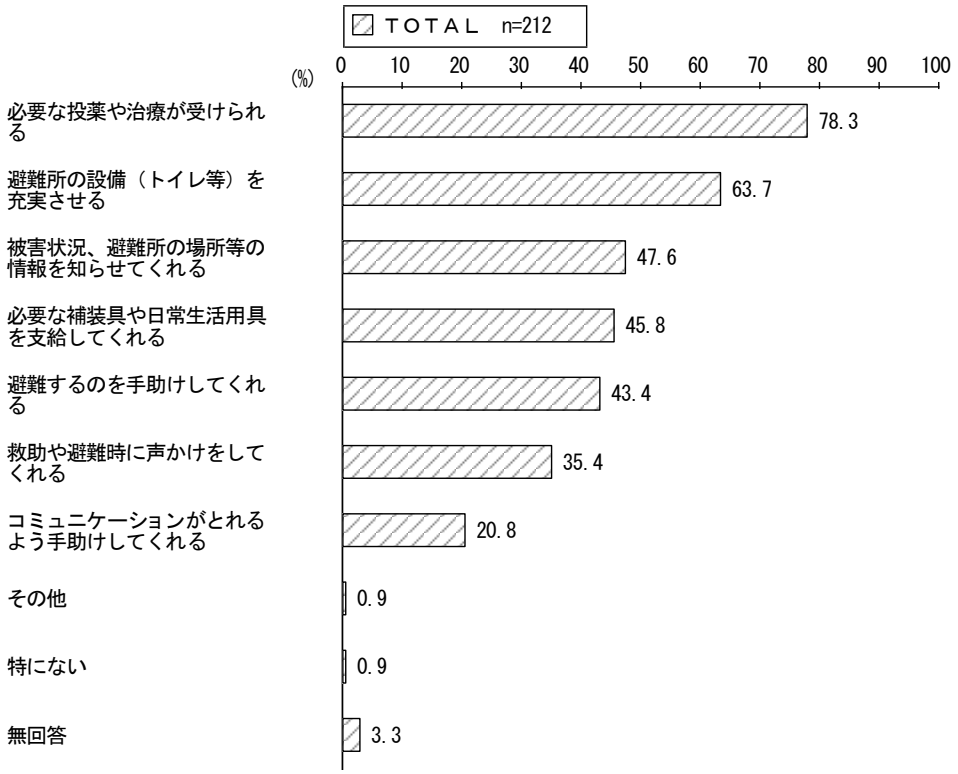
「家族で避難の方法や避難場所について話し合っている」人は約３割（30.7%）で、56.1%の人は避難の準備を「特にしていない」状況である。



（６）災害時に必要とする支援・援助

問 51 災害時にどのような支援・援助があるとよいと思いますか。（○はいくつでも）

災害時にあるとよいと思う支援・援助としては、「必要な投薬や治療が受けられる」ことが 78.3%と最も多く、次いで「避難所の設備（トイレ等）を充実させる」が 63.7%で続いている。

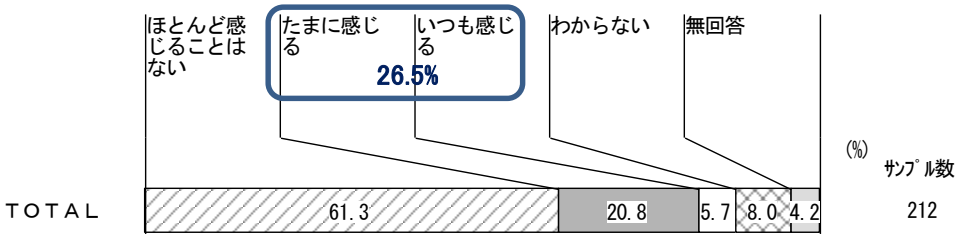


12 差別・疎外感、権利擁護について

（１）差別や疎外感を感じることの有無

問 52 障害があることで、差別や疎外感を感じることがありますか。（○は１つ）

約６割の人は、障害があることによる差別や疎外感を「ほとんど感じることはない」（61.3%）と回答しているが、「たまに感じる」（20.8%）と「いつも感じる」（5.7%）を合わせると、26.5%の人は差別や疎外感を感じていることがわかる。



（２）差別や疎外感を感じる具体的な場面

問 53 具体的には、どのようなときに、差別や疎外感を感じますか。

差別や疎外感を感じる場面としては、具体的に次のような記入があった。

【言葉や視線】

- すくみ足や前傾姿勢で歩いているところを見られた時。（60 代）
- 近所の人と話していて、かわいそうにと言われた時。（40 代）
- すれちがってふり返られた時（50 代）
- 杖をついていると目線が気になる（50 代）
- 足を引きずって歩いているので変な目で見られる。（70 代）

【就労・職場】

- 以前勤めていた所を、入院をきっかけに解雇された。（40 代）
- 仕事がない。お金がない。理解がない。（50 代）
- 会社の人事（30 代）
- 就職、結婚（30 代）
- 他人から見れば健常者にしか見えないので、仕事上健常者と同様の事を行っているが、持久力がないので体力的にきつい場合がある。（40 代）
- 就活の時（30 代）
- ストレスをかかえると症状が悪化するので、就職時に長く続けられますか？と疑われるのが嫌（30 代）

【交流の機会】

- 会話が通じない時など（30 代）
- 話をしても無視される。（70 代）
- 集団で行動する時に動作が鈍いため。（60 代）
- 人と同じ物が食べられないため、食事会など誘われなくなったし、自分からも言えない。（50 代）
- 自然に対応できない。コミュニケーションのとり方。（60 代）
- 病気を気にして自分からも相手からも気安く誘えない。（40 代）
- 身内の結婚式や法事、あるいは同窓会などに出席できない時など。（60 代）

【障害に対する理解不足・誤解】

- 外見では障害の有無を理解してもらえないため、嫌味を言われたり誤解されてしまう。（30 代）
- 周囲の人には自分の病状の変化がわかりづらく、本当に病気なのかわかってもらえない時に感じる。（50 代）
- 見た目では分からない為。（体調の良い時と悪い時の差が激しい。）（30 代）
- 見た目に何でもなく一見普通に見えるので、体の悪いところ（肩に岩がのっている感じとか、しびれ、まひ）がわからず、悲しい思いをしています。（70 代）
- トイレに行く回数が多い為、またトイレかと白い目で見られる。（30 代）
- 聞きなれない病名なので、理解してもらえないことがある。（50 代）

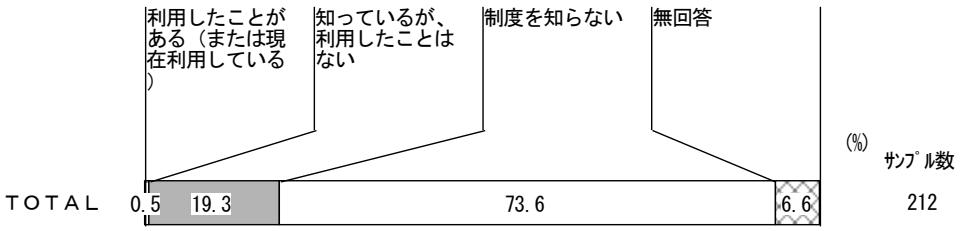
【その他】

・ 膠原病以外の事で他の病院に行くと大抵、診察する事なく「主治医にみてもらえ」と断わられる時疎外感を感じます。（30 代）
・ 自由に体が動かない時。（60 代）
・ このアンケートに答えること。（30 代）
・ 難病や障害を持つ大変さは本人にしかわからず、体調の悪い時が続くと、心細く不安な気持ちになる。病院に行っても治る訳でもなく、不安感は強い。（70 代）
・ 私の場合、視野が極端に狭く中心部しか見えません。他人がすぐに認識できる物を、私はなかなか認識できない現実を突きつけられた時。（50 代）
・ 病状が重度の時（30 代）
・ 障害者の人のほうがすごく大事にされて、難病患者は軽くしか思っていないのでくやしい（30 代）
・ 私はもともと、子供を持つことを希望していませんし、私の病気では、出産は可能なのですが、難病指定の病を患っていると、子供を産めないのではないかと思い込んでいる人がいる。また、そのことについて詮索しようとする人がいる。非常に不快である。（30 代）
・ 自治会の当番等は順番でやるのはあたりまえだと。（60 代）
・ この病気になって車を運転中、てんかんをおこし事故をおこしました。それで運転免許は取り消しになりました。免許は無理（医師）→本人確認の時に運転免許がないと変な目で見られる。（50 代）

（３）あんしんサポートねっとの認知状況

問 54 「あんしんサポートねっと」とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方が、地域で安心して生活が送れるように川越市社会福祉協議会が援助する事業です。あなたは、「あんしんサポートねっと」について知っていますか。（○は１つ）

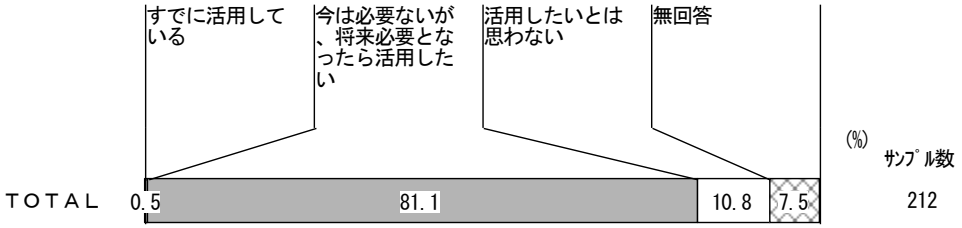
「あんしんサポートねっと」を「利用したことがある（または現在利用している）」人は 1 人（0.5%）、「知っているが、利用したことはない」人は 19.3%で、合わせると事業のことを知っている人は約２割（19.8%）である。



（４）あんしんサポートねっとの利用意向

問 55 あなたは、「あんしんサポートねっと」を活用したいと思いますか。（○は１つ）

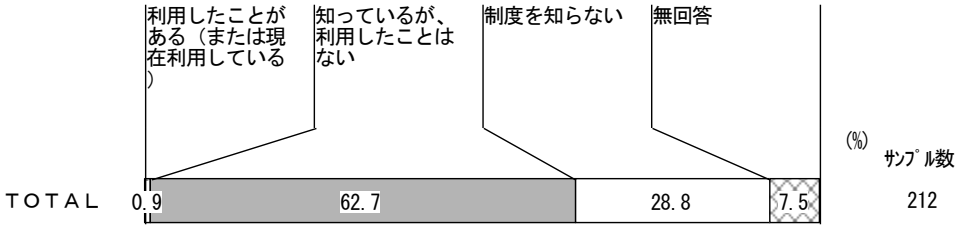
「あんしんサポートねっと」については、約８割の人が「今は必要ないが、将来必要となったら活用したい」（81.1%）と考えている。



（５）成年後見制度の認知状況

問 56 「成年後見制度」とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。（○は１つ）

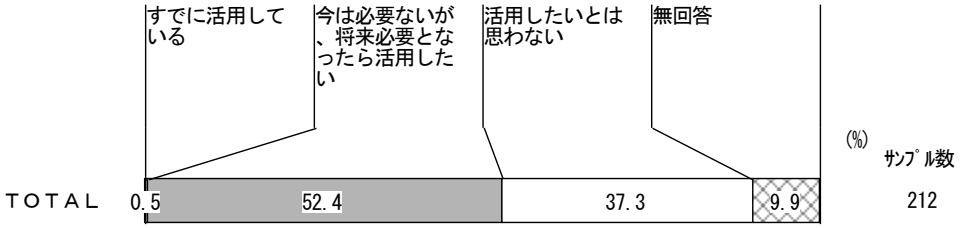
「成年後見制度」を「利用したことがある（または現在利用している）」人は 2 人（0.9%）、「知っているが、利用したことはない」人は 62.7%で、合わせると制度のことを知っている人は６割強（63.5%）である



（６）成年後見制度の利用意向

問 57 あなたは、「成年後見制度」を活用したいと思いますか。（○は１つ）

「成年後見制度」については、52.4%の人が「今は必要ないが、将来必要となったら活用したい」と考えている。

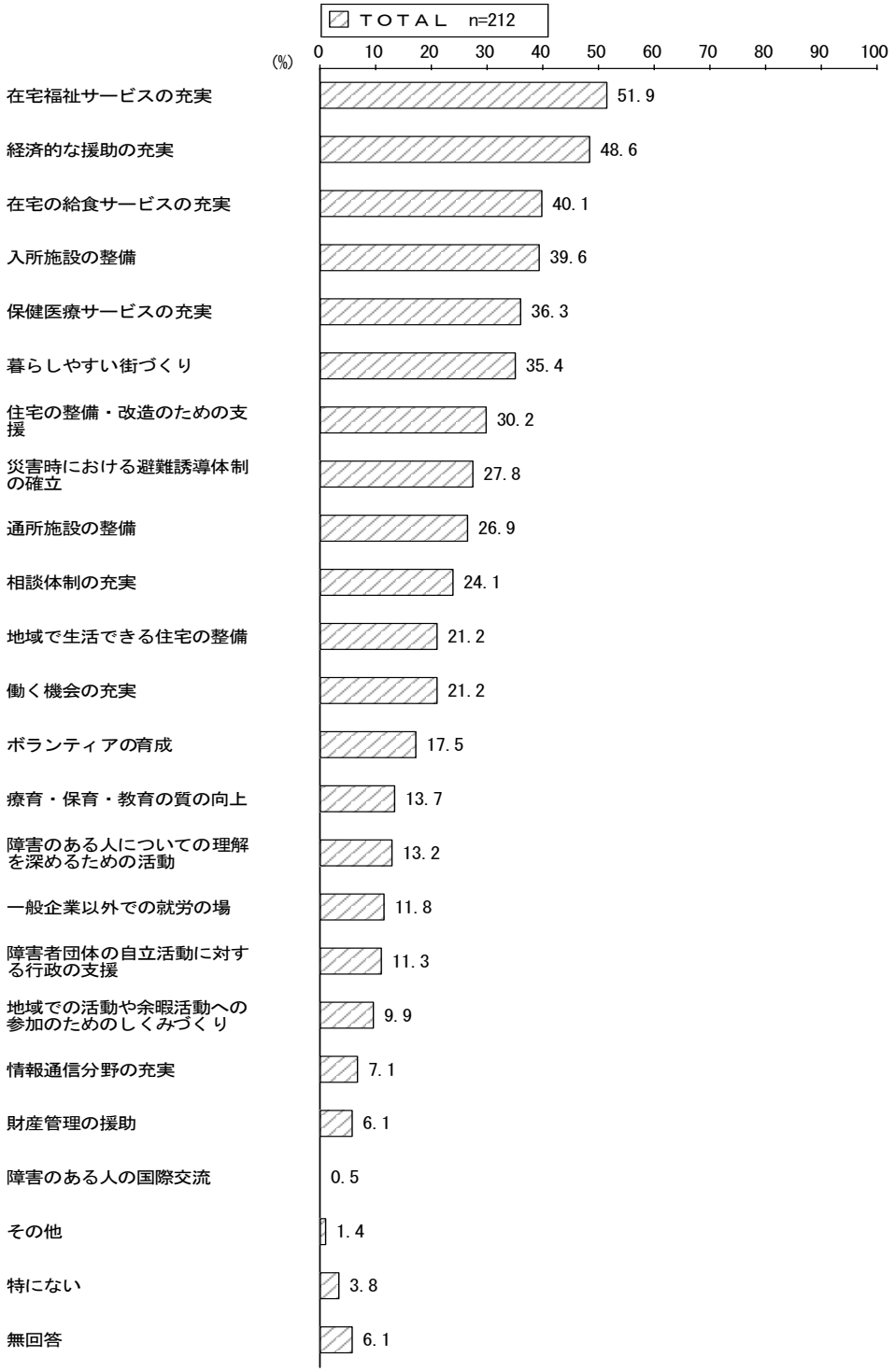


13 行政への要望等

（１）障害者施策を進めるにあたって市が充実させていくべきこと

問 58 今後、障害者施策を進めていくにあたって、市は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

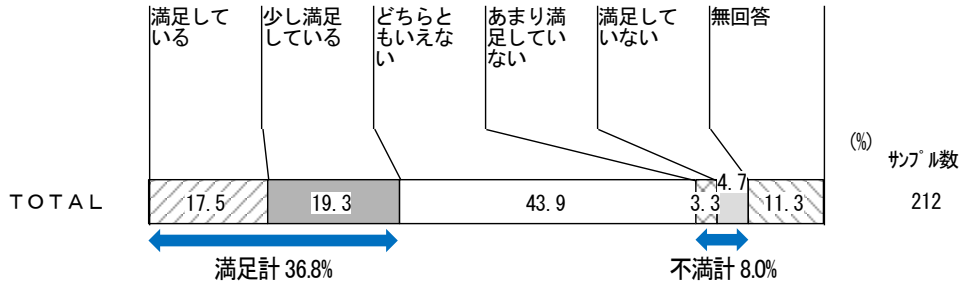
市が充実させていくべきこととしては、「在宅福祉サービスの充実」をあげる人が 51.9%と最も多く、次いで「経済的な援助の充実」（48.6%）、「在宅の給食サービスの充実」（40.1%）、「入所施設の整備」（39.6%）と続いている。



（２）福祉サービス全般の満足度

問 59 川越市の福祉サービス全般について、満足していますか。（○は１つ）

福祉サービス全般については、「満足している」人は 17.5%、「少し満足している」人は 19.3%で、合わせると36.8%の人は概ね満足していることがわかる。一方、「満足していない」は 4.7%、「あまり満足していない」は3.3%で、満足していない人は 8.0%となっている。



（３）意見・要望等

最後に、この調査を通じて、選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望、計画に盛り込みたいことなどがありましたら、自由にお書きください。

調査の終わりにあたり、調査を通じて表現しきれなかったことや、障害者施策等に対する意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、数多くの意見・要望が寄せられた。内容はきわめて多岐にわたっており、本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介することとする。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を、できる限り原文に近い表記で紹介するよう心がけた。

【環境整備などに関すること】

- シャトルバスの便が減って不便になった。（60 代）
- 障害者用の公共駐車場の位置や造り方がおかしい。どうしたら使いやすくなるのか障害者に相談してほしい。（40 代）

【相談、手続き、情報提供に関すること】

- 申請の受け付けは、毎日、各エリアでしてほしい。（40 代）
- 市の福祉サービスの内容全般についてはもっと広報活動を望む。（70 代）
- 川越市の方から障害者、難病の患者に情報を伝えて欲しい。（40 代）
- パソコンも携帯もないため、近ごろは病気や福祉サービスだけでなく、すべてにおいて、情報難民になりつつあります。せめて市の情報は「詳細はホームページで・・・・」なんてしないで下さい。（50 代）
- いろいろな制度やお知らせなど、もう少しわかりやすく書いてほしいです。簡単なことでも書類になるとむずかしい言葉が使ってあったりしてわかりにくいです。（40 代）
- 日常生活用具費について詳しく知りたいです。役所窓口に行かずに教えていただきたいと思います。（30 代）
- 昨年難病の再成不良性貧血になりました。病気になると、その人の回りの家族までもが、精神的に悩んだりするので、その時に気軽に相談できるそして前向きに指導してくださる方をたくさん、雇って欲しい。（40 代）

【各種サービスに関すること】

・ 今の状態を維持できるよう、機能訓練を受けたい。（60 代）
・ 障害者等生活サポート事業の件で要望します。使用するのに不便を感じています。希望する時間帯に事業者がいない、個人負担が高い。事業者を多くし、個人負担を低くしてくれることを要望します。（60 代）
・ 在宅福祉サービスの充実。ヘルパーさんの教育で、レベルアップ。（60 代）
・ 自宅を 16 年前に建てました。当時より病気を持っていたため、将来、車椅子生活になる不安もあったのでエレベーターをつけたり、車椅子でも生活が出来る様に設計したので標準より少し大きめな家になってしまいました。それ故、固定資産税等が高額になってしまいました。障害を受け、家を改築する場合には税の優遇があるのに、あらかじめ家を作った場合は何もありません。納得できません。（50 代）
・ 一見障害者に見えない人へのサポートをしてほしい。（60 代）

【経済的な援助に関すること】

・ 退職が前堤のため、資格取得の費用が自費になるため補助がほしいと思います。（40 代）
・ 母親 88 才と一緒に暮らしています。お互いに生活をたすけあって暮らしています。生活費は、母親の年金でやっています。年 1 回の難病患者見舞金がどれほどたすかっているかわかりません。（50 代）
・ 回復の見込みのない現状で、将来に対する不安は多々あります。現在は、通院し、服薬していれば安定した生活を送れていますが、病院が遠いので、将来、1 人で通院できるのか、医療費の負担が増えないか、ということがいつも気になっています。（50 代）
・ 私は難病ではあるが障害者ではないので一般の人と同じ扱いのことも多い。けれどやはり普通では無いのでその差が辛い。たとえば、病気のせいで仕事もなかなか出来ず収入も無いけれど、障害者ではないので公共料金などは一般の人と同じです。行きたい所があっても運賃のことなど考え諦めてしまうことも多い。（40 代）

【就労に関すること】

・ 仕事が欲しい。妻にやしなってもらっている状況。お金も足りない。さらに病気が重なって、医療費がきびしい。妻の理解もなく、おいつめられている。死んでしまいたい。（50 代）
・ 現在は、体調も安定しているので、病気をかかえていない方と同じように勤務していますが、このように生活できるのも、家族や友人、同僚たくさんの周りの方の協力があってこそなのだと、日々実感しています。（30 代）

【障害に対する理解に関すること】

・ 障害者のマークが車イスなので、車イスに乗らない人は多目的トイレに入りづらいです。また、オストメイトはトイレの利用に時間がかかるため、順番を待っていた車イスの方にどなられたり、ケンカになります。「時間がかかる」ことが示せる方法があったら助かります。（30 代）
・ 見た目は健康な方と変わらないため理解されにくい。日によって体調の変化（倦怠感・関節痛・微熱等その他）がはげしく満足に働くことができません。体がこんなでなければ思いっきり働きたいのですができません。（30 代）
・ 膠原病から心臓を悪くして 2 年半前に手術をして、障害者 1 級となりました。重たい物が持てず体調がすぐれない時、スーパーへの買い物に障害者専用駐車場に止めることがありますが、見た目では健常者のため専用駐車場に止めた時（マークは車につけてた）罵声をあびせられたことがありました。（50 代）

《Ⅱ 調査結果 難病患者》

【医療に関すること】

・ 私の病気は、近くの病院でみてもらえないので、近くに専門の病院があったら良いなと思いました。（30 代）
・ 膠原病で長く通院また入院していますが、この病気以外で他病院にかかると、ろくにみてないのに「主治医の先生にみてもらって下さい」で終わってしまい、高い初診代を払って終わってしまいます。どこか 1 ヶ所でたらい回しにすることなく包括的にみてみもらえる施設があると良いと思います。（30 代）

【認定基準に関すること】

・ 甲状腺刺激ホルモンの基準値を満たしていないため、継続承認されず、ホルモン補充の薬が自己負担になった。主治医からはこれからも投薬を続けなければいけないのに、認定されないのはおかしいと言われた。（50 代）
・ パーキンソン病は天候や自分の気分により、障害のあらわれ方が違うので、30 分程度見るだけで支援ランクを決めないでほしい。だんだん体が動かなくなるのが不安です。（70 代）
・ 病名で区切るのではなく、あくまでも生活上の支障を基準に支援をするべきだと思います。（60 代）

【その他】

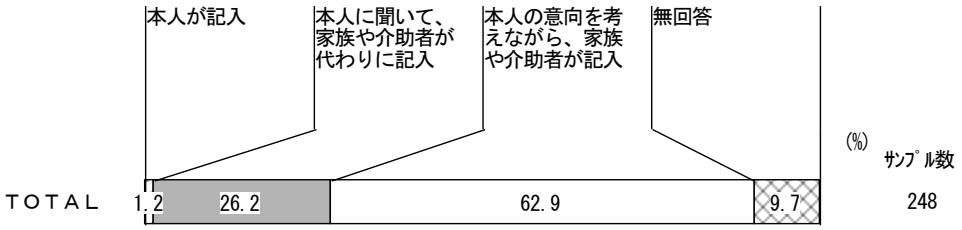
・ 住みやすい町づくり、暮らしやすい行政を推進していただきたい。（60 代）
・ 川越市の福祉サービスにはとても満足しております。（60 代）
・ 潰瘍性大腸炎で腸を全摘し、胃癌、前立腺癌と不自由な体ですが、どうにか生活しています。市や障害福祉課の温かなことを今回いろいろと知ることができ、今後心強いです。（70 代）
・ 多方面にわたって取組んで下さっている市の福祉課の方々に本当に感謝しています。（70 代）
・ 「障害者」ではなく「障がい者」と表記するのが適切と思われます。今後ご検討いただきたい。（40 代）
・ 高齢化に伴い、体の機能がますます衰えていくので不安を感じます。（60 代）
・ 災害時に家にいる場合は、歩けないため家から出られません。（70 代）
・ 病気が悪くなり、いろいろな面で大変だと思う。（60 代）
・ 川越駅でタクシーを利用した時、ドライバーの思いやりのない態度に、利用したくないという気持ちになります。なんであんなに横柄な口のきき方、態度ができるのでしょうか。（30 代）
・ 在宅高齢者と市との通信窓口開設と実施。（70 代）
・ 皆様の負担にならぬよう、自分で出来ることは、進んでやりたいと思います。自助が第一と存じます。（70 代）

1 基本的な属性

（１）調査票記入者

問１ この用紙（調査票）に記入されるのはどなたですか。（○は１つ）

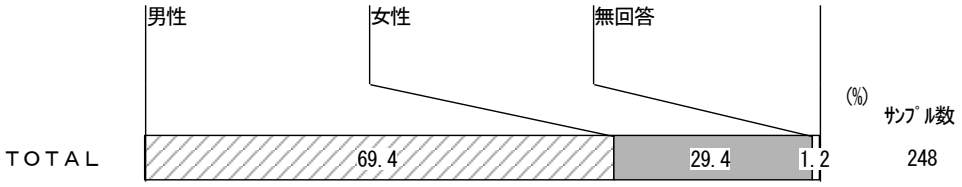
「本人が記入」が 1.2%、「本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入」が 26.2%、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」が 62.9%である。



（２）性別

問２ あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

男性が 69.4%、女性が 29.4%である。



（３）年齢

問３ あなたの年齢（９月１日現在）を記入してください。

30 代が 31.9%、40 代が 33.1%、50 代が 12.9%で、平均年齢は 44.6 歳である。

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 歳以上	無回答
n=248	0.4%	6.0%	31.9%	33.1%	12.9%	8.9%	4.8%	0.4%	1.6%

（４）障害の状況

問４　次のうち、あてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでも）

全体でみると、「身体障害者手帳を持っている」人は 28.2%、「みどりの手帳（療育手帳）を持っている」人は 82.3%である。

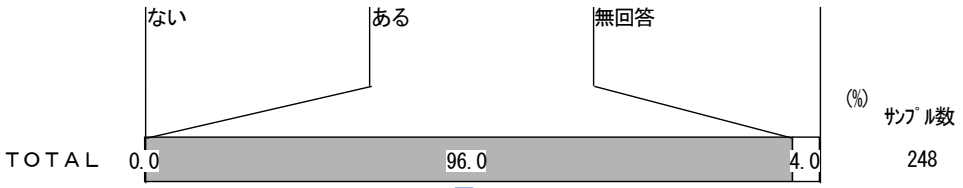
障害の重複状況をみると、「身体障害者手帳」所持者 70 人のうち 33 人（47.1%）は「みどりの手帳」も所持している。また、「みどりの手帳」所持者 204 人のうち 58 人（28.4%）は「発達障害と診断されたことがある」ことがわかる。

	n	身体障害者手帳を持っている	みどりの手帳(療育手帳)を持っている	精神障害者保健福祉手帳を持っている	国・埼玉県が指定する特定疾患(難病)を患っている	高次脳機能障害と診断されたことがある	発達障害と診断されたことがある	上記にあてはまるものはない・無回答
TOTAL	248 100.0%	70 28.2%	204 82.3%	2 0.8%	2 0.8%	2 0.8%	64 25.8%	4 1.6%
身体障害者手帳を持っている	70 100.0%	70 100.0%	33 47.1%	1 1.4%	－ －	2 2.9%	7 10.0%	－ －
みどりの手帳(療育手帳)を持っている	204 100.0%	33 16.2%	204 100.0%	－ －	1 0.5%	－ －	58 28.4%	－ －
精神障害者保健福祉手帳を持っている	2 100.0%	1 50.0%	－ －	2 100.0%	－ －	1 50.0%	－ －	
国・埼玉県が指定する特定疾患(難病)を患っている	2 100.0%	－ －	1 50.0%	－ －	2 100.0%	－ －	1 50.0%	－ －
高次脳機能障害と診断されたことがある	2 100.0%	2 100.0%	－ －	1 50.0%	－ －	2 100.0%	－ －	－ －
発達障害と診断されたことがある	64 100.0%	7 10.9%	58 90.6%	－ －	1 1.6%	－ －	64 100.0%	－ －
上記にあてはまるものはない・無回答	4 100.0%	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	－ －	4 100.0%

（５）障害程度区分

問５　あなたは、障害者総合支援法（障害者自立支援法）に基づく介護給付を受けるために「障害程度区分（６段階）」の認定を受けたことがありますか。ある場合には、区分にも○をつけてください。（○は１つ）

障害程度区分の認定を受けたことが「ない」と回答した人はいない。区分としては、「区分６」が 65.5%、「区分５」が 23.1%を占める。



《認定区分内訳》

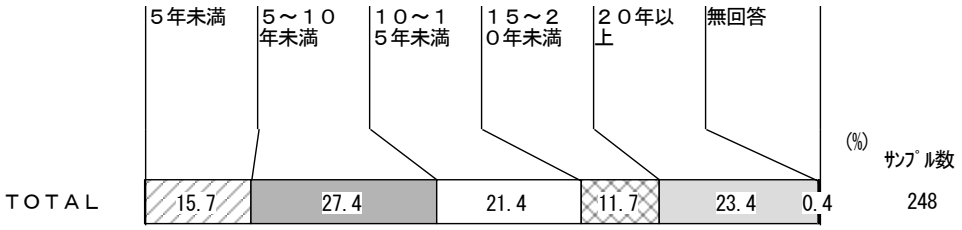
	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	非該当	申請中	無回答
n=238	0.4%	0.8%	2.1%	5.9%	23.1%	65.5%	0.4%	0.4%	1.3%

2 施設入所の状況

（１）入所期間

問６ 現在の施設に入所してからの期間をお答えください。（○は１つ）

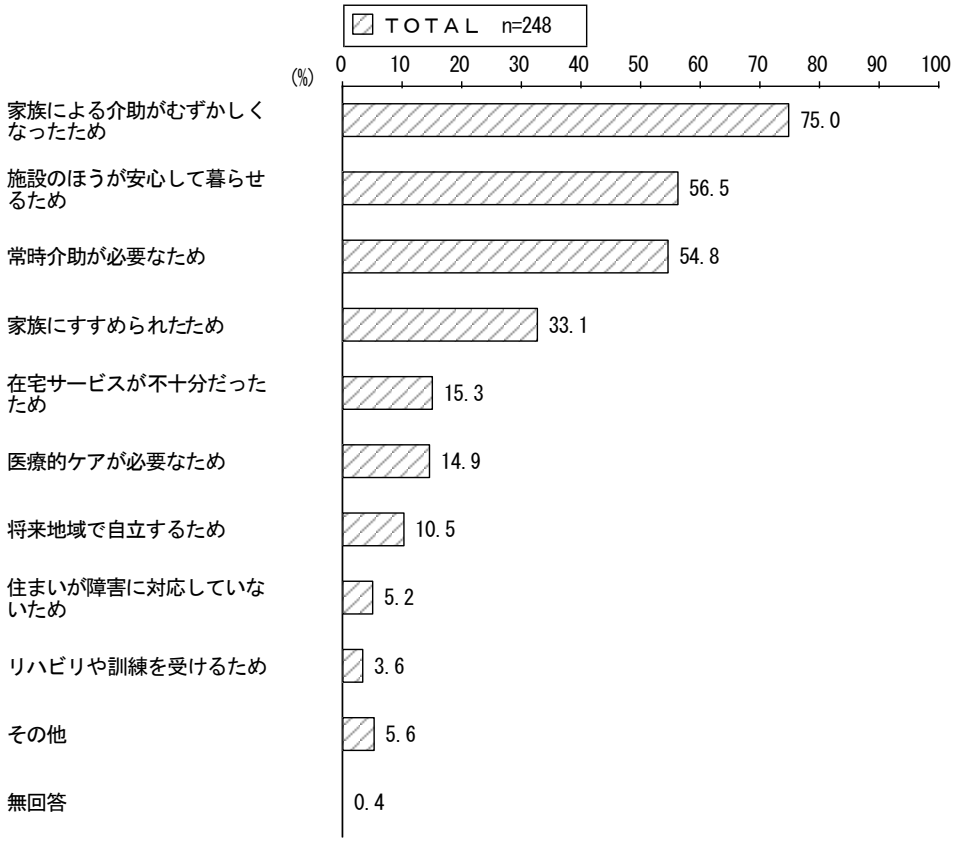
入所期間は、「5 年未満」が 15.7%、「5～10 年未満」が 27.4%、「10～15 年未満」が 21.4%、「15～20 年未満」が 11.7%、「20 年以上」が 23.4%である。



（２）入所を決めた理由

問７ 現在の施設へ入所することを決めた理由はなんですか。（○はいくつでも）

入所を決めた理由は、「家族による介助がむずかしくなったため」が 75.0%と最も多く、次いで「施設のほうが安心して暮らせるため」（56.5%）、「常時介護が必要なため」（54.8%）と続いている。

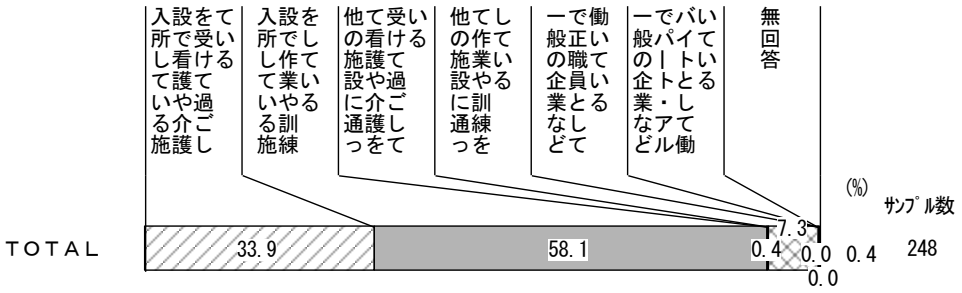


3 施設での生活状況

（１）日中の過ごし方

問８ あなたはふだん、主に日中をどのように過ごしていますか。（○は１つ）

日中の過ごし方としては、「入所している施設で作業や訓練をしている」人が 58.1%、「入所している施設で看護や介護を受けて過ごしている」人が 33.9%である。



（２）自宅へ帰る頻度

問９ 最近１年間、どのくらい自宅に帰りましたか。（○は１つ）

最近１年間で、「10 回以上」自宅に帰った人が 52.8%いる一方で、「この１年間は帰っていない」人が約２割（20.6%）いる状況である。

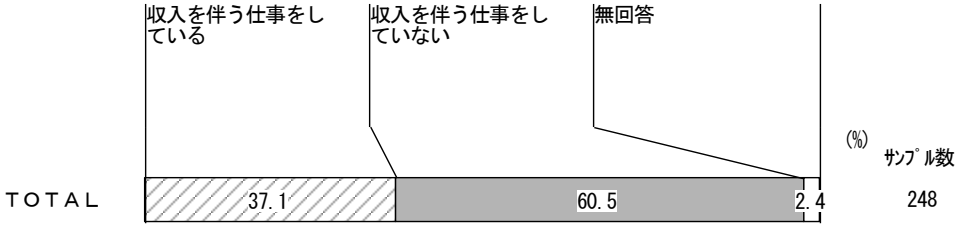
入所期間別にみると、「20 年以上」入所している人は、「10 回以上」自宅に帰った人の割合が高く、約８割（81.0%）を占めている。また、入所期間が「5 年未満」の人のうち約１割は「帰る自宅はない」（10.3%）と回答している。

入所期間	n	10回以上	6～9回	3～5回	1～2回	この1年間は帰っていない	帰る自宅はない	無回答
TOTAL	248	52.8%	2.4%	7.3%	12.5%	20.6%	4.0%	0.4%
5年未満	39	33.3%	2.6%	12.8%	15.4%	25.6%	10.3%	－
5～10年未満	68	48.5%	4.4%	4.4%	19.1%	20.6%	2.9%	－
10～15年未満	53	43.4%	3.8%	11.3%	13.2%	20.8%	5.7%	1.9%
15～20年未満	29	48.3%	－	3.4%	10.3%	34.5%	3.4%	－
20年以上	58	81.0%	－	5.2%	3.4%	10.3%	－	－
無回答	1	100.0%	－	－	－	－	－	－

（３）収入を伴う仕事の有無

問 10 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。（○は１つ）

37.1%の人が、現在「収入の伴う仕事をしている」と回答している。

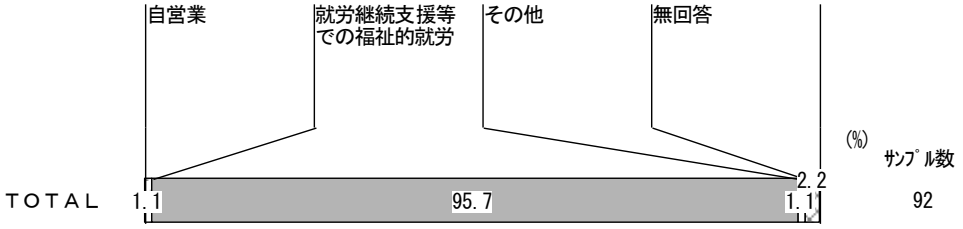


（４）仕事の形態

問 11 仕事の形態は次のうちどれですか。（○は１つ）

［収入を伴う仕事をしている人におききします］

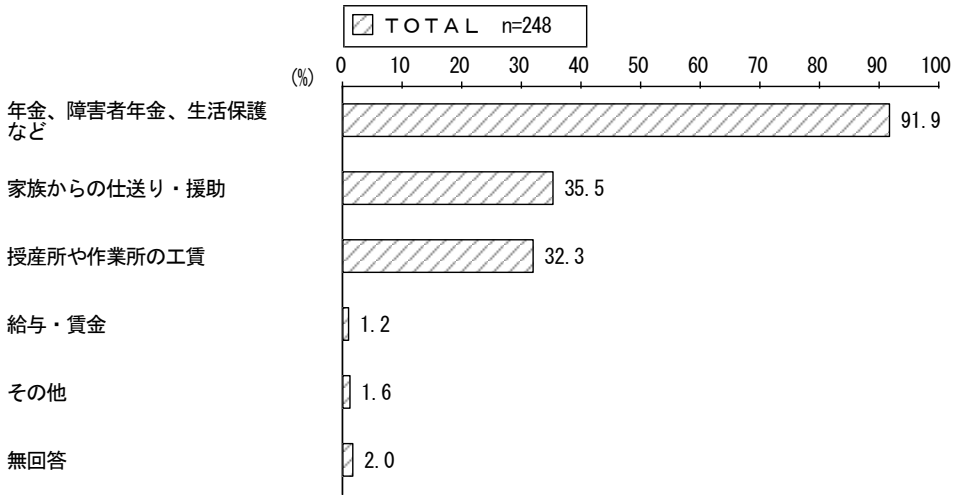
仕事の形態は、「就労継続支援等での福祉的就労」が 95.7%を占める。



（５）生活を支える収入

問 12 現在、あなたの生活を支えている収入は次のうちどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

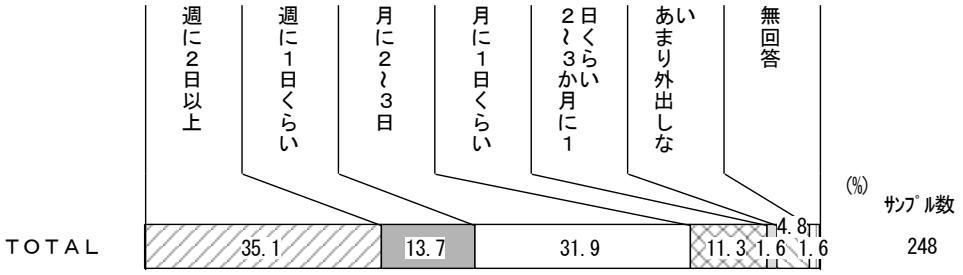
生活を支えている収入としては、「年金、障害者年金、生活保護など」をあげる人が 91.9%、「家族からの仕送り・援助」が 35.5%、「授産所や作業所の工賃」が 32.3%である。



（６）外出の頻度

問 13 どのくらい外出していますか（施設の敷地内での散歩などは含めないでください）。（○は１つ）

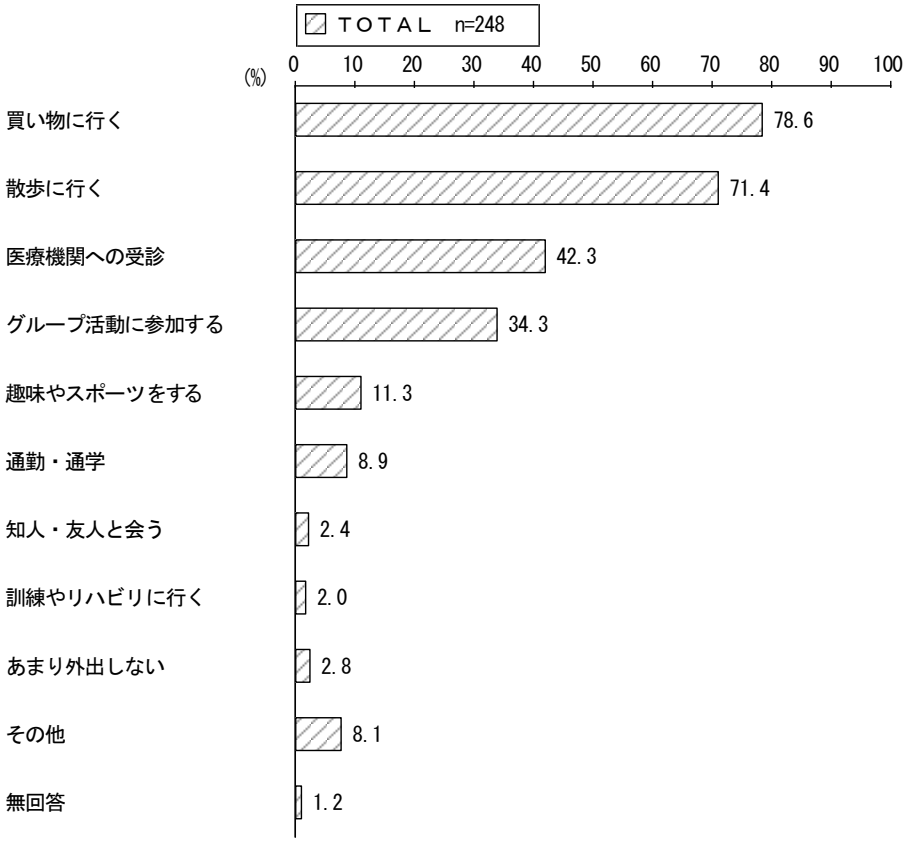
外出の頻度は、「週に２回以上」が 35.1%、「週に１日くらい」が 13.7%で、約半数の人は週に１回以上は外出しているが、約３割の人は「月に２～３日」（31.9%）の外出状況となっている。



（７）外出の目的

問 14 どのような目的で外出することが多いですか。（○はいくつでも）

外出の目的は、「買い物に行く」（78.6%）と「散歩に行く」（71.4%）がそれぞれ７割を超えて特に多い。

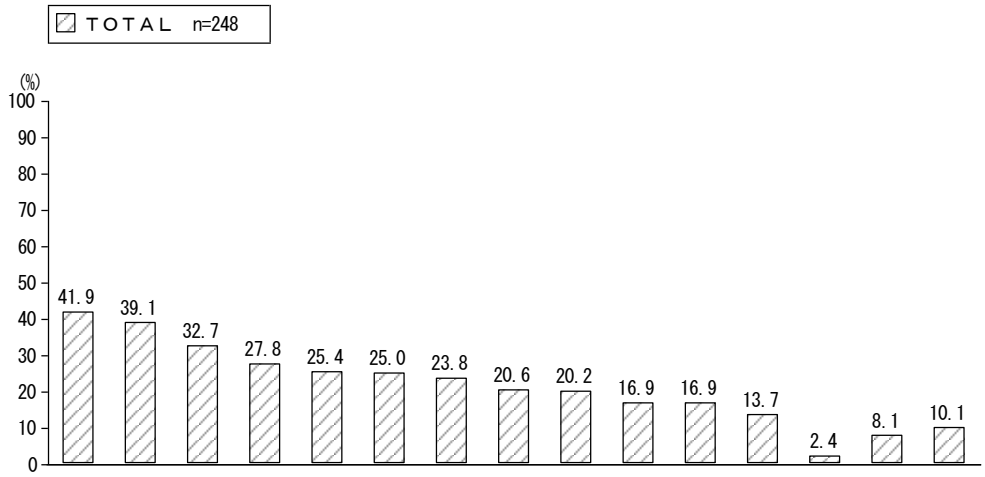


（８）外出の際に困っていること

問 15　外出するときに困っていることがありますか。（○はいくつでも）

外出の際に困っていることとしては、「外出の機会が少ない」ことをあげる人が 41.9%と最も多く、次いで「まわりの人助け・配慮が足りない」（39.1%）、「駅構内の移動・乗り換え」（32.7%）と続いている。

障害の種類別にみると、「身体障害者手帳を持っている」人では、「建物の階段・段差」（38.6%）、「歩道・道路の段差」（37.1%）、「トイレの利用」（32.9%）をあげる人が３割以上と多い。また、「発達障害と診断されたことがある」人では、「駅構内の移動・乗り換え」（53.1%）と「まわりの人の手助け・配慮が足りない」（51.6%）が５割以上と特に多くなっている。



	問４　障害、疾病状況（複数回答）（あてはまるものはない＋無回答）	n	1 外出の機会が少ない	11 足りないまわりの人の手助け・配慮が	7 駅構内の移動・乗り換え	9 トイレの利用	3 歩道・道路の段差	6 建物の階段・段差	2 付き添ってくれる人がいない	4 歩道・道路の障害物	12 周囲の目が気になる	5 バスやタクシーなどの乗り降	10 駅の券売機の利用	8 にくいエレベーターの場所がわかり	13 とくに困っていることはない	14 その他	15 無回答
0	TOTAL	248	41.9	39.1	32.7	27.8	25.4	25.0	23.8	20.6	20.2	16.9	16.9	13.7	2.4	8.1	10.1
1	身体障害者手帳を持っている	70	44.3	20.0	15.7	32.9	37.1	38.6	14.3	28.6	12.9	11.4	12.9	12.9	5.7	2.9	7.1
2	みどりの手帳（療育手帳）を持っている	204	43.6	44.6	37.7	28.9	25.0	24.0	26.0	20.1	23.5	19.1	18.6	13.7	1.5	8.8	9.3
3	精神障害者保健福祉手帳を持っている	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
4	国・埼玉県が指定する特定疾患（難病）を患っている	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
5	高次脳機能障害と診断されたことがある	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	発達障害と診断されたことがある	64	18.8	51.6	53.1	12.5	20.3	20.3	20.3	14.1	14.1	17.2	9.4	7.8	1.6	12.5	12.5
7	上記にあてはまるものはない（無回答含む）	4	50.0	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0	0.0	25.0	0.0

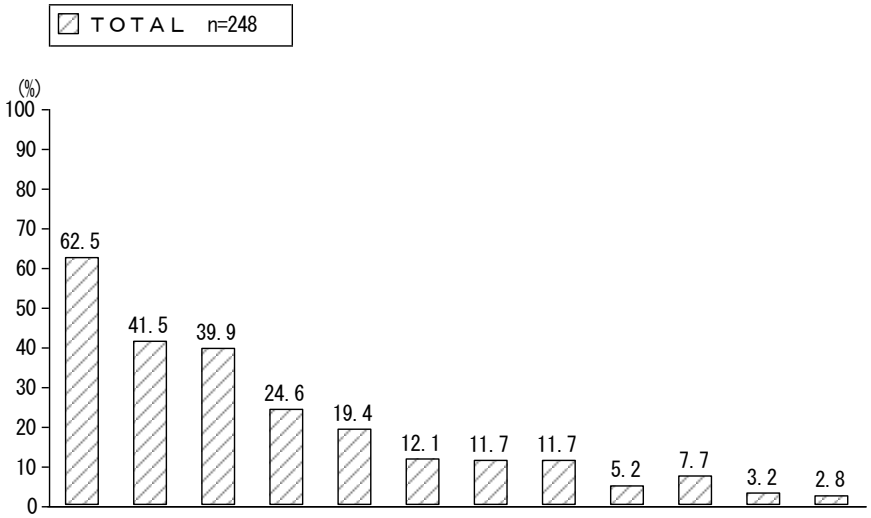
※ 複数の障害がある場合はそれぞれにカウント

（９）日常生活で困っていること

問 16 日常生活で困っていることがありますか。（○はいくつでも）

日常生活で困っていることとしては、「自分の身のまわりのことができない」ことをあげる人が 62.5%と最も多く、次いで「健康状態に不安がある」（41.5%）、「外出の機会が少ない」（39.9%）と続いている。

入所期間別にみると、「家族とあまり会えない」ことをあげた人の割合は、入所期間が短いほど高くなっている。また、入所期間が「５年未満」と短い人では、「施設での生活内容に不満がある」（28.2%）や「施設職員や入所者との関係がうまくいかない」（20.5%）をあげる人の割合が、５年以上の入所期間の人に比べて高くなっている。

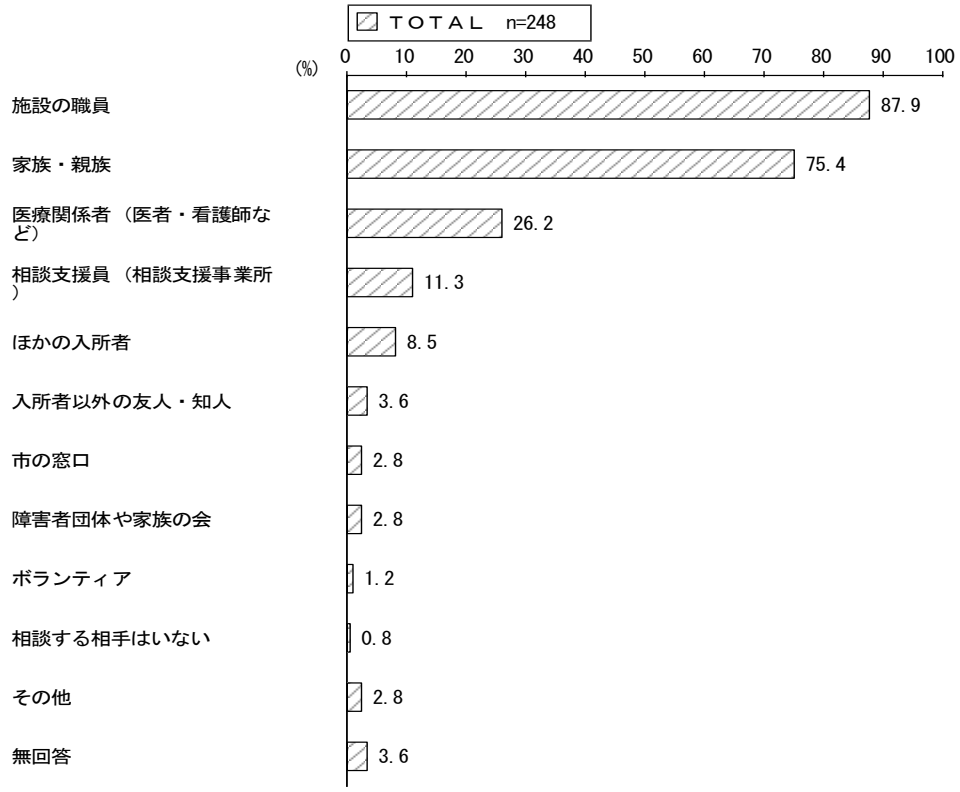


	問６ 施設への入所期間	n	1 自分で身のまわりのことができない	2 健康状態に不安がある	6 外出の機会が少ない	8 家族とあまり会えない	9 将来の生活に不安を感じている	5 プライバシーが十分保てない	3 施設での生活内容に不満がある	7 施設職員や入所者との関係がうまくいかない	4 施設での作業や訓練に不満がある	10 とくに困っていることはない	11 その他	12 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	248	62.5	41.5	39.9	24.6	19.4	12.1	11.7	11.7	5.2	7.7	3.2	2.8
1	５年未満	39	59.0	35.9	43.6	35.9	17.9	10.3	28.2	20.5	7.7	12.8	0.0	0.0
2	５～１０年未満	68	66.2	51.5	69.1	32.4	23.5	10.3	8.8	5.9	8.8	7.4	4.4	0.0
3	１０～１５年未満	53	49.1	47.2	43.4	26.4	11.3	17.0	13.2	11.3	3.8	7.5	1.9	5.7
4	１５～２０年未満	29	62.1	34.5	13.8	13.8	34.5	13.8	6.9	13.8	3.4	6.9	3.4	0.0
5	２０年以上	58	74.1	31.0	13.8	12.1	15.5	10.3	5.2	12.1	1.7	5.2	5.2	6.9
6	無回答	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

（10）困ったときの相談先

問 17 あなたが困ったときに相談する相手はだれますか。（○はいくつでも）

困ったときに相談する相手は、「施設の職員」が 87.9%、「家族・親族」が 75.4%と特に多い。

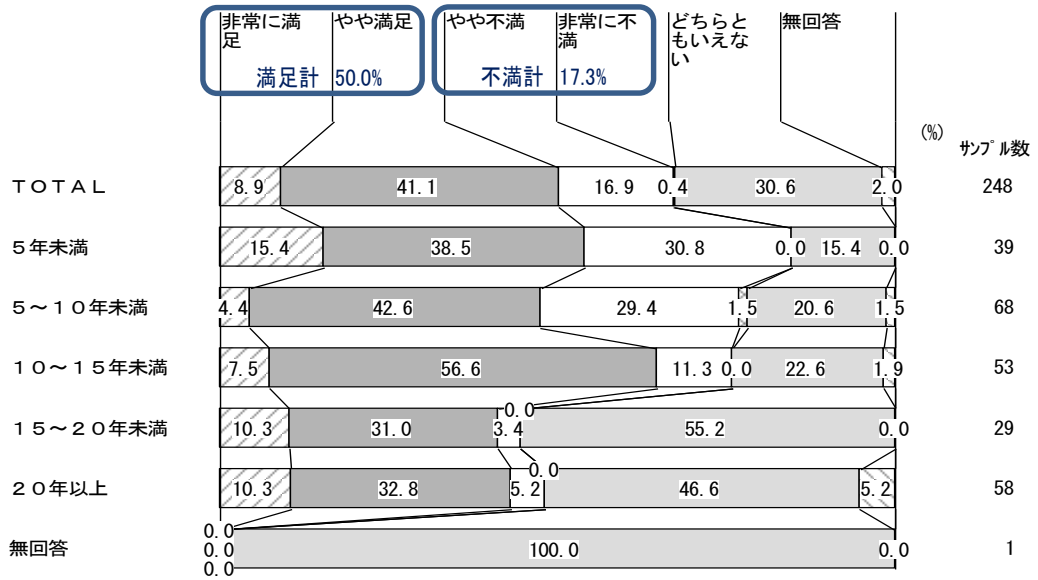


（11）施設生活の満足度

問 18 現在入所している施設の生活に満足していますか。（○は１つ）

現在入所している施設の生活に「非常に満足」している人は 8.9%、「やや満足」している人は 41.1%で、合わせると約半数の人は概ね満足していることがわかる。

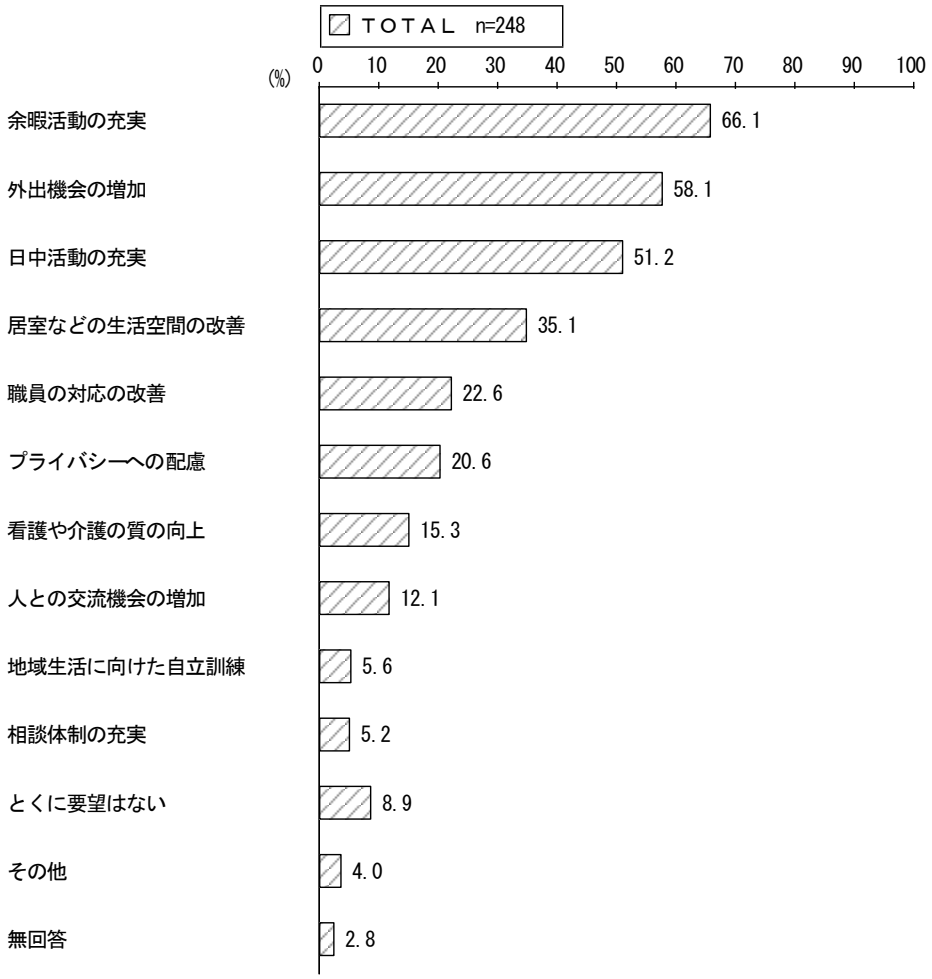
入所期間別にみると、入所期間が「5 年未満」、「5～10 年未満」では、「やや不満」と感じている人が約 3 割みられるが、「10～15 年未満」では約 1 割（11.3%）、「15～20 年未満」、「20 年以上」では数パーセントと、不満を感じている人の割合が低くなっている。



（12）施設への要望

問 19 入所している施設に対してどのような要望がありますか。（○はいくつでも）

入所している施設への要望としては、「余暇活動の充実」をあげる人が 66.1%と最も多く、次いで「外出機会の増加」（58.1%）、「日中活動の充実」（51.2%）と続いている。

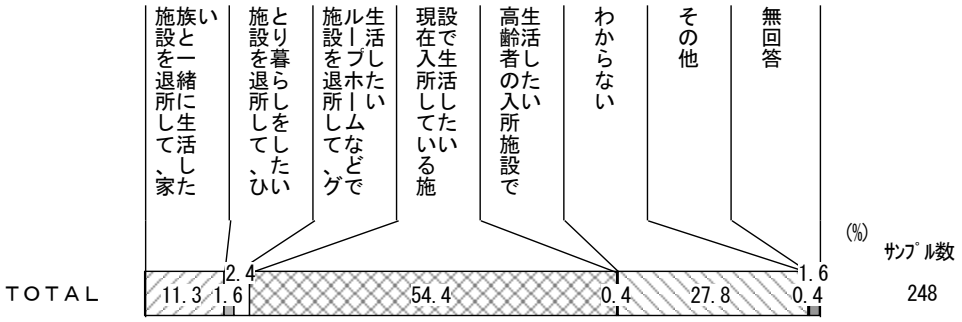


4 将来の希望

（１）将来希望する生活

問 20 あなたは将来、どのような生活をしたいと思いますか。（○は１つ）

将来は、「現在入所している施設で生活」したいと考えている人が 54.4%と最も多いが、「施設を退所して、グループホームなどで生活したい」人が６人（2.4%）、「施設を退所して、ひとり暮らしをしたい」人が４人（1.6%）みられる。

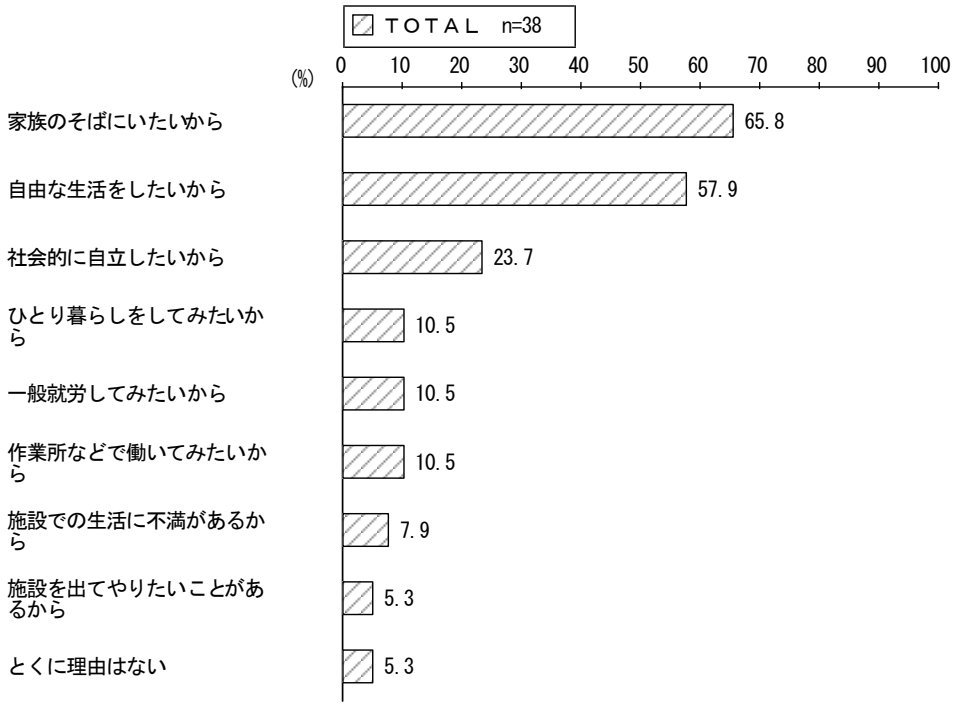


（２）施設を退所したい理由

問 21 施設を退所したい理由はなんですか。（○はいくつでも）

［退所をしたいと思われている方におききします］

施設を退所したいと回答した人にその理由を尋ねたところ、最も多かった理由は「家族のそばにいたいから」（65.8%）、二番目に多かった理由は「自由な生活をしたいから」（57.9%）である。

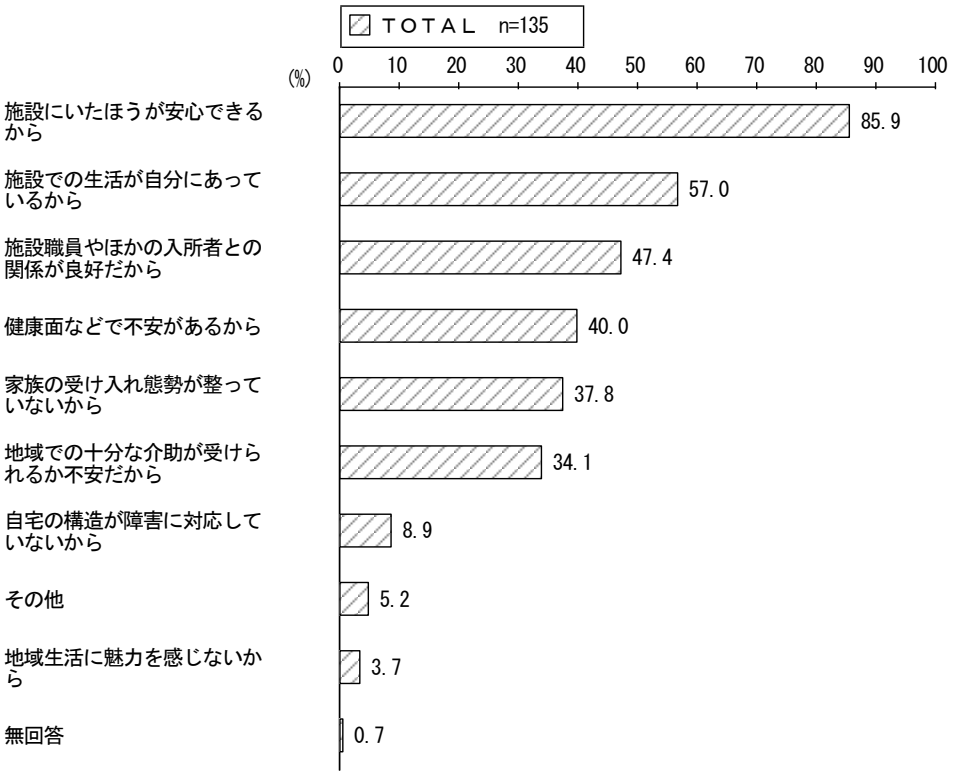


（３）施設での生活を続けたい理由

問 22 今の施設での生活を続けたい理由はなんですか。（○はいくつでも）

［現在入所している施設で生活したいと思われている方におききします］

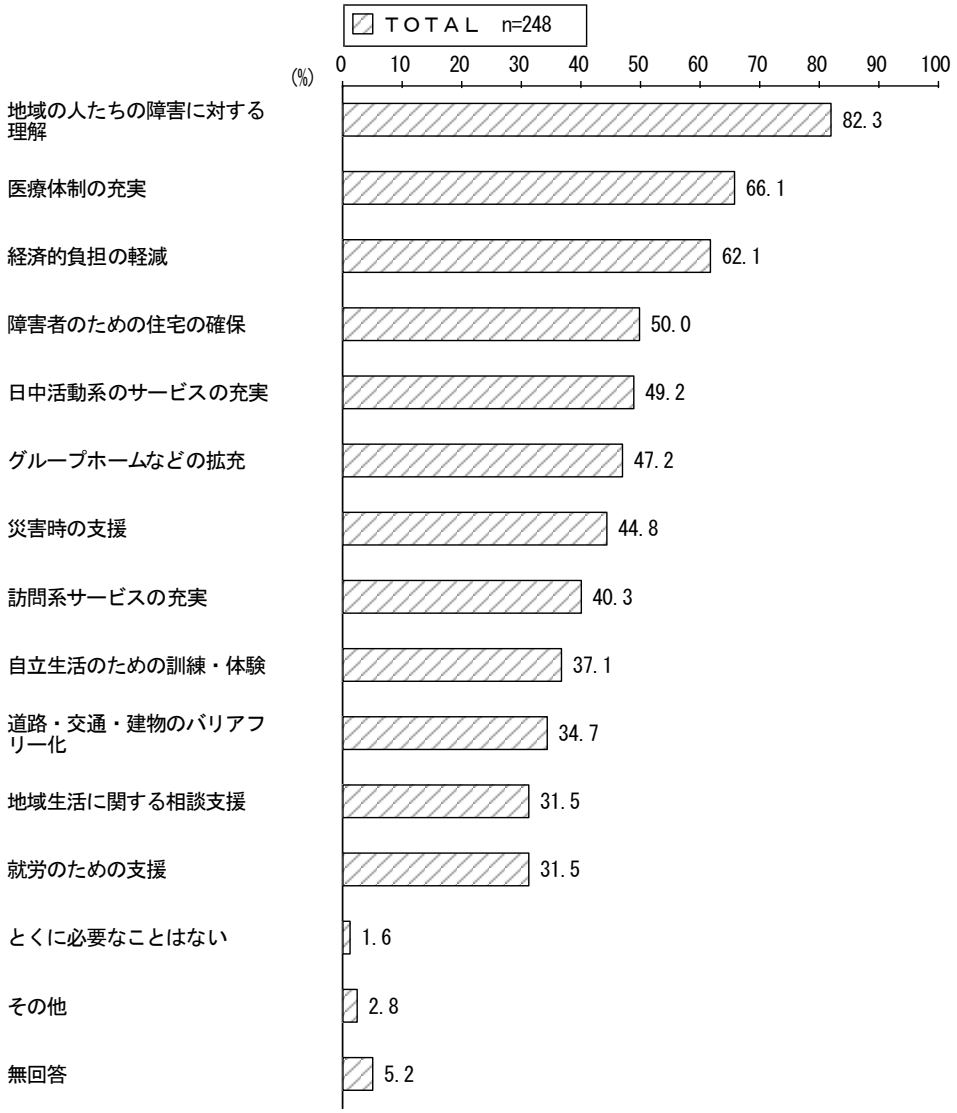
現在入所している施設で生活を続けたいと回答した人にその理由を尋ねたところ、最も多かった理由は「施設にいたほうが安心できるから」（85.9%）、二番目に多かった理由は「施設での生活が自分にあっているから」（57.0%）である。



（４）障害のある人が地域で生活するために必要なこと

問 23 障害のある人が地域で生活していくためには何が必要だと思いますか。（○はいくつでも）

障害のある人が地域で生活していくために必要だと思うこととしては、「地域の人たちの障害に対する理解」をあげる人が 82.3%と最も多く、次いで「医療体制の充実」（66.1%）、「経済的負担の軽減」（62.1%）と続いている。



（５）意見・要望等

最後に、行政へのご意見・ご要望などがありましたら、自由にお書きください。

調査の終わりにあたり、調査を通じて表現しきれなかったことや、障害者施策等に対する意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、数多くの意見・要望が寄せられた。内容はきわめて多岐にわたっており、本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介することとする。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を、できる限り原文に近い表記で紹介するよう心がけた。

【環境整備などに関すること】

- 体力の低下もあり、川越市内の段差等が、転倒のおそれもあり、不安です。川越市内を見回り、バリアフリーが必要な所には、改善をして下さい。（40 代）
- 横断歩道での障害者用の押しボタンが少ない。（身体障害者、全盲の人のためにもっと数を増やして欲しい）（40 代）

【各種サービスに関すること】

- ボーリングが好きだが、自分１人では外出することができません。現在はまだ母が元気で、外出につれていってもらっていますが、母が年齢を重ねると、つれていってくれる人がいません。入所施設でもヘルパーを使えるようにしていただき、楽しくすごしていきたいです。（30 代）
- 外に洋服を買いに行きたいのですが、相談できる人もおらず、職員も足りず、なかなか、買いに行けません。気軽に、買いに行けるよう、入所施設にいても、ヘルパーを使い、外出できるようにして下さい。（40 代）
- 通院が家族や施設職員だけでは厳しく手が足りていないのでヘルパーを使えるようにして頂きたい。（30 代）
- 入所利用者も気軽に移動支援を使える様にして欲しい。（40 代）
- 入所施設なのでヘルパーが使えず外出の機会が少ない。入所職員だけでは手が足りない。（30 代）
- 福祉に対するサービスの充実をしてほしい。（40 代）
- 多動で自閉症の人々のためのサポート内容の所が少なく、有料でも良いので、あるとありがたい（30 代）
- てんかん発作が多く、やりたいことがあっても発作によって生活が制限されてしまう。外出時は付き添いが必要だが、個別の動きにはなかなか施設は対応出来ないため、夕方少しコンビニに行くだけでも、ヘルパーを使えるようにしてほしい。（30 代）
- てんかん発作があるため毎日朝と夕方に服薬が必要であるが自分では忘れてしまうことがあるため付きそいが必要。休日の外出時にサポートがないと不安。（20 代）
- 通院している病院が遠いため、高齢の両親がつれていかなくてはならない。近くの医療を充実させて欲しい。また、通院も、施設の職員と行ける様にして欲しい。（30 代）

【施設の整備などに関すること】

- 入所施設やグループホーム等、障害をもった方々が暮らせる場所を作って下さい。親に支えてもらっている人達は親が高齢になると、生きて行く場所がなくなっていきます。（30 代）
- 同じような障害を持った仲間が地域でしっかりと生活をしていくためのグループホーム、入所施設等の住宅を増設して欲しい。（30 代）
- 現在、入所施設を利用したくても利用出来ない障害者が増加しています。障害者のための住宅の確保を至急お願いします。（40 代）

・　家族と自宅で生活することが難しく、入所施設で生活をしている。それでも、まわりの利用者の声が気になったり、調子の悪い人がいると、自分も不調になってしまう。利用者の人数がもっと少ない、静かな環境のグループホームで生活がしたい。（20 代）
・　施設を減らすのではなく、増やしながら障害者の自立を考えていく行政のやりかたをしてほしい。理由はすべての障害者が自立できるわけではないからと、入所希望待機者が多くいるのが現実だからです。（50 代）
・　入所施設をもっと増やしてほしい。（30 代）

【工賃などに関すること】

・　障害をもった方々が作った商品を売るために、市役所販売等、販売場所をもっと作って下さい。また作業所の工賃、年金だけでは、なかなか生活ができません。（40 代）
・　作業所の工賃、年金だけでは、お金が足りません。障害を持った方々が、安心してくらせるように、経済的負担をなくして下さい。また、工賃があがるよう、作業所の商品の販売場所などの提供をして下さい。（20 代）
・　作業所の工賃をもっと増やして欲しい。（30 代）

【経済的な援助に関すること】

・　電動車イスの日本製は使いにくく、海外製の物を使用しているがとても高額なため、もっと助成金を出して負担を軽くして欲しい。（40 代）
・　障害者年金や作業所工賃で生活をしているので、経済的負担の軽減など見直しを行ってほしい。（40 代）
・　年金を増やしてほしい。（40 代）
・　もっと助成金関係を増やしてほしい。（50 代）
・　施設利用にあたり、障害者の経済的負担が大きくなっており、生活するためのお金が足りない状況です。経済的負担を軽減してほしい。（50 代）

【余暇活動などに関すること】

・　休日、障害者が利用できる講座を増やして下さい。また、その講座が、誰でも利用できるように、送迎等もして下さい。（40 代）
・　余暇活動の充実のため、入所でも、生活サポートを使えるようにしてほしい。職員も少なく、生活サポートを使えないのでは、何もできなくなってしまう。（30 代）
・　施設だけではすべてを解決できないので、オアシス等で自閉症の人達や重度の人を対象にした、休日の取り組みを作ってほしい。（30 代）
・　障害者にも高齢者の様に健康づくりの場所がもう少し増えたらと欲張ってしまいます。（40 代）
・　普段は、入所施設で生活をしており、週末は帰宅して、家族と過ごしています。それでも家族も体調が悪く、自宅の中で過したり、近所に買い物へ行くくらいのことしかできず、なかなか同年代の友達と活発に行動できるような機会が少ないので、余暇活動が充実できるような支援をつくって欲しい。（20 代）
・　行動障害のために常に手厚い支援の体制が必要。生活の場面における食事入浴等は体制を厚くしているが、休日の過ごし方まではなかなか出来ず、外出の機会が少ない。障害の重い人でも利用できる余暇の取り組みを作ってほしい。（40 代）

【施設の職員体制などに関すること】

・　職員が足りず、悩み等の相談をしたい時に、なかなか話せず、調子をくずしてしまう時があります。職員がしっかり配置できるよう、何か対策をとって下さい。（40 代）

- 休日、職員が入ってくれる事が少ないです。気持ちが不安定になり、話しを聞いてもらいたい時、何かをお願いしたい時もあります。また、何かあった時に、対応してほしいです。職員が、配置できるように、補助金の制度等、対策を考えて下さい。（30 代）
- 糖尿のため、毎日注射を打っていますが、看護師が少ないため、休日に入所で注射がうてず、休日入所に利用できません。もっと、職員や看護師が増えるよう、補助金等の充実をはかって下さい。（30 代）
- 入所施設で働いている際に、仲間を担当している職員が、常にその仲間のユニットに入って支援することが難しいのが現状なので、行政の運営・管理を見直してほしい。（20 代）
- 自閉症への専門性を持った職員が不足していて生活のしづらさを抱えている。（20 代）
- 施設の職員の数をもっと増やして欲しい。（40 代）
- 障害ゆえに精神的な発作が月に数回あり、１度の発作で、長いと 12 時間以上かかる時があります。その際は夜間含め通常の職員体制に１～２人多く配置し、マンツーマンで対応しています。現状の職員体制では、まだまだ人が足りず、障害の重い人への支援が十分とはいえません。（30 代）
- 自閉症者には１対１の対応が必要なので職員の増員を切にお願いします。（40 代）
- 夜間、土日は看護師がおらず、発作等あった時に不安。（30 代）
- 心臓が弱くペースメーカーが入っています。入所で生活していますが夜間に看護師がいません。いつ何があるか分からない状態です。医療体制を考えてほしいです。（30 代）

【その他】

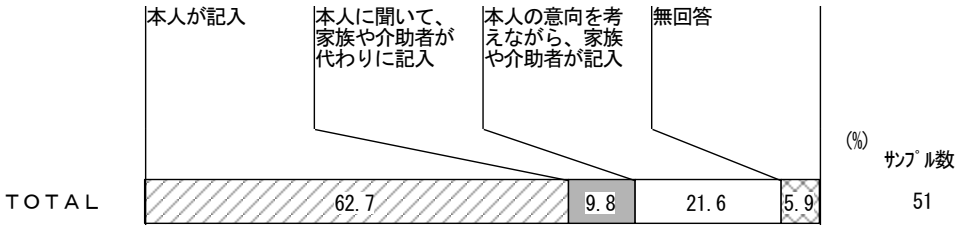
- 障害者を支援するためには、経済的負担の軽減、医療体制の充実はもちろん、地域の人々の障害に対する理解を広めていくことが必要です。地域の人々と障害者の交流の場所の提供のみならず、交流するためのイベントや障害者を理解してもらう機会を積極的に増やして欲しいと思います。（30 代）
- 地域移行を訴えることが多いが、現状では家族でみることが出来ない環境が背景にあることを知って欲しい。あくまで施設生活は最後の手段としていることを考えてもらいたい。
- 障害のある人がグループホーム等地域で暮らすにはまだまだ制度が不十分。入所施設を利用している人が地域移行するには難しい。（30 代）
- 親子での面会なども支えてくれる機会が欲しい。（40 代）
- 行政の方にはもっと現場に足を運び現場、現状を知って欲しいと思います。そこから何が不足しているのか、何が大切なのかを見い出して改善につなげて欲しいです。（20 代）
- 制度が変わる度に手続き等が複雑になり、障害者や高齢者の親は付いて行けません。親の亡き後、残された障害者の人たちが生きにくいことにならない様願っています。（40 代）
- 災害時に施設だけでは対応しきれない。利用者だけでなく、地域の方の避難場所にもなれるよう災害対策の設備に行政からも補助をしてほしい。（40 代）

1 基本的な属性

（１）調査票記入者

問１ この用紙（調査票）に記入されるのはどなたですか。（○は１つ）

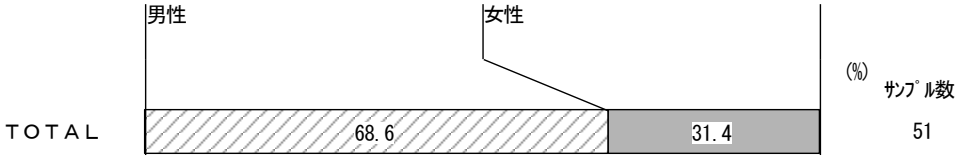
「本人が記入」が 62.7%、「本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入」が 9.8%、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」が 21.6%である。



（２）性別

問２ あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

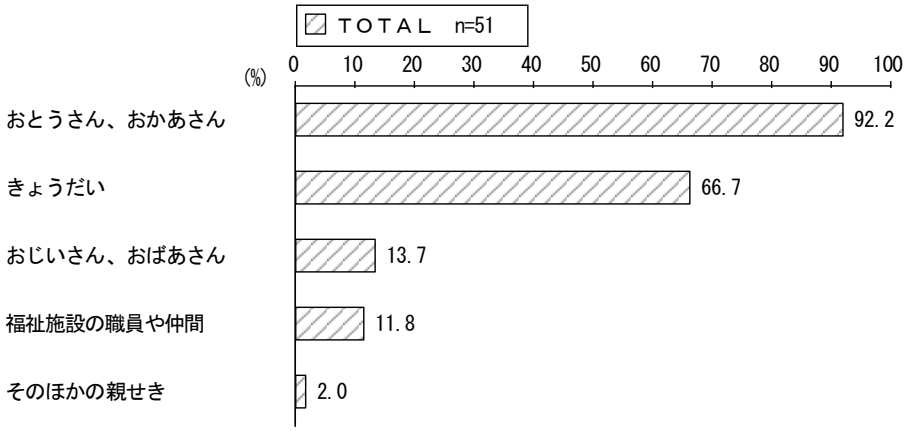
男性が 68.6%、女性が 31.4%である。



（３）同居者

問３ いっしょに暮らしている人はどなたですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

92.2%の人が「おとうさん、おかあさん」と暮らしている。また、66.7%の人は「きょうだい」と同居している。



（４）障害の状況

問６　次のうち、あてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでも）

全体では、「みどりの手帳（療育手帳）を持っている」生徒が 96.1%である。

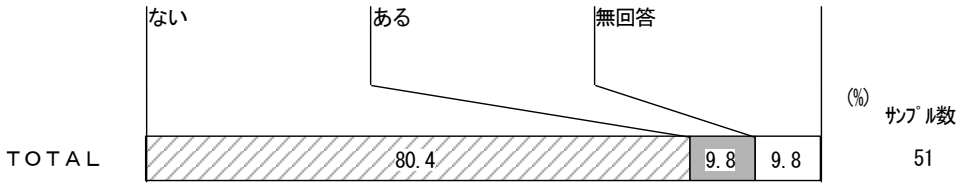
障害の重複状況をみると、「みどりの手帳（療育手帳）を持っている」49 人のうち 10 人（20.4%）は、「発達障害と診断されたことがある」と回答している。

	n	身体障害者手帳を持っている	みどりの手帳（療育手帳）を持っている	精神障害者保健福祉手帳を持っている	発達障害と診断されたことがある	上記にあてはまるものはない・無回答
TOTAL	51 100.0%	5 9.8%	49 96.1%	1 2.0%	10 19.6%	1 2.0%
身体障害者手帳を持っている	5 100.0%	5 100.0%	4 80.0%	－ －	－ －	－ －
みどりの手帳（療育手帳）を持っている	49 100.0%	4 8.2%	49 100.0%	1 2.0%	10 20.4%	－ －
精神障害者保健福祉手帳を持っている	1 100.0%	－ －	1 100.0%	1 100.0%	－ －	－ －
発達障害と診断されたことがある	10 100.0%	－ －	10 100.0%	－ －	10 100.0%	－ －
上記にあてはまるものはない・無回答	1 100.0%	－ －	－ －	－ －	－ －	1 100.0%

（５）障害程度区分

問７　障害者総合支援法（障害者自立支援法）に基づく介護給付を受けるために「障害程度区分（６段階）」の認定を受けたことがありますか。ある場合には、区分にも○をつけてください。（○は１つ）

障害程度区分の認定を受けたことが「ある」生徒は 51 人中５人（9.8%）で、区分としては「区分１」が２人、「区分４」「区分５」「区分６」がそれぞれ１人ずつである。

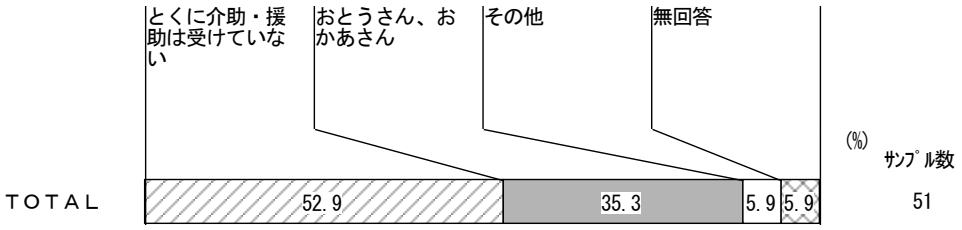


2 介助・援助の状況

（１）主な介助・援助者

問４ ふだん、あなたを主に介助・援助しているのはどなたですか。（○は１つ）

52.9%の生徒は「とくに介助・援助は受けていない」が、主な介助・援助者として「おとうさん・おかあさん」をあげる人が 35.3%いる。

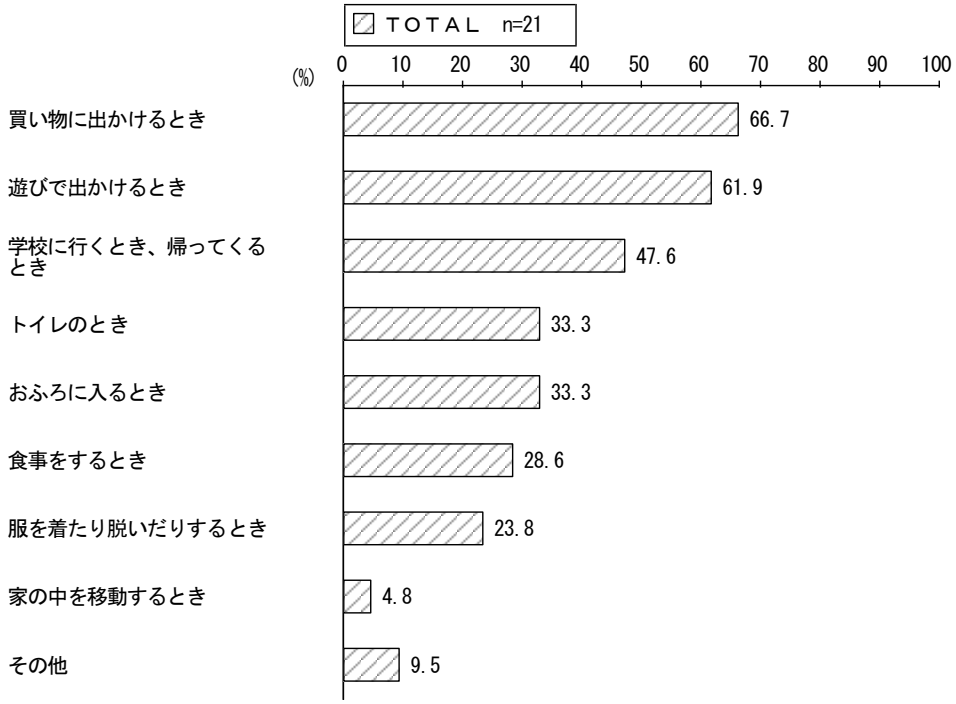


（２）介助・援助を受けている場面

問６ どのようなときに介助・援助を受けていますか。（○はいくつでも）

［介助・援助を受けている人におききします］

実際に介助・援助を受けている場面としては、「買い物に出かけるとき」が 66.7%と最も多く、次いで「遊びに出かけるとき」（61.9%）、「学校に行くとき、帰ってくるとき」（47.6%）と続いている。



回答者全員（51 人）を母数として、それぞれの場面で実際に援助・介助を受けている生徒の割合をみると、「学校に行くとき、帰ってくるとき」に介助・援助を受けている生徒は全体の約２割（19.6%）ということがわかる。

《回答者全員を母数とした場合の介助・援助を受けている人の割合》

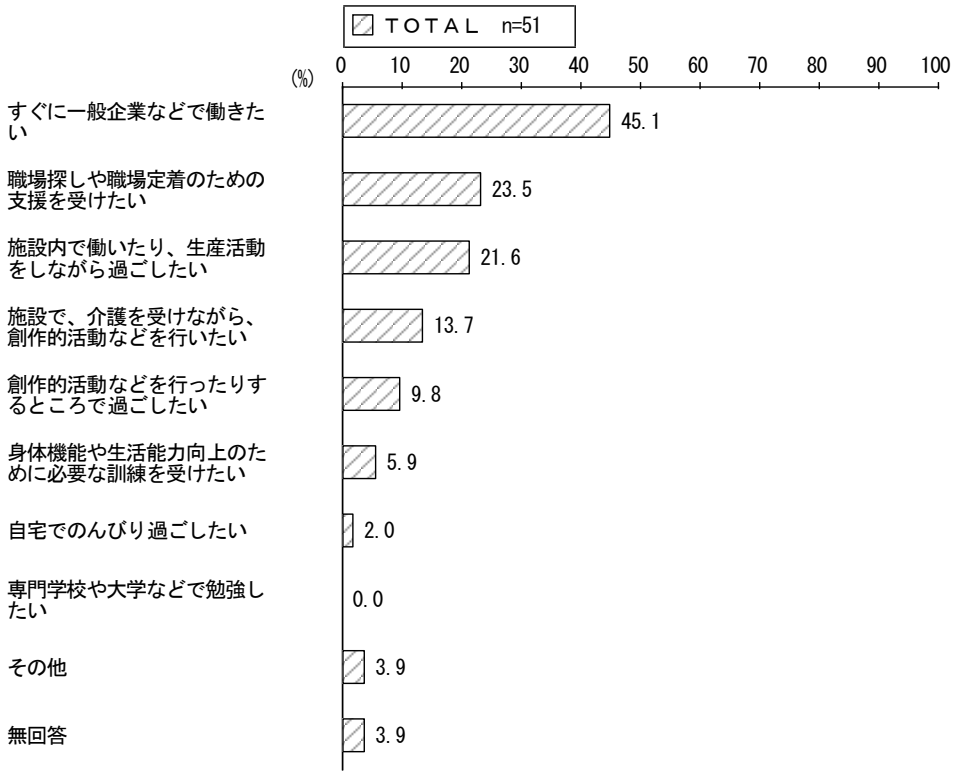
	買い物に出かけるとき	遊びで出かけるとき	学校に行くとき、帰ってくるとき	トイレのとき	おふろに入るとき	食事をするとき	服を着たり脱いだりするとき	家の中を移動するとき	その他
n=51	27.5%	25.5%	19.6%	13.7%	13.7%	11.8%	9.8%	2.0%	3.9%

3 学校卒業後について

（１）学校卒業後の日中の過ごし方

問８　学校を卒業したら、どのように日中を過ごしたいと思いますか。過ごしたいと思うところ（過ごし方）を選んで○をつけてください。過ごしたいと思うところが、いくつもある場合には、いくつも○をつけていただいてかまいません。（○はいくつでも）

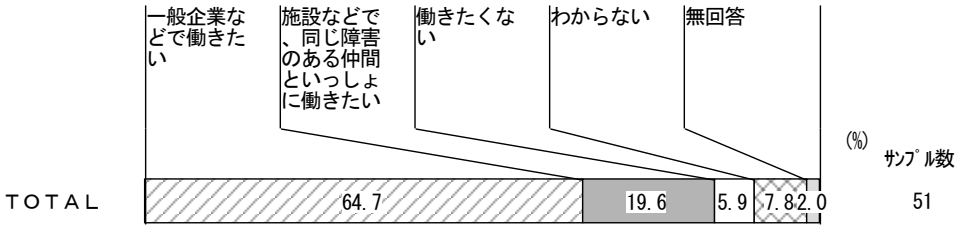
学校卒業後の日中の過ごし方についての希望を尋ねたところ、45.1%の生徒は「すぐに一般企業などで働きたい」と回答している。



（２）就労意向

問９　今後、あなたは、一般の会社などで働いてみたいと思いますか。卒業してすぐにではなく、将来、さまざまな条件・支援が整った場合を想定してお答えください。（○は１つ）

将来、様々な条件・支援が整った場合を想定して、「一般企業などで働きたい」と回答した生徒は 64.7%、「施設などで、同じ障害のある仲間といっしょに働きたい」と回答した生徒は 19.6%で、「働きたくない」と考えている生徒は 5.9%にとどまっている。



（３）働くために整っていればよいと思う環境・支援

問 10 そのような働き方をするためには、どのような環境が整っていればよいと思いますか。また、どのような支援が必要になると思いますか。

[今後、働いてみたい人におききます]

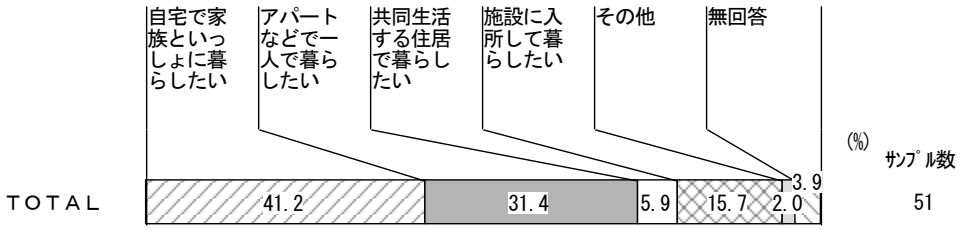
働くために整っていればよいと思う環境・支援等については、具体的に次のような記入があった。

- 時給が高いところで働きたい。
- ふつうに働けるようにしたい。
- あまり遠すぎないところが良い。電車の乗り換えは多すぎない方が良い。
- わきあいあいと人とつき合える環境がいいです。
- やりがいが感じられる職場・仲間。
- だれからも、好かれて、話しやすい、明るい環境。
- あきっぽいところがあるので、勤務時間の配慮がほしいと思っています。
- 仕事をきめておくこと。
- その人にあった仕事内容をさがす。
- 障害の程度を理解して頂き、定期的に面談等の時間を作ってもらいながら、日々働いている様子を見守って頂けたらと思います。困ったことがあったらすぐに相談にのってもらえる体制。
- 指導される職員さんの、その子に適した指導方法で長い目で見守って頂ける環境。
- 相手とどう接したらいいかわからない。仲良くなれる方法を知りたい。
- 人間関係を広めたい。
- 生活について学びたい。
- 雇用形態の安定
- 定着支援
- お金の計算、お金の管理が一人では出来ない。切符を購入する時に手伝ってほしい。
- 障害者の人数に対して福祉施設が不足してきているので新しい施設を作っていただきたい。
- 通所施設（作業所等）への送迎の支援が必要。
- 車いすで移動しやすい道路がたくさんできるといい。

（４）希望する暮らし方

問 11 将来はどこで暮らしたいと思いますか。（○は１つ）

将来については、41.2%の生徒が「自宅で家族といっしょに暮らしたい」、31.4%の生徒が「アパートなどで一人で暮らしたい」と考えている。また、「施設に入所して暮らしたい」と回答した人が 15.7%みられる。



（５）希望する暮らしをするために必要な支援、不安な点

問 12 そのような暮らしをするためには、どのような支援が必要になると思いますか。また、不安な点などがありましたら、自由にお書きください。

必要になる支援や、不安な点などについては、具体的に次のような記入があった。

【必要とする支援】

- お金の計算、お金の管理が一人ではできない。切符を購入する時に手伝ってほしい。
- ガスがつかないようにするにはどうすればいいか知りたい。
- 家族の許可と児童相談所の許可。
- 入浴に際して少し支援が必要。
- 歩行障害があっても暮らしやすいアパートがあるといい。
- 家族にめいわくをかけたくないから、自立してアパートにひっこして暮らしたい。
- 親がいなくなった後、結婚できたとしても、生活していくためには金銭的な面で援助が必要。
- 家族の支援が困難となったときに、支援してくれる（一時入所施設の利用等）環境が必要になる。
- ほとんど全介助なので、入所施設で 24 時間施設の職員の方に見て頂ける施設は、絶対に必要。
- 環境、設備、人手の整った施設が市内に少ない。また、混んでしまって入所できない状態なので、行政の指導のもとでもっと作って欲しい。
- 相談

【不安な点】

- お母さんとお父さんが、いなくなったらどうしようかが不安。
- 不安点は大地震の時どうやって避難するか。
- 家事が少々不安。

（６）意見・要望等

最後に、市へのご意見・ご要望などがありましたら、自由にお書きください。

調査の終わりにあたり、調査を通じて表現しきれなかったことや、障害者施策等に対する意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、具体的に次のような記入があった。

【環境整備などに関すること】

- 駅を利用する時、困っていたら声をかけてくれる人がいつもいてほしい。歩行者用の道の段差をなくしてほしい。
- 車のマナー違反が多い。盲学校周辺の点字ブロックを直して欲しい。
- 川越市は緑多く、落ち着いた暮らしやすい街だと思いますが、まだまだ障害のある人達が安心して暮らせる十分な施設、道路整備や人力の配置ができていると思えません。

【施設の整備などに関すること】

- 将来結婚できなければ最終的には施設に入って生活していくようになると思いますが、そういう施設が少ないと思うので増やしてほしいです。
- 川越市は、作業所等は多く、選択できるが、日中一時や短期入所を利用できる施設は少ない。

- 両親が年をとったとき、介助できなくなったときに施設に入れるのか。

【就労に関すること】

- 雇用の拡大
- 就職に対しての不安がいっぱいになってきました。いつも、ビクビクしながら生活をしています。就職とは、どんなものかまだ分からない部分があります。でも、いつまでもハッキリさせないでいると、時間ばっかりが過ぎて、もったいないなぁと感じています。たとえ、就職したとしても、長く続けられるかどうか、「辞めて下さい」と言われるか、という不安が自分の中で生まれてきます。もし、就職をしたとしたら、約 40 年近く仕事をしていかないと思うと同じ職場でずっと仕事ができるかというところでまた同じ不安が頭をよぎります。
- 特別支援学校の在籍している生徒を考えると福祉的就労するための施設が不足しています。皆が安心して働ける場は絶対に必要なため早急に川越市内に施設を作っていただきたいです。
- 移行支援から企業へと国や行政が言うのなら、市の施設でもっと雇用して下さい。

【障害に対する理解に関すること】

- 障害者だからってなめないで、ふつうの態度をしてほしい。
- 職場の方々に見た目だけで判断しないでほしいです。障害者だからといって子ども扱いしないでほしいです。

【その他】

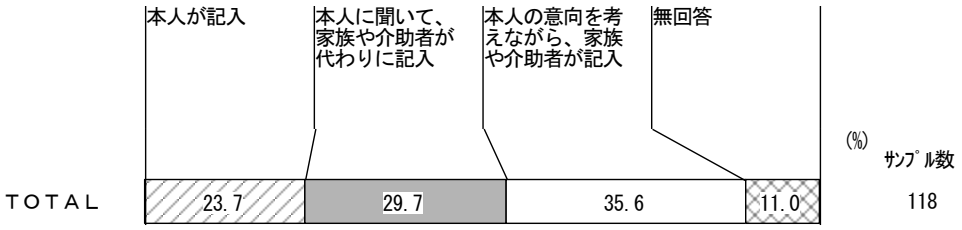
- もう少しボランティアの数を増やしてください。
- 学校にクーラーをつけて下さい。
- 給食の量を増やしてほしい。
- 市民グラウンドを使用できるようにしてもらいたい。
- 可能な範囲でできるだけサービス等を利用しながら、自宅で家族と一緒に過ごせたらと思っていますが、家族の支援が困難な状況となった時に、柔軟に対応していただけるようお願いできればと思います。
- 障害の程度としては重くないかもしれませんが、健常者と同じように働くこともできない。そんな状態の人をなんとか援助（金銭的）してもらえるようにしてほしいです。
- オアシスの利用、運営について。障害者、障害児、高齢者の区分をきちんと行政が見すえて、ごったにならない福祉を実施して下さい。

1 基本的な属性

（１）調査票記入者

問１ この用紙（調査票）に記入されるのはどなたですか。（○は１つ）

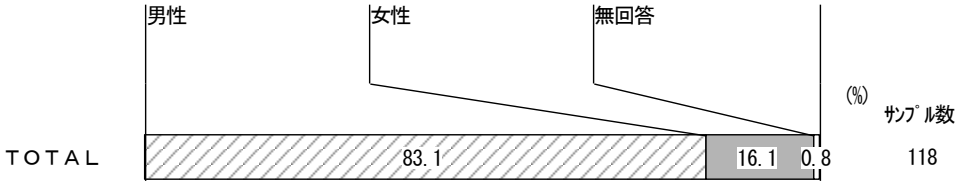
「本人が記入」が 23.7%、「本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入」が 29.7%、「本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入」が 35.6%である。



（２）性別

問２ あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

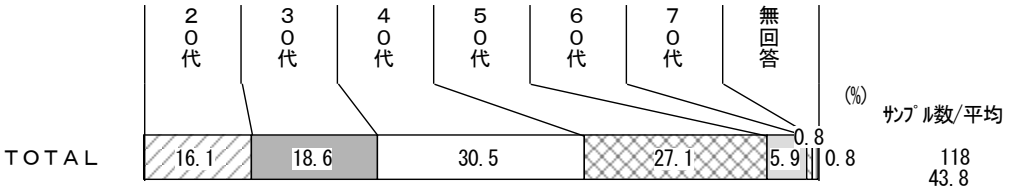
男性が 83.1%、女性が 16.1%である。



（３）年齢

問３ あなたの年齢（９月１日現在）を記入してください。

20 代 16.1%、30 代 18.6%、40 代 30.5%、50 代 27.1%で、平均年齢は 43.8 歳である。



（４）障害の状況

問４ 次のうち、あてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでも）

全体では、「みどりの手帳（療育手帳）を持っている」人が 88.1%である。

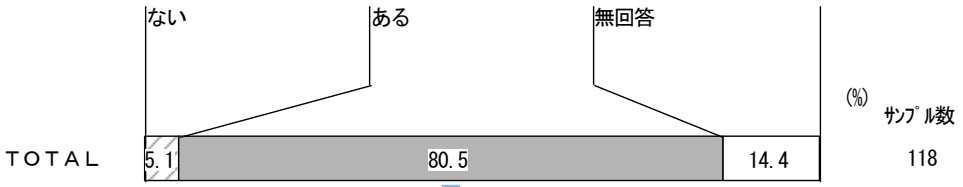
障害の重複状況をみると、「みどりの手帳（療育手帳）を持っている」人のうち 27.9%は、「発達障害と診断されたことがある」と回答している。

	n	身体障害者手帳を持っている	みどりの手帳（療育手帳）を持っている	精神障害者保健福祉手帳を持っている	発達障害と診断されたことがある	上記にあてはまるものはない・無回答
TOTAL	118 100.0%	10 8.5%	104 88.1%	5 4.2%	31 26.3%	9 7.6%
身体障害者手帳を持っている	10 100.0%	10 100.0%	9 90.0%	1 10.0%	－ －	－ －
みどりの手帳（療育手帳）を持っている	104 100.0%	9 8.7%	104 100.0%	2 1.9%	29 27.9%	－ －
精神障害者保健福祉手帳を持っている	5 100.0%	1 20.0%	2 40.0%	5 100.0%	－ －	－ －
発達障害と診断されたことがある	31 100.0%	－ －	29 93.5%	－ －	31 100.0%	－ －
上記にあてはまるものはない・無回答	9 100.0%	－ －	－ －	－ －	－ －	9 100.0%

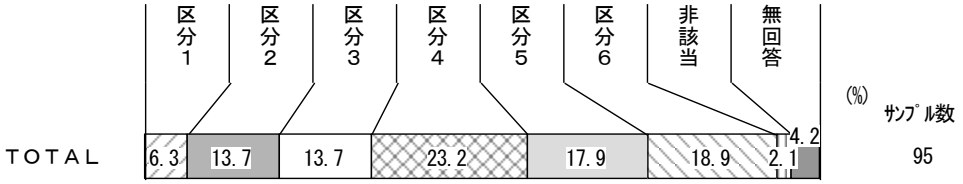
（５）障害程度区分

問５ あなたは、障害者総合支援法（障害者自立支援法）に基づく介護給付を受けるために「障害程度区分（６段階）」の認定を受けたことがありますか。ある場合には、区分にも○をつけてください。（○は１つ）

障害程度区分の認定を受けたことが「ある」と回答した人は 80.5%で、区分としては「区分４」が 23.2%と最も多い。



《認定区分内訳》

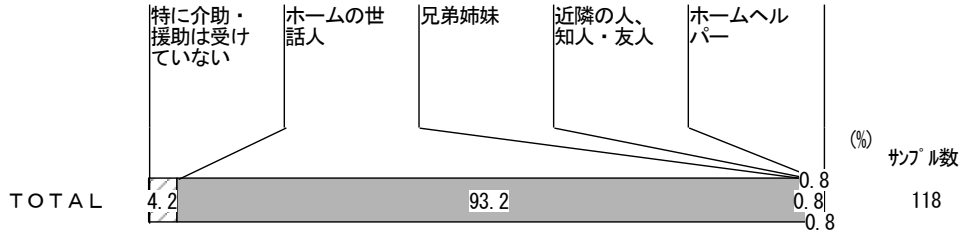


2 介助・援助の状況

（１）主な介助・援助者

問６ ふだん、あなたを主に介助・援助しているのはどなたですか。（○は１つ）

主な介助・援助者は、「ホームの世話人」が 93.2%である。

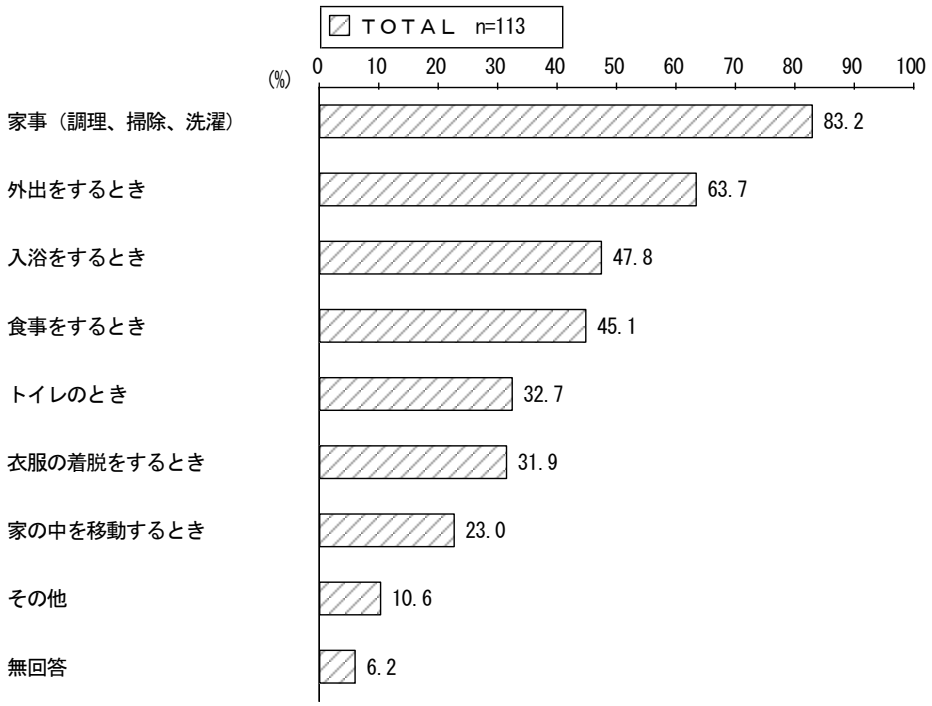


（２）介助・援助を受けている場面

問７ どのようなときに介助・援助を受けていますか。（○はいくつでも）

［介助・援助を受けている方におききします］

実際に介助・援助を受けている場面としては、「家事（調理、掃除、洗濯）」が 83.2%と最も多く、次いで「外出をするとき」（63.7%）、「入浴をするとき」（47.8%）と続いている。



なお、その他の回答としては、「金銭管理」、「服薬時」などの回答があった。

（３）外出で介助・援助を受けているときの外出目的

問８　どのような目的で外出するときに介助・援助を受けていますか。具体的にお書きください。

［外出するとき、介助・援助を受けている方におききします］

外出目的を尋ねたところ、66 人から具体的に次のような記入があった。

※ １人で複数の記入があった場合には、それぞれにカウント

目的	件数
余暇・レクリエーション	46
買い物	40
通院	26
通勤	6
食事	6
帰寮	6
帰宅	6
その他	14

余暇・レクリエーション内訳	件数
余暇	14
レクリエーション	13
カラオケ	9
映画	5
スポーツ観戦	1
図書館	1
プール	1
ボーリング	1
青年学級	1

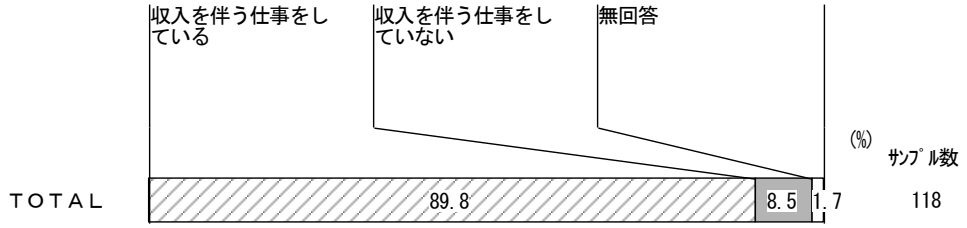
その他内訳	件数
公共交通機関	7
散髪	2
作業所	1
散歩	1
遠出	1
墓参り	1
帰省	1

3 雇用・就労について

（１）収入を伴う仕事の有無

問９ 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。（○は１つ）

現在、約９割の人は「収入を伴う仕事をしている」（89.8%）。

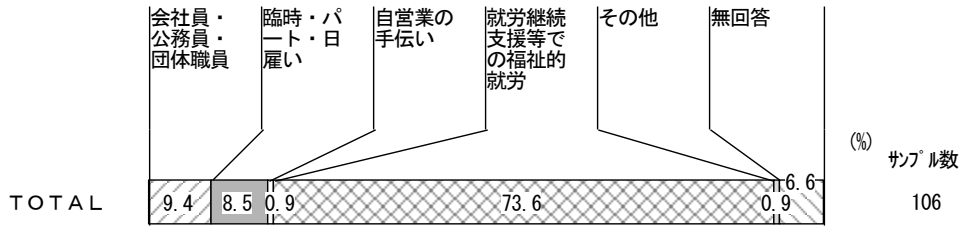


（２）仕事の形態

問 10 仕事の形態は次のうちどれですか。（○は１つ）

［収入を伴う仕事をしている人におききします］

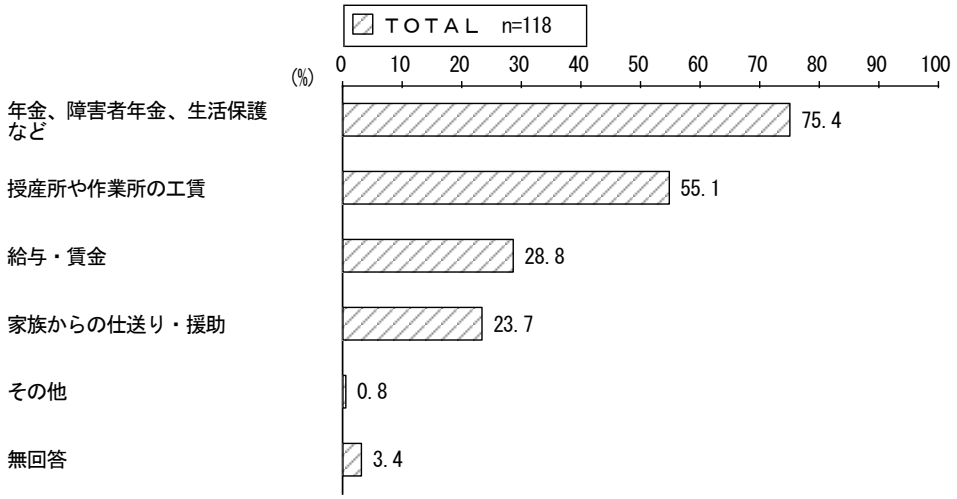
仕事の形態は、「就労継続支援等での福祉的就労」が 73.6%を占める。



（３）生活を支える収入

問 11 現在、あなたの生活を支えている収入は次のうちどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

生活を支える収入としては、75.4%の人が「年金、障害者年金、生活保護」をあげている。

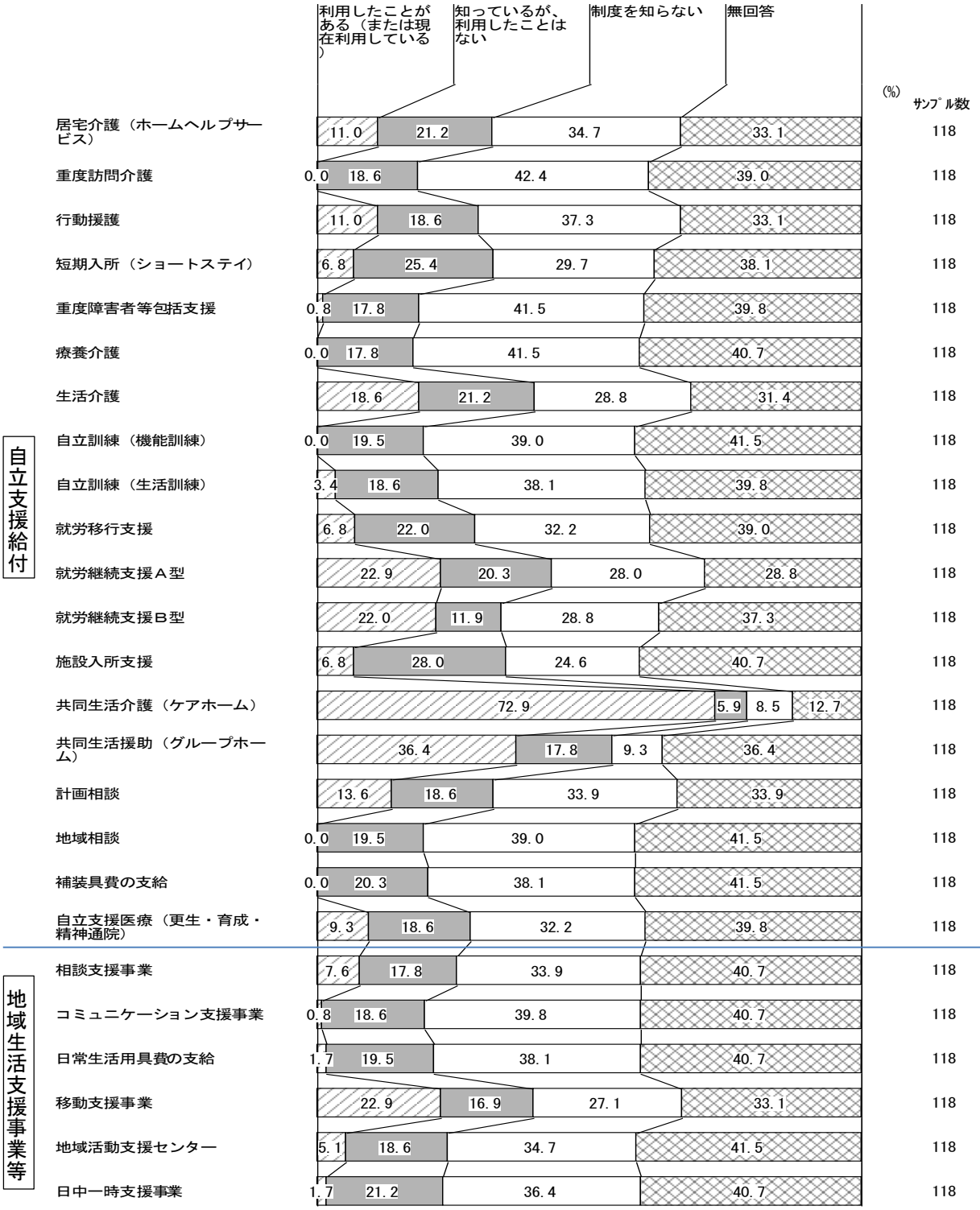


4 福祉サービスについて

（１）福祉サービスの利用状況

問 12 あなたは、次のような福祉サービスを知っていますか。また、利用したことがありますか。（○はサービスごとに１つずつ）

利用した経験のある人の割合が最も高いサービスは、「共同生活介護（ケアホーム）」（72.9%）と「共同生活援助（グループホーム）」（36.4%）を除くと、「就労継続支援 A 型」と「移動支援事業」で、それぞれ22.9%の人が「利用したことがある（または現在利用している）」と回答している。



（２）サービスを利用していて困ったこと

問 13 利用したことのあるサービスについて、何か困ったことや不満だったことがありましたら、自由にお書きください。

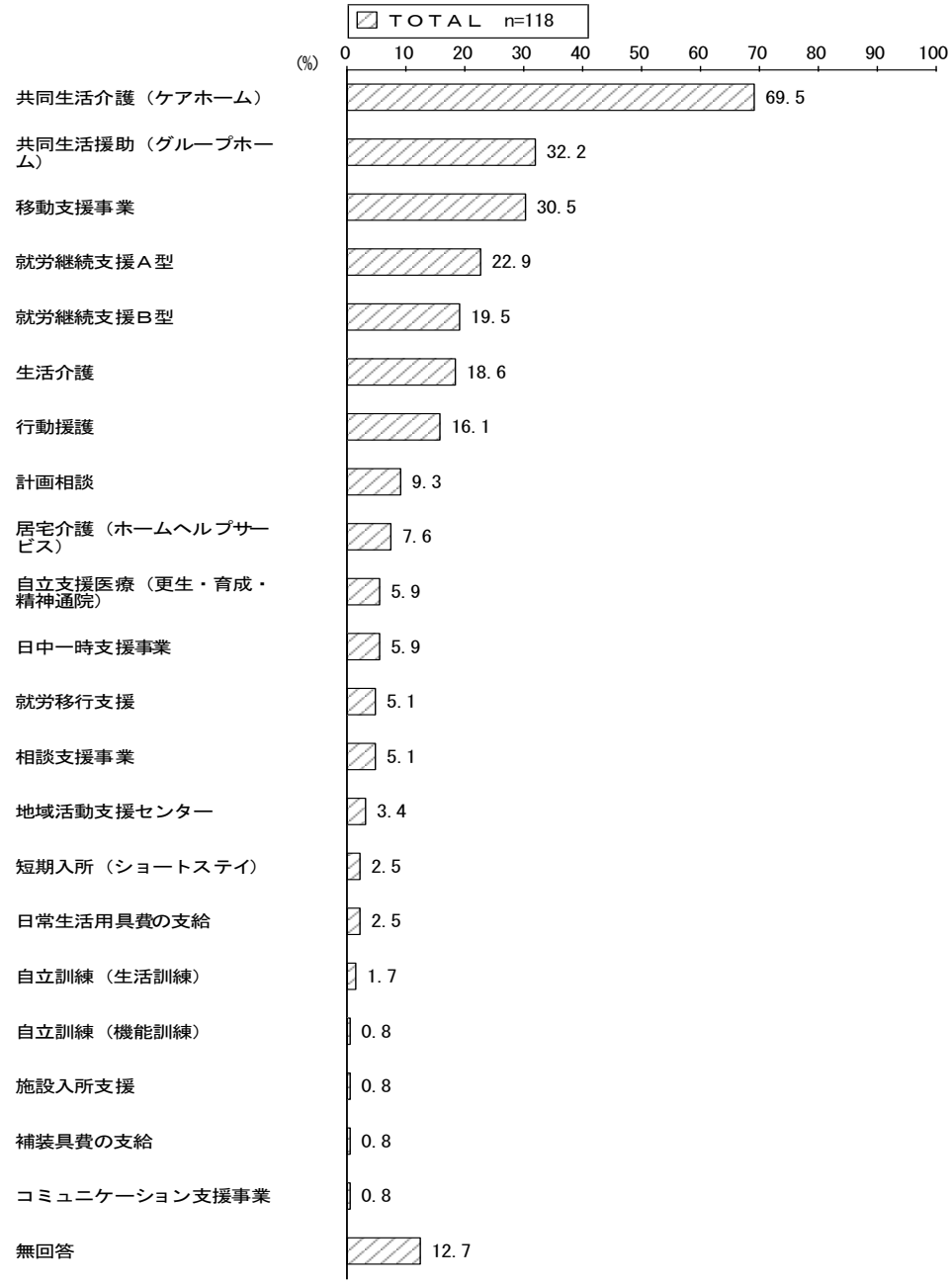
困ったことや不満については、具体的に次のような記入があった。

- デイサービスで風呂に入りたい。（50 代）
- ヘルパーさんをもっと利用したいが、ホームに入っているので制限がある。（40 代）
- 一緒に行きたいヘルパーがいつも忙しくて利用できない。（20 代）
- 休日も平日と同じように世話人や支援員が入ってほしい。（30 代）
- トラブル（けんか）があった。頭をぶつけた。（50 代）

（３）サービスの利用意向

問 14 次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは、新たに利用したいと思うサービスはありますか。利用したいものすべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

利用したいと考えている人の割合が最も高いサービスは「共同生活介護（ケアホーム）」（69.5%）、次いで「共同生活援助（グループホーム）」（32.2%）、「移動支援事業」（30.5%）と続いている。



（４）利用してみたいサービス

問 15 利用してみたいと思うサービス、このようなサービスがあったらよいと思うサービスがありましたら、自由にお書きください。

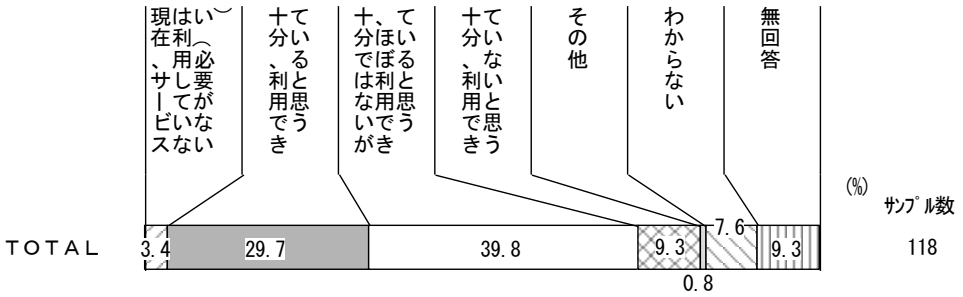
利用してみたいサービス、あったらよいと思うサービスとしては、具体的に次のような記入があった。

- パソコンの初級教室が近くで受けられるとよい。（30 代）
- 得意な折り紙サークルなどが近くにあって、通えたらよい。（40 代）
- 支援員やヘルパーさんと泊りの旅行に行ってみたい。（30 代）
- ホームヘルパーを利用してみたい。（50 代）
- 外出支援をしてもらう。（30 代）
- お風呂に入れるサービス。（50 代）
- 散歩に行きたい。（50 代）

（５）サービス利用についての充足度

問 16 あなたは、現在、必要だと思うサービスを、十分利用できていると思いますか。（○は１つ）

現在、必要だと思うサービスを「十分、利用できていると思う」と回答した人が 29.7%、「十分ではないが、ほぼ利用できていると思う」が 39.8%で、合わせると約７割の人は概ね必要だと思うサービスを利用できている状況がうかがえるが、「十分、利用できていないと思う」人も 9.3%みられる。

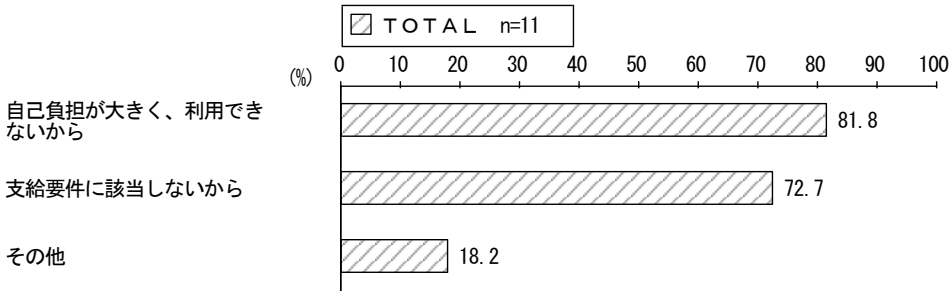


（６）必要なサービスを十分利用できていない理由

問 17 必要だと思うサービスを、十分、利用できていない理由は何ですか。（○はいくつでも）

［サービスを、十分、利用できていないと回答した方におききします］

必要なサービスを十分利用できていない理由としては、「自己負担が大きく、利用できないから」をあげる人が 81.8%と最も多く、次いで「支給要件に該当しないから」が 72.7%となっている。

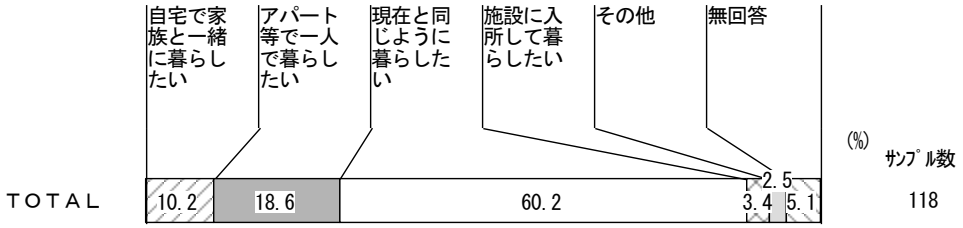


5 将来の希望

（１）希望する暮らし方

問 19 今後は、どこで暮らしたいと思いますか。（○は１つ）

今後、希望する暮らし方としては、約６割の人が「現在と同じように暮らしたい」（60.2%）と回答しているが、約２割の人は「アパート等で一人で暮らしたい」（18.6%）、約１割の人は「自宅で家族と一緒に暮らしたい」（10.2%）と考えていることがわかる。



（２）希望する暮らしをするために必要な支援

問 20 問 19 でお答えいただいたような暮らしをするためには、どのような支援が必要になると思いますか。また、不安な点などがありましたら、ご自由にお書きください。（○はいくつでも）

必要になる支援や、不安な点などについては、具体的に次のような記入があった。

【必要とする支援】

- お金のやりくり。（20 代）
- 料理ができないので習いたい。（50 代）
- 入院したときの医療的な支援。（50 代）
- 火の取り扱いが心配なので、そこだけ見てほしい。（50 代）
- 近くに相談できるところや人がいてほしい。（40 代）
- 必要なときに相談にのってくれる人が近くにいてほしい。（30 代）
- 入所してもヘルパーを利用したい。（40 代）

【不安な点】

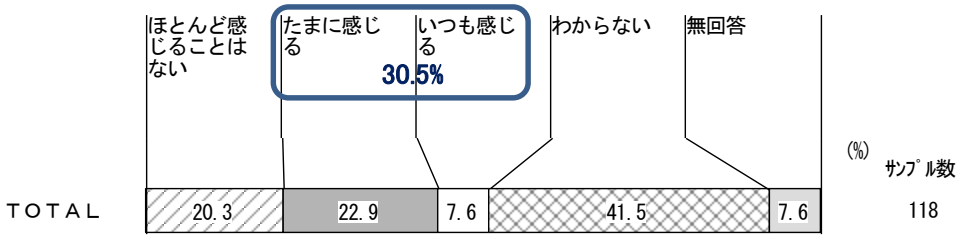
- グループホームの利用者同士がけんかをするのが困る。（20 代）
- 彼女ができなくて困る。（20 代）
- 人の会話になじめないこと。（30 代）
- 入所施設ではヘルパーが利用できないので、映画などにどうやって行ったらよいかわからない。（20 代）

6 差別・疎外感、権利擁護について

（１）差別や疎外感を感じることの有無

問 21 障害があることで、差別や疎外感を感じることがありますか。（○は１つ）

約２割の人は、障害があることによる差別や疎外感を「ほとんど感じることはない」（20.3%）と回答しているが、「たまに感じる」（22.9%）と「いつも感じる」（7.6%）を合わせると、約３割の人は差別や疎外感を感じていることがわかる。



（２）差別や疎外感を感じる具体的な場面

問 22 具体的には、どのようなときに、差別や疎外感を感じますか。

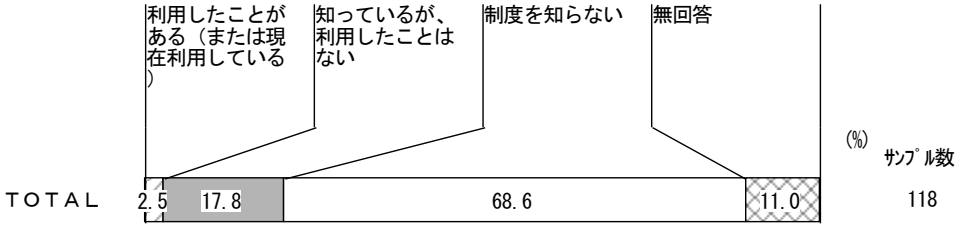
差別や疎外感を感じる場面としては、具体的に次のような記入があった。

- 友だちと話したいと思うとき。なかなか友だちができないとき。（20 代）
- 話している言葉がわからないとき。（20 代）
- なかなか相手に伝えられないとき。（30 代）
- 支援者がいないとき、買い物を断られたことがある。（20 代）
- 中学生に「しんたい」とばかにされた。（20 代）
- 電車やバスの中で。（20 代）
- 公共交通機関などでの周りのひとの視線。（50 代）
- 歩いているときにやじをとばされる。（20 代）
- 同じホームの人に「ばか」とか言われる。（60 代）
- スケッチスクールの中で疎外感を感じるときがある。（50 代）
- 見た目が普通だからか、できないことがあっても理解してもらえない。（30 代）
- 仕事中（50 代）
- 一生懸命仕事をしているのに、給与が少ないこと。（20 代）

（３）あんしんサポートねっとの認知状況

問 23 「あんしんサポートねっと」とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方が、地域で安心して生活が送れるように川越市社会福祉協議会が援助する事業です。あなたは、「あんしんサポートねっと」について知っていますか。（○は１つ）

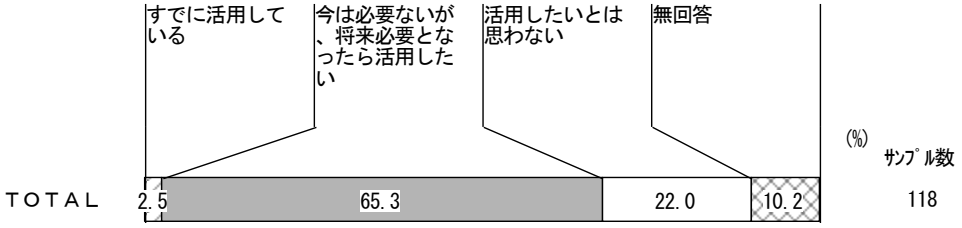
「あんしんサポートネット」を「利用したことがある（または現在利用している）」人は 3 人（2.5%）、「知っているが、利用したことはない」人は 17.8%で、合わせると事業のことを知っている人は約２割（20.3%）である。



（４）あんしんサポートねっとの利用意向

問 24 あなたは、「あんしんサポートねっと」を活用したいと思いますか。（○は１つ）

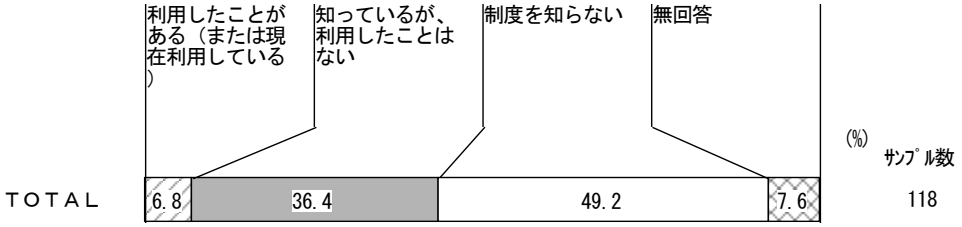
「あんしんサポートねっと」については、65.3%の人が「今は必要ないが、将来必要となったら活用したい」と考えている。



（５）成年後見制度の認知状況

問 25 「成年後見制度」とは、知的障害や精神障害などの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。（○は１つ）

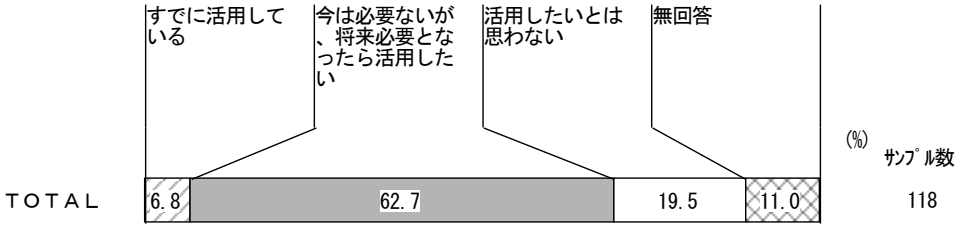
「成年後見制度」を「利用したことがある（または現在利用している）」人は 8 人（6.8%）で、約半数の人は「制度を知らない」（49.2%）と回答している。



（６）成年後見制度の利用意向

問 26 あなたは、「成年後見制度」を活用したいと思いますか。（○は１つ）

「成年後見制度」については、62.7%の人が「今は必要ないが、将来必要になったら活用したい」と回答しており、「すでに活用している」（6.8%）人を含めて、約７割の人には制度の利用意向があることがわかる。



7 行政への要望等

（１）意見・要望等

最後に、この調査を通じて、選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望、計画に盛り込みたいことなどがありましたら、自由にお書きください。

調査の終わりにあたり、調査を通じて表現しきれなかったことや、障害者施策等に対する意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、具体的に次のような記入があった。

- もっと自由にたくさんヘルパーを利用したい。ヘルパーが少ない。制限があり使いたいときに使えない。（50 代）
- アンケートがちょっと難しい。もう少しわかりやすいものにしてほしい。（50 代）
- 作業所の工賃がもっと上がってほしい。（20 代）
- 電車やバスを利用するとき、運転手の対応が適当だと思うことがある。障害者への配慮が足りない。（20代）
- 電車のホームで並んでいるときに、「障害者は後ろに行け、壁側に行け」と言われた。差別をなくしてほしい。（20 代）
- グループホームを増やしてほしいです。（20 代）
- ヘルパーの時間を増やしてほしい。（50 代）
- ここ（現在のグループホーム）にずっと住みたい。（20 代）
- 家族に会いたい。（60 代）
- 歌が好きなので、歌がうたえるところ、機会があるといい。（20 代）
- 社会復帰のアパート探しなどを協力してほしい。（50 代）
- 親の金銭的援助がなくても、一人暮らしができるくらいの経済力を持ちたい。そのための援助があるとよい。（30 代）
- 選挙の議員の名前がわからないから、選挙に行きたくない。（20 代）
- 他の作業所や事業所、ホームを見学してみたい。交流してみたい。（40 代）

1 基本的な属性

（1）調査票記入者

	n	本人が記入	本人に聞いて、家族や介助者が代わりに記入	本人の意向を考えながら、家族や介助者が記入	無回答
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－	－
発達障害者	11	54.5%	9.1%	18.2%	18.2%

（2）性別

	n	男性	女性
高次脳機能障害者	1	－	100.0%
発達障害者	11	63.6%	36.4%

（3）年齢

	n	10 代	20 代	30 代	平均年齢
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%	38.0 歳
発達障害者	11	45.5%	27.3%	27.3%	23.0 歳

（4）居住場所

	n	自宅
高次脳機能障害者	1	100.0%
発達障害者	11	100.0%

（5）同居者

	n	自分一人だけで暮らしている	配偶者（夫または妻）	父、母	祖父、祖母	兄弟、姉妹	その他の親せき
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%	－	－	－
発達障害者	11	9.1%	9.1%	72.7%	9.1%	45.5%	9.1%

（6）精神障害者保健福祉手帳に記載された障害程度

	n	1級	2級	3級
高次脳機能障害者	1	－	100.0%	－
発達障害者	11	9.1%	36.4%	54.5%

（7）診断を受けた年齢

	n	10 歳未満	10 代	20 代	30 代
高次脳機能障害者	1	－	－	－	100.0%
発達障害者	11	18.2%	36.4%	27.3%	18.2%

（８）日常生活を送る上で特に困ること、その際にあるとよい支援

問８ 発達障害があるために、日常生活を送る上で特に困ることは何ですか。
問９ 問８のようなときに、どのような支援があるとよいと思いますか。

※ 高次脳機能障害（n=1）は記入なし

困ること、また、そのときにあるとよいと思う支援の内容としては、具体的に次のような記入があった。

困ること	あるとよい支援
人とうまく話せない。（10 代）	理解
相手の言っている冗談をつい本気でとらえてしまう。そのせいで会話中にトラブルを起こしてしまう。（20 代）	「もちろん冗談を言っているのですが」という前置き（クッション言葉）を入れる。
気持ちの切り替えがうまくできない。変更ができない。（10 代）	見通しを持たせる。スケジュールを毎日書いておく（変更してもよいと教えておく。）
コミュニケーションがとりにくい。（30 代）	意図を明確にする。視覚化する。
生活が不規則。（10 代）	施設（寮のようなところ）
片付けが苦手。（10 代）	—
音が気になる。会社の電話がとれない。（30 代）	相談できる人がほしい。
知的障害がないため、理解を得るのが難しい。学校などの集団生活、こだわり行動、感覚過敏など。（10 代）	療育手帳があると支援につながりやすいので入手したい。障害に対する理解と、受け入れてもらえる場所と人。
体調の変化が激しい。（30 代）	—

（７）他の障害の状況

	n	身体障害者手帳を持っている	みどりの手帳（療育手帳）を持っている	国・埼玉県が指定する特定疾患（難病）を患っている	発達障害と診断されたことがある	上記にあてはまるものはない
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	100.0%	－	－

	n	身体障害者手帳を持っている	みどりの手帳（療育手帳）を持っている	国・埼玉県が指定する特定疾患（難病）を患っている	高次脳障害と診断されたことがある	上記にあてはまるものはない
発達障害者	11	18.2%	18.2%	－	－	63.6%

（８）障害程度の申請状況

	n	ない	ある	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%
発達障害者	11	100.0%	－	－

2 介助・援助の状況

（１）主な介助・援助者

	n	特に介助・援助は受けていない	親	配偶者	その他の親せき
高次脳機能障害者	1	－	100.0%	－	－
発達障害者	11	45.5%	36.4%	9.1%	9.1%

（２）介助・援助を受けている場面

	n	食事をするとき	食事をつくるとき	掃除をするとき	通院のとき	服薬をするとき	買い物をするとき	洗濯（干し、取り込みも含む）をするとき	お金の管理をするとき	外出をするとき	人とコミュニケーションをとるとき
高次脳機能障害者	1	100.0%	100.0%	－	100.0%	－	－	100.0%	100.0%	－	－
発達障害者	6	－	50.0%	50.0%	50.0%	33.3%	66.7%	83.3%	66.7%	66.7%	50.0%

（３）主な介助・援助者が不在のときに希望する対応

	n	同居している家族	同居していない家族や親せき	ボランティア	ホームヘルパー	その他
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－	100.0%	－
発達障害者	6	66.7%	16.7%	16.7%	33.3%	33.3%

3 外出や余暇活動等の状況

（１）外出頻度

	n	週に 5 日以上	週に 3～4 日	週に 1～2 日	月に 2～3 日
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%	－
発達障害者	11	63.6%	18.2%	9.1%	9.1%

（２）外出の際に困っていること

	n	付き添ってくれる人がいない	他人との会話が難しい	他人の視線が気になる	必要なときに、まわりの人の手助け・配慮が足りない	その他	特に困っていることはない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	100.0%	－
発達障害者	11	9.1%	36.4%	27.3%	9.1%	18.2%	36.4%	18.2%

（３）現在行っている生涯学習活動・余暇活動

	n	趣味の活動をする	教養・資格取得等に関する学習をする	近所を散歩する	友人・知人と会って交流を深める	デパートや店等を見て歩く	観劇・映画・コンサート・カラオケ等に行く	スポーツをする	地域の行事に参加する	図書館・博物館等に行く	テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする	その他	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	100.0%	－	－	－	100.0%	－	－
発達障害者	11	45.5%	18.2%	9.1%	18.2%	9.1%	9.1%	36.4%	9.1%	27.3%	63.6%	9.1%	9.1%

（４）今後行いたい生涯学習活動・余暇活動

	n	趣味の活動をする	教養・資格取得等に関する学習をする	近所を散歩する	友人・知人と会って交流を深める	デパートや店等を見て歩く	観劇・映画・コンサート・カラオケ等に行く	スポーツをする	旅行に出かける	図書館・博物館等に行く	テレビ・ビデオを観たり、ゲーム等をする	その他	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	100.0%	－	100.0%	－	－	－	－
発達障害者	11	45.5%	9.1%	18.2%	27.3%	9.1%	36.4%	36.4%	63.6%	9.1%	45.5%	18.2%	9.1%

（５）希望する活動を行うために必要な条件

	n	情報が市の広報や町内広報その他で広く提供されること	一緒に行く仲間がいること	活動する場所が近くにあること	魅力的な内容であること	適切な指導者がいること	障害のある人に配慮した施設や設備があること	介助者・援助者がいること	特にない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0%
発達障害者	11	36.4%	54.5%	36.4%	27.3%	36.4%	18.2%	9.1%	27.3%	9.1%

（６）近所とのつきあいの程度

	n	積極的に行っている	必要に応じて行っている	あいさつ程度はしている	ほとんど行っていない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%	－	－
発達障害者	11	－	－	27.3%	63.6%	9.1%

4 健康状態や医療について

（１）最近の健康状態

	n	健康である	通院はしていないが、病弱・病気がちである	通院している
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%
発達障害者	11	54.5%	－	45.5%

（２）健康管理や医療について困ったり不便に思うこと

	n	近所に診てくれる医師がいない	専門的な治療を行っている医療機関が身近にない	通院するときに付き添いをしてくれる人がいない	診療をことわられる	気軽に往診を頼める医師がいない	症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない	医師、看護師等の障害に対する理解が不十分	入院のとき付き添いや個室を強いられる	受診手続き案内など、障害のある人への配慮が不十分	医療費の負担が大きい	特に困ったり、不便に思うことはない	無回答
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
発達障害者	11	27.3%	45.5%	9.1%	9.1%	18.2%	27.3%	9.1%	9.1%	18.2%	36.4%	9.1	9.1%

（３）健康診断（健康診査）の受診状況

	n	市の健診・検診を受けた	人間ドック等を受けた	勤務先で健康診断を受けた	学校や福祉施設で健康診断を受けた	その他の場所で健康診断を受けた	健康診断は受けていない
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	100.0%
発達障害者	11	－	－	27.3%	27.3%	18.2%	27.3%

5 日中の過ごし方

（１）日中の過ごし方

	n	幼稚園や保育園、学校などに通っている	働いている	自宅にいることが多い
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%
発達障害者	11	27.3%	54.5%	27.3%

6 幼稚園・保育園・学校について

（１）通園・通学先

	n	小学校、中学校、高等学校	特別支援学校	専門学校・高等技術専門学校
発達障害者	3	33.3%	33.3%	33.3%

（２）幼稚園・保育園・学校に関して困っていること

	n	友だちができない	職員の理解が得られない	学校の数が少ない	生徒の理解が得られない	その他	特に困っていることはない
発達障害者	3	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%

（３）学校教育終了後の希望

	n	高等技術専門学校に進学したい	障害者施設に通所したい	就職したい
発達障害者	3	33.3%	33.3%	33.3%

7 雇用・就労について

（１）収入を伴う仕事の有無

	n	収入を伴う仕事をしている	収入を伴う仕事をしていない
高次脳機能障害者	1	－	100.0%
発達障害者	11	54.5%	45.5%

（２）仕事の形態

	n	会社員・公務員・団体職員	臨時・パート・日雇い	就労継続支援等での福祉的就労
発達障害者	6	50.0%	33.3%	16.7%

（３）仕事で困ること、つらいこと

	n	通勤がたいへん	収入が少ない	仕事がきつい	仕事が合わない	職場の人間関係	職場の中の環境の未整備（トイレ、休憩室等）	コミュニケーションができない	体調のコントロールが難しい	その他
発達障害者	6	50.0%	33.3%	16.7%	16.7%	50.0%	33.3%	66.7%	83.3%	16.7%

（４）仕事をしていない理由

	n	就学中・技能研修中	自分の希望する仕事が見つからない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%
発達障害者	5	80.0%	20.0%	－

（５）就労意向

	n	働きたい	働きたくない
高次脳機能障害者	1	100.0%	－
発達障害者	5	80.0%	20.0%

（６）障害のある人の就業を促進するために希望すること

	n	経営者の理解	従業員の理解	行政の民間企業指導	職業訓練施設の増設	就労継続支援施設の増設	就業あっせん窓口の充実	職業相談窓口の充実
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	－	－
発達障害者	11	81.8%	81.8%	36.4%	45.5%	27.3%	18.2%	27.3%

	民間企業の雇用努力	雇用率未達成企業の罰則強化	ジョブコーチの充実	就労継続支援等の障害者が働く状況、人の紹介	民間企業の障害者が働く状況、人の紹介	市の広報や社協だよりで障害者が働く状況、人の紹介	無回答
高次脳機能障害者	－	－	－	－	－	－	100.0%
発達障害者	45.5%	18.2%	54.5%	45.5%	27.3%	18.2%	9.1%

（７）生活を支える収入

	n	給与・賃金	家族からの仕送り・援助	年金、障害者年金、生活保護など	無回答
高次脳機能障害者	1	－	100.0%	100.0%	－
発達障害者	11	54.5%	54.5%	9.1%	9.1%

8 相談・情報入手について

（１）悩みや困ったことなどの相談先

	n	家族等の同居人	友人・知人・近所の人	職場や学校の人	ボランティア	相談支援事業所の相談員	病院・医師・看護師等	その他	誰かに相談することはまれである	相談する人がいない
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－	－	－	－	－	－	－
発達障害者	11	54.5%	18.2%	18.2%	9.1%	18.2%	27.3%	9.1%	9.1%	9.1%

（２）家族や親せき以外に希望する相談先

問 37 あなたは、悩みごとや心配ごとを、家族や親せき以外では、どこに相談したいですか。
また、相談するためには、どのような体制が整っているとよいと思いますか。

※ 高次脳機能障害（n=1）は記入なし

希望する相談先や相談体制について自由記入方式で意見を求めたところ、以下のような記入があった。

- 職場等に相談窓口を設けることを義務付けるべきである。（20 代）
- 市役所などの窓口。予約なしでも、いつでも相談できる窓口がほしい。（10 代）
- 市の相談員。その日のうちに連絡が返ってきてほしい。（30 代）

（３）川越市障害者相談支援センターの認知状況

	n	知っている	名前は聞いたことがあるが、知らない	知らない
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%
発達障害者	11	27.3%	27.3%	45.5%

（４）福祉サービスに関する情報の入手経路

	n	市・県の広報	市や県が発行する資料やパンフレット	市や県への問い合わせ	医療機関	テレビの広報番組	新聞や雑誌の福祉の関連記事	障害者の施設や団体等の機関紙やパンフレット	家族や仲間の話	その他	サービスの内容について知る手段がない
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	－	－	100.0%	－	－
発達障害者	11	36.4%	45.5%	18.2%	36.4%	9.1%	9.1%	9.1%	27.3%	9.1%	18.2%

（５）情報入手・コミュニケーションで困ること

	n	案内表示がわかりにくい	音声情報が少ない	文字情報が少ない	問い合わせ先にFAX番号等の記載がない	話をうまく組み立てられない、うまく質問できない	相手が介助者と話してしまう	複雑な文章表現がわかりにくい	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい	その他	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0%
発達障害者	11	27.3%	18.2%	18.2%	18.2%	90.9%	9.1%	45.5%	45.5%	9.1%	－

（６）パソコン・スマートフォン・携帯電話の利用状況

	n	パソコンを利用して、情報を入手している	携帯電話を利用して、情報を入手している	パソコンなどを利用して情報を得ることはない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	－	100.0%
発達障害者	11	72.7%	27.3%	9.1%	9.1%

9 福祉サービスについて

（１）福祉サービスの利用状況

	利用したことがある（または現在利用している）		知っているが、利用したことはない		制度を知らない		無回答	
	高次脳障害者 n=1	発達障害者 n=11	高次脳障害者 n=1	発達障害者 n=11	高次脳障害者 n=1	発達障害者 n=11	高次脳障害者 n=1	発達障害者 n=11
居宅介護(ホームヘルプサービス)	－	－	100.0%	27.3%	－	54.5%	－	18.2%
重度訪問介護	－	－	100.0%	18.2%	－	63.6%	－	18.2%
行動援護	－	－	100.0%	18.2%	－	63.6%	－	18.2%
短期入所（ショートステイ）	－	－	100.0%	36.4%	－	45.5%	－	18.2%
重度障害者等包括支援	－	－	100.0%	18.2%	－	63.6%	－	18.2%
療養介護	－	－	100.0%	18.2%	－	63.6%	－	18.2%
生活介護	－	－	100.0%	18.2%	－	63.6%	－	18.2%
自立訓練（機能訓練）	－	9.1%	100.0%	27.3%	－	54.5%	－	9.1%
自立訓練（生活訓練）	－	－	100.0%	27.3%	－	54.5%	－	18.2%
就労移行支援	－	18.2%	100.0%	27.3%	－	36.4%	－	18.2%
就労継続支援Ａ型	－	－	100.0%	27.3%	－	54.5%	－	18.2%
就労継続支援Ｂ型	－	18.2%	100.0%	9.1%	－	54.5%	－	18.2%
施設入所支援	－	－	100.0%	27.3%	－	45.5%	－	27.3%
共同生活介護（ケアホーム）	－	－	100.0%	27.3%	－	45.5%	－	27.3%
共同生活援助(グループホーム)	－	－	100.0%	36.4%	－	36.4%	－	27.3%
計画相談	－	9.1%	100.0%	18.2%	－	45.5%	－	27.3%
地域相談	－	－	100.0%	27.3%	－	45.5%	－	27.3%
補装具費の支給	－	－	100.0%	27.3%	－	45.5%	－	27.3%
自立支援医療(更生・育成・精神通院)	－	54.5%	100.0%	9.1%	－	18.2%	－	18.2%
相談支援事業	－	9.1%	100.0%	18.2%	－	45.5%	－	27.3%
コミュニケーション支援事業	－	－	100.0%	9.1%	－	72.7%	－	18.2%
日常生活用具費の支給	－	－	100.0%	18.2%	－	54.5%	－	27.3%
移動支援事業	－	9.1%	100.0%	18.2%	－	45.5%	－	27.3%
地域活動支援センター	－	9.1%	100.0%	18.2%	－	45.5%	－	27.3%
日中一時支援事業	－	－	100.0%	18.2%	－	54.5%	－	27.3%

（２）福祉サービスの利用意向

	n	居宅介護	行動援護	短期入所	自立訓練（機能訓練）	自立訓練（生活訓練）	就労移行支援	就労継続支援Ａ型	就労継続支援Ｂ型	共同生活援助（グループホーム）	計画相談
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
発達障害者	11	9.1%	9.1%	18.2%	27.3%	27.3%	9.1%	18.2%	18.2%	18.2%	9.1%

地域相談	自立支援医療（更生・育成・精神通院）	相談支援事業	コミュニケーション支援事業	日常生活用具費の支給	移動支援事業	地域活動支援センター	日中一時支援事業	無回答
－	－	－	－	－	－	－	－	100.0%
9.1%	27.3%	27.3%	18.2	9.1%	9.1%	9.1%	9.1%	45.5%

（３）サービス利用についての充足度

	n	現在、サービスは利用していない（必要がない）	十分、利用できていると思う	十分ではないが、ほぼ利用できていると思う	十分、利用できていないと思う	わからない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	100.0%	－
発達障害者	11	9.1%	18.2%	9.1%	45.5%	9.1%	9.1%

（４）必要なサービスを十分利用できていない理由

	n	支給要件に該当しないから	どのようなサービスがあるかわからないから	利用の仕方がわからないから	その他
発達障害者	5	20.0%	60.0%	40.0%	20.0%

10 将来の希望

（１）希望する日中の過ごし方

	n	自宅でのんびり過ごしたい	一般企業などで働きたい	施設内で就労したり、生産活動をしながら過ごしたい	職場探しや職場定着のための支援を受けたい	身体機能や生活能力向上のために必要な訓練を受けたい	創作活動などを行ったりするところで過ごしたい	学校に通いたい	無回答
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－	－	－	－	－	－
発達障害者	11	36.4%	54.5%	18.2%	27.3%	27.3%	9.1%	27.3%	18.2%

（２）希望する暮らし方

	n	現在と同じように暮らしたい	一人暮らしをしたい	誰かと一緒に暮らしたい	その他	わからない	無回答
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－	－	－	－
発達障害者	11	27.3%	27.3%	18.2%	9.1%	9.1%	9.1%

11 災害対策について

（１）災害時の避難について

	n	できる	できない	わからない	無回答
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－	－
発達障害者	11	36.4%	27.3%	18.2%	18.2%

（２）災害時の周囲への連絡・通報について

	n	できる	できない	わからない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%	－
発達障害者	11	36.4%	27.3%	18.2%	18.2%

（３）災害時に助けてくれる近隣者の有無

	n	いる	いない	わからない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%	－
発達障害者	11	9.1%	54.5%	18.2%	18.2%

（４）避難場所の認知状況

	n	実際に行ったことがある	場所は知っているが行ったことはない	知らない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	－	100.0%
発達障害者	11	18.2%	36.4%	18.2%	27.3%

（５）避難に関する準備状況

	n	家族で避難の方法や避難場所について話し合っている	学校や職場での避難訓練を行っている	特にしていない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%	－
発達障害者	11	27.3%	36.4%	45.5%	9.1%

（６）災害時に必要とする支援・援助

	n	必要な投薬や治療が受けられる	必要な補装具や日常生活用具を支給してくれる	救助や避難時に声かけをしてくれる	避難するのを手助けしてくれる	被害状況、避難所の場所等の情報を知らせてくれる	コミュニケーションがとれるよう手助けしてくれる	避難所の設備(トイレ等)を充実させる	特にない	無回答
高次脳機能障害者	1	100.0%	100.0%	－	－	－	－	100.0%	－	－
発達障害者	11	45.5%	18.2%	27.3%	18.2%	54.5%	45.5%	54.5%	9.1%	9.1%

12 差別・疎外感、権利擁護について

（１）差別や疎外感を感じることの有無

	n	ほとんど感じることはない	たまに感じる	いつも感じる	わからない	無回答
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－	－	－
発達障害者	11	－	54.5%	27.3%	9.1%	9.1%

（２）差別や疎外感を感じる具体的な場面

問 55 具体的には、どのようなときに、差別や疎外感を感じますか

※ 高次脳機能障害（n=1）は記入なし

差別や疎外感については、具体的に次のような記入があった。

- 相手の興味のあることを否定すると、注意されたりすることが多い。（20 代）
- 健常者と同じことができても、障害者扱いをされ、一緒にやらせてもらえない。（10 代）
- 障害と犯罪行為等を結びつけるような偏見。（20 代）
- 障害を理解してもらえない。（10 代）

（３）あんしんサポートねっとの認知状況

	n	利用したことがある（または現在利用している）	知っているが、利用したことはない	制度を知らない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%	－
発達障害者	11	－	9.1%	72.7%	18.2%

（４）あんしんサポートねっとの利用意向

	n	今は必要ないが、将来必要となったら活用したい	活用したいとは思わない	無回答
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－
発達障害者	11	81.8%	9.1%	9.1%

（５）成年後見制度の認知状況

	n	利用したことがある（または現在利用している）	知っているが、利用したことはない	制度を知らない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	100.0%	－
発達障害者	11	－	45.5%	45.5%	9.1%

（６）成年後見制度の利用意向

	n	今は必要ないが、将来必要となったら活用したい	活用したいとは思わない	無回答
高次脳機能障害者	1	100.0%	－	－
発達障害者	11	54.5%	36.4%	9.1%

13 行政への要望等

（１）障害者施策を進めるにあたって市が充実させていくべきこと

	n	在宅福祉サービスの充実	入所施設の整備	通所施設の整備	保健医療サービスの充実	地域で生活できる住宅の整備	暮らしやすい街づくり	療育・保育・教育の質の向上	働く機会の充実	一般企業以外での就労の場
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－
発達障害者	11	9.1%	9.1%	18.2%	9.1%	9.1%	18.2%	45.5%	63.6%	36.4%

地域での活動や余暇活動への参加のためのしくみづくり	相談体制の充実	経済的な援助の充実	障害のある人についての理解を深めるための活動	財産管理の援助	災害時における避難誘導体制の確立	障害のある人の国際交流	障害者団体の自立活動に対する行政の支援	無回答
－	－	－	－	－	－	－	－	100.0%
9.1%	27.3%	45.5%	45.5%	9.1%	9.1%	9.1%	18.2%	9.1%

（２）福祉サービス全般の満足度

	n	満足している	少し満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない	無回答
高次脳機能障害者	1	－	－	－	－	－	100.0%
発達障害者	11	18.2%	18.2%	36.4%	9.1%	9.1%	9.1%

（３）意見・要望等

最後に、この調査を通じて、選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望、計画に盛り込みたいことなどがありましたら、ご自由にお書きください。

※ 高次脳機能障害（n=1）は記入なし

意見・要望などとして、具体的に次のような記入があった。

- 発達障害者と健常者が仲良く協力し合える大学、短期大学があるとよい。（20 代）
- 自閉症の子供がいますが、この川越で不自由さを思うことはありません。市障害福祉課の職員の方はよい人ばかりで感謝しています。（10 代）
- 発達障害に対する誤解がまだまだ多くあると思う。特に障害と犯罪を結びつけるような主張。「自分が今まで接した障害者はこうだったから、あなたも同様の悪さをするはずだ」という無知からくる偏見もある。「社会に出てきちんと評価されている発達障害者の事例」を知ってもらうことが効果のある支援だと思う。（20 代）
- 医療費やカウンセリング費などの補助をいただけると生活が助かります。また、本当に具合が悪いとき、誰かに相談できるだけでも全然違うので、相談業務の拡充をお願いします。（30 代）
- 広汎性発達障害の子どもを育てています。学校では障害を全く理解していない指導がされています。本人がつらく苦しい思いを学校に伝えても、ほとんど理解されずにいます。具体的な例をあげてお願いしても、「○○さんはちゃんとやっている」「時間がとれない」「予算がない」という理由で取り合ってもらえません。これから教師になる人と現在教師をしている人には、発達障害の正しい知識を学び理解することを義務づけてほしい。（10 代）

川越市障害者支援計画アンケート調査
報告書

発行日　　平成２６年３月
発　行　　川越市障害者福祉課
　　川越市元町１丁目３番地１
電　話　　049-224-5785（直通）
ＦＡＸ　　049-225-3033